

中の諸村の中に人民抱瘡をせざるを常とする所總て二十莊に及へり栗栖川安宅城川市鹿野四番岡參見潮塔三前七川谷小川谷佐本太田色川小口川法里四村等諸莊皆抱瘡をせず三村花井三里入鹿北山三木赤羽等の莊の内偶他より傳染する者あればこれを外に移してにしせざる所あり村中に居らしめす山中に常に小屋を置き抱瘡人あれば其小屋に移して抱瘡ある村より來るものは村中に入る事を許さす別に道を開きて往來を爲しむ又郡中の風俗火葬をなさす大抵皆神宗にして他宗なし又國中には大升小升兩様ありて兼てこれを通用するに當郡中には小升のみを用ひて大升の通用なし是等郡中風俗の槩略にして其詳細に至りては數ふるに暇あらず大抵は各莊各村の條下に載たり○郡界に至りては古今異なる所二處あり新宮城の北二木島浦あり之を古熊野の限界とす二木島の東の出崎を橋崎といふ橋崎より西に續きし峯を付根坂といふ付根坂の南の谷を逢坂といふこれより山峯西に續きて大和國北山莊に至るこれを古紀伊國の界とす付根坂より北の方長島莊二郷村に至るまで古志摩國に屬す然れば志摩國は今の勢州シマカ檜柄莊より南に曲りて付根に至り皆志摩國英虞郡アトの地なりしなり今其地熊野に屬するものは堀内氏其地を併せ領せしに起るといふこれ海濱

狐界の異なるものなり山中郡界の異なるものは南は本國有馬莊より北は和州大臺山及姥峯まで通して北山莊の稱ありこれ皆古紀州の地なれば通して北山の稱あるなり衰亂の世豪族互に相掠奪して郡界終に亂れ一莊分ちて二となし紀州の北山和州の北山の稱あるに至れり其詳なるは北山郷の條下に辨せり

### 郡中古郷名

岡田

今の富田莊岩田郷安宅莊の地ならん岡田の事は富田莊論に辨す

牟婁

今の芳養田邊秋津萬呂三栖五莊の地ならん牟婁の事は郡論及萬呂莊論に辨す

栗栖

今の栗栖川城川市鹿野四番四莊の地ならん栗栖の事は栗栖川莊論に辨す

三前

今の周參見潮塔佐本三莊三前七川谷小川谷三郷の地なら

ひ三前の事は三前郷論に辨す

神戸

今の奥熊野の地なり神戸の事は三山總論に辨す

○牟婁郡

夫木抄

よみ人しらす

紀乃國のひろけはやせせひてほども

志先をそとへよもる空をあるあ

御集

後鳥羽院御製

むつぎみとむろろとやせせ手玉ゆら

とりあへせあけ山得とくさげ

よみ人えらげ

大和物語

紀の國乃むろの郡よゆく人と

風乃さふさもねとひえらせし

かへし

さの國れむろの郡み行取ら

君せふそほのあなとか恥しき

○熊野

萬葉

山部宿禰赤人

島隠吾洲來者之説倭邊上眞熊野之船

○熊野山

續古今集

前大僧正良瑜

そくどけし道狭つゝへて熊野山

君をそいのる萬代までみ

夫木抄

後鳥羽院御製

ささくみ我世はへあむみくほの

山乃櫻は咲そたよき

同

慈鎮和尚

もみちゝるとやあかしきみ熊野の

山乃あらしし鹿を取くある

同

大藏卿有家

熊野山雪吹おろは春風哉

花のぞ見てやうくひまのあく

月清集

まれよある道をさゆねし熊野山

みしむろしよりこのみそ染てき

○南山

新古今集

あひしせりける人の熊野よこもり待りけるみ

つらはしきる

安法法師

金葉集

みくほの、駒乃ほまけく青つゝら

よみ人しらす

君こそまろか得さしなりけれ

夫木抄

よみ人しらす

みくほ野にかるやみおもものあみりけて

ゆふてみおもふ君取ら取くに

千五百番歌合

宮内卿

身乃うさ夜のへてもやみよあしとへ取

あふく心をみくほの、月

山家集

西行

みくほの、ひあしきとはほらしかし

むしこれ板のとおふあゆみと

あらゝある熊野まうてのまるしをば

氷のおりようへき取りけり

柏玉集

後柏原院御製

みくほ野や昔ふみからほくるしさま

身へのへてこそ世狭いのりけめ

草根集

正徹

己の心みされしとてやみくほの、

苔路くるしき露をせくらら

世狭そむく山の南乃まゆ風に

あけの衣や夜寒あるらぞ

夫木抄

承明門院よりめされける熊野山の歌

従二位家隆

春はまけたのむ南乃御山より

おもひからけてよほふ梅の枝

○熊野川

續古今集

新宮よまうつとてくほの川よて

太上天皇御製

くほの川くさばとや瀬のみ取れさを

さばあみあられぬ波乃るよひ路

續古今集

熊野川乃船よて

同

くほ乃川せきりにとるる杉舟の

へかみよ袖れぬれみあるの取

御集

熊野川み夜とや取あらめくりほはむ

音にのみさくみゆららそらうき

壬二集

家隆

たませしあ君よちきりし友千鳥

みくほの川乃あらんのたりに

草根集

くほの川山乃昔路はうけられて

正

徹

雪にさをさば瀬々の杉舟

○熊野浦

菓葉集

柿本人麿

三熊野之浦乃濱木綿百重成心者雖念直不相鳴

此除濱ゆふをよめる歌多し物産の部に出せり

園花集

和泉式部

いくのへりほらしと人をみくほの

うらみし暇あら戀しゐるらぞ

新古今集

伊

勢

みくほの、浦よりをちにさくふね乃

それをとよそにるゑてつる暇

新勅撰集

入道前太政大臣

わこの原波をひとつよみくほの

うられ南と山乃ともあし

七條院大納言

みくほ乃うらとの松れ手向岬

いく世のけさ熱波の去らゆふ

風雅集

左近中将維盛熊野浦みてうせにけるよし  
聞てよみ待りける 建禮門院右京大夫

か歌しくもかゝるうためをみくほの

うらとれ波に身をしつめける

新拾遺集

藻壁門院但馬

あまをふねをれをとよそにみくほの

浦よりをちに遠さかりほ

堀川百首

河内

我のらとたもふ物から三熊野の

うらみてのみも過しつる暇

夫木抄

小辨

春は又うらに出てやみくほの

神乃の何ものいそあつむらむ

同

具親朝臣

風ふけとこと波おほまはるの

うらこの月みちどり暇くなり

同

よみ人しらね

みくほの、浦乃松原みかくれて

林はひとつみやおもひゐるらむ

内裏名所百首

後鳥羽院御製

みくほの、浦をりをちよの竹霧の

とれぬおもひをなほやへてむ

俊成卿女

へこのとをふたにのよへみ熊野の

浦をりをちは八重のしほ風

龍虎王子御合

太宰大貳藤原範家

月のけのまゆぐまにいとしく

つもる雪かどみくほの、濱

千首

為家卿

みくほ乃、浦ゆく船乃夕霞

とそにるゑつる春は来よけり

此餘數首あり擧るにいとまあらす

郡中莊並村名

芳養莊

總十二箇村

下村

小名井原 大屋

芋村

中村

紀伊嶺風土記 卷之六十九

牟婁郡 莊並村名

境村

小名田川谷

林村

小名原田

田尻村

西野々村

平野村

小野村

日向村

西山村

東山村

右芳養莊十二箇村を芳養組とす

田邊莊

總八箇村外田邊城下

西谷村

小名古町 目良

伊作田村

小名下 荒光 慈在

糸田村

小名尾崎

田邊城下

小名敷 小泉 志保古

湊村

神子濱村

小名跡浦 鳥巢 内浦

新莊村

瀬戸村

小名網不知

鉛山村

右田邊莊の中瀬戸村鉛山村を除きて總て六箇村これを  
田邊組とす

秋津莊 總三箇村

- 下秋津村 小名 左向谷 久保田
- 上秋津村 小名 下 中 竹藪 谷川 洞
- 秋津川村

右三箇村を秋津組とす

萬呂莊 總三箇村

- 下萬呂村
- 中萬呂村
- 上萬呂村

總六箇村

- 下三柄村 小名 長尾
- 中三柄村 小名 熊ノ川
- 上三柄村
- 長瀬村
- 馬我野村
- 伏菟野村

右萬呂莊三柄莊合せて三柄組とす

富田莊

總十四箇村

- 保呂村
- 内川村
- 社川村
- 平井村
- 高井村
- 溝端村
- 才野村 小名 鴨居 安久川
- 堅山村 小名 池田
- 中村 小名 中芝
- 吉田村 小名 伊勢谷 血深
- 十九淵村
- 芝村
- 高瀬村 小名 袋
- 朝來歸村 小名 見草

右富田莊十四箇村これを富田組とす

岩田郷

總七箇村

- 岩崎村 小名 野田

福定村 小名 高申  
兵生村  
右栗柄川莊の内北郡西谷眞砂高原を除て總九箇村是を  
三番組とす

安宅莊

總十八箇村

- 日置浦 小名 志原 笠前 市江
- 鹽野村 小名 居清 名立
- 安宅村
- 古屋村
- 大野村
- 矢田村 小名 追 芝 辻野
- 田野井村 小名 舟木
- 口谷村
- 安居村 小名 三箇川
- 寺山村
- 中島村
- 神宮寺村
- 向平村
- 久木村

栗柄川莊

總十三箇村

- 朝來村 小名 上 下 金屋 大内谷 皮田 千束
- 生馬村 小名 生馬谷 敷馬谷 山王
- 岩田村 小名 田熊 田熊川 尾崎
- 岡村 小名 岡川
- 市瀬村 小名 江川
- 鮎川村 小名 愛賢川 小川谷 巖野
- 右岩田郷七箇村これを朝來組とす
- 北郡村 小名 潮見 峠
- 西谷村
- 眞砂村 小名 向 栗
- 石舟村 小名 栗
- 芝村 小名 小谷 熊野川 澤 小野
- 鍛冶屋川村
- 温川村 小名 足立
- 内井川村 小名 下 谷
- 小松原村 小名 川合 中石谷
- 高原村 小名 谷川
- 大川村

宇津木村  
 玉傳村  
 大房村  
 小房村  
 城川莊  
 小川村  
 城村  
 矢野口村  
 矢谷村  
 小附村  
 大附村  
 市鹿野莊  
 市鹿野村  
 合川村  
 古屋村  
 佐田村  
 中野俣村  
 上露村  
 大瀬村

小名 川原谷  
 總六箇村  
 總二十八箇村  
 小名 瀬

竹垣内村  
 北谷村  
 下露村  
 谷野口村  
 串川村  
 九川村  
 長瀬村  
 伏菟野村  
 原村  
 五味村  
 下木守村  
 上木守村  
 面川村  
 熊野村  
 大谷村  
 向山村  
 竹野平村  
 深谷村

小名 小本守  
 小名 江須ノ川

小谷村  
 里谷村  
 四番莊  
 下川下村  
 下川上村  
 和田村  
 平瀬村  
 大内川村  
 近露村  
 野中村  
 道湯川村  
 右市鹿野莊の中市鹿野村合川村古屋村佐田村中野俣村  
 上露村大瀬村竹垣内村北谷村柿垣内村十箇村を除き十  
 八箇村四番莊八箇村に栗栖川莊の内北郡村西谷村真砂  
 村高原村の四箇村を加へせて三十箇村を四番組とす

小名 竹又  
 小名 階平  
 小名 西儀 宇井  
 小名 十丈 下野川  
 小名 相坂 湯田和  
 小名 三越 柳野河 熊瀬河  
 總八箇村  
 小名 成瀬 下戸川 朝来 上戸川  
 周參見浦  
 大間川村  
 小河内村

口和深村  
 和深川村  
 見老津浦  
 江住浦  
 里野浦  
 右安宅莊に旧邊莊瀬戸村鈴山村二箇村市鹿野莊市鹿野  
 村合川村古屋村佐田村中野俣村上露村大瀬村竹垣内村  
 北谷村柿垣内村十箇村周參見莊周參見浦大間川村口和  
 深村小河内村和深川村五箇村城川莊小川村城村矢野口  
 村矢谷村小附村大附村六箇村を加へ合して四十一箇  
 村これを周參見組とす

湖崎莊  
 和深浦  
 川子浦  
 江田浦  
 川並浦  
 川並上村  
 有田浦  
 有田上村

總十八箇村  
 小名 阿指 鹿瀬上

吐生村 東雨村 二部村 二色村 小名<sup>フツ</sup> 小名<sup>ハシ</sup> 橋杭  
 岡野川村 串木浦 出雲浦 上野浦 姫川村 伊串村  
 右湖崎莊十八箇村の中姫村姫川村伊串村三箇村を除き  
 周參見莊見老津村江住村里野浦三箇村佐本莊大谷村防  
 已村大鐘村里川村四箇村を加へ合して二十二箇村これ  
 を江田組とす

三前郷 總三十二箇村  
 西向浦 神川村 古座浦

津荷村 大島浦 須江浦 樫野浦 中湊村 高川原村 池山村 池山村 宇津木村 古田村 月野瀬村 川口村 直見村 高瀬村 岡野村 大柳村 鶴川村 中雨村 一雨村

立合村 峯村 立合川村 相瀬村 日南川村 洞尾村 藏土村 大川村 三尾川村 南平村  
 小名<sup>フツ</sup> 小名<sup>ハシ</sup> 橋杭  
 右三前郷三十二箇村の中大川村三尾川村南平村三箇村  
 を除き湖崎莊姫村姫川村伊串三箇村小川谷郷中崎村猿  
 川村山手村長洞尾村四箇村色川郷楠村檜山村高野村直  
 柱村坂足村檜原村六箇村太田莊下田原村を加へ合して  
 四十三箇村これを古座組とす

七川谷郷 總八箇村  
 佐田村 下露村 西川村

松根村 添野川村 井野谷村 平井村 成川村 小川谷郷 總六箇村  
 中崎村 猿川村 山手村 長洞尾村 大桑村 宇筒井村  
 右七川谷郷に小川谷郷大桑村宇筒井村二箇村三前郷大  
 川村三尾川村南平村三箇村佐本莊長追村深谷村根倉村  
 平野村西川村中村中川村追川村西栗垣内村東栗垣内村  
 十箇村色川郷小森川村田川村赤木村三箇村を加へ合し  
 て二十六箇村これを三尾川組とす

佐本郷 總十四箇村  
 長追村

深谷村 根倉村 平野村 西川村 中川村 中川村 追川村 西栗垣内村 東栗垣内村 大谷村 防己村 里川村 大鎌村 大田莊 下田原浦 上田原村 佐部村 浦神村 莊村

總十六箇村

和田村 市屋村 八尺鏡野村 中里村 大居村 非鹿村 中野川村 高遠井村 長井村 粉白村 下里村 右大田莊十六箇村の中下田原村を除き那智莊森太地二川橋川湯川五箇村を加へ合して二十箇村これを大田組とす

總十二箇村

小名 夏山

湯川村 天満村 勝浦村 濱宮村 狗子川村 川關村 井關村 市野々村

小名 大勝浦

小名 永野

小名 三瀬

右那智莊十二箇村の中森太地二河橋川湯川狗子川六箇村を除き残り六箇村を那智組とす

那智十二所権現

總十八箇村

色川郷 平野村 檜曾原村 小坂村 口色川村 大野村 田垣内村 熊瀬川村

平野村枝那

中川村 小匠村 楠山村 高野村 直柱村 坂足村 櫻原村 赤木村 田川村 小森川村

小名 山手川

右色川郷十八箇村の中楠山高野直柱坂足櫻原小森川田川赤木九箇村を除き残り九箇村を色川組とす

總五箇村

小名 淡

佐野莊 宇久井村 高津氣村 佐野村 木川村 三輪崎村

右佐野莊に那智莊狗子川村を加へ合して六箇村を佐

野組とす

新宮

新宮城下

新宮村方

新宮十二所権現

淺里郷

南檜杖村

北檜杖村

相賀村

淺里村

口高田村

西高田村

里高田村

上熊野地 下熊野地 廣津野 皮田

總七箇村

小名乙基 小名三郎 小名三郎

新田 依石

右淺里郷七箇村これを淺里組とす

三村郷

和氣村

田長村

山木村

總五箇村

小名三郎 小名三郎

和氣村 能城村

能城村 日足村

小名三郎 相須神丸

右三村郷五箇村に花井莊楊枝楊枝川二箇村に小口川郷

花井莊 總八箇村

楊枝村

楊枝川村

小船村

宮井村

相須村

四龍村

花井村

九重村

小口川郷

棕井村

赤木村

長井村

西村

東村

楊枝村 楊枝村

小名三郎 小名三郎

小名三郎 小名三郎

總十箇村

小名三郎 小名三郎

大山村 鎌塚村 瀧木村 北川村 畝畑村

右小口川郷十箇村の中棕井村を除き殘九箇村を大山

組とす

四村莊

諸川村

高山村

小津荷村

大津荷村

津荷谷村

耳打村

皆瀬川村

寔尾谷村

田代村

大野村

和田村

總二十四箇村

小名三郎 小名三郎

大野村 能城村

能城村 日足村

小名三郎 相須神丸

右三村郷五箇村に花井莊楊枝楊枝川二箇村に小口川郷

花井莊 總八箇村

楊枝村

楊枝川村

小船村

宮井村

相須村

四龍村

花井村

九重村

小口川郷

棕井村

赤木村

長井村

西村

東村

靜川村 野竹村

小名三郎 小名三郎

湯峯村

小名三郎 小名三郎

久保野村

小名三郎 小名三郎

平治川村

曲川村

檜葉村

小々森村

皆地村

武住村

大瀬村

小名三郎 小名三郎

小名三郎 小名三郎

右四村莊二十四箇村の中高山小津荷二箇村を除き大津  
荷津荷谷耳打皆瀬川寔尾谷田代大野和田靜川野竹十箇  
村を受川組とし湯峯渡瀬下湯川檜葉皆地曲川平治川小  
々森武住大瀬久保野十一箇村に三里郷の中本宮村を加  
へ合して十二箇村を本宮組とす

三里郷

總十一箇村



本宮村  
一本松村  
伏拜村  
三越村  
大居村  
上切原村  
切畑村  
土河屋村  
篠尾村  
西敷屋村  
東敷屋村

右三里郷の中本宮篠尾西敷屋東敷屋四箇村を除き總七箇村を三里組とす

本宮十二所権現  
入鹿莊  
湯ノ口村  
島津村  
木津呂村  
玉置口村

小名三ノミ  
小森  
發心門  
道ノ川

小名八木尾谷  
小名小井  
鹿淵

總九箇村  
小名河根  
小名小川口

板屋村  
大河内村  
小栗須村  
大栗須村  
丸山村

右入鹿莊の中板屋大河内大栗須丸山四箇村を除き花井莊四瀧三箇村を加へ合して八箇村これを川内組とす

西山郷  
赤木村  
長尾村  
平谷村  
尾川村  
赤倉村  
粉所村  
長井村  
大沼村  
下尾井村  
小森村  
小松村

小名十ノ頭  
三井良

小名ナガ  
長野

小名カハバ  
小名川畑

小名大倉谷

小名丹倉

小名大川原  
大河原

小名上小瀬  
下小瀬

小名上小松  
下瀧

總十四箇村

竹原村  
花知村  
七色村

右西山郷の中赤木長尾平谷尾川赤倉粉所長井七箇村入鹿莊板屋大河内大栗須三箇村大野莊下桐原村尾呂志莊矢野川片川二箇村總十四箇村是を入鹿組とし西山郷の内大沼下尾井小森小松竹原花知七色七箇村是を新宮北山組とす

北山郷  
神上村  
長原村  
柳谷村  
大井谷村  
桃崎村  
湯谷村  
寺谷下番村  
寺谷上番村  
和田村  
神山村

小名相須  
竹原村枝郷  
竹原村枝郷  
小名田井本

總十六箇村  
小名河瀬

小名イカガ  
龍谷

小名カケタ  
高尾谷

野口村  
佐渡村  
小坂村  
小股村  
大股下番村  
大股上番村

右北山郷十六箇村これを北山組とす

大野莊  
鮎田村  
高岡村  
永田村  
小畑村  
大里村  
井内村  
平尾井村  
坂松原村  
下桐原村  
上桐原村

小名ササガ  
平

小名カケタ  
田代

大里村枝郷  
小名田代

大里村枝郷  
小名田代

總十箇村

紀伊續風土記 卷之六十九 牟婁郡 莊並村名

右大野莊の中下桐原村を除き残り九箇村これを相野谷

六二三

組とす

四箇莊 總四箇村

成川村 小名七瀬

鶴殿村

神内村

井田村 小名上野

右四箇莊に有馬莊引作村を加へ合して五箇村是を成川組とす

尾呂志莊

總七箇村

矢野川村

片川村

川瀬村

栗柄村

上野村

坂本村

西原村

小名通谷 小谷 新田拾平  
小名小片川 風吹峠

右尾呂志莊の中矢野川片川二箇村を除き有馬莊中立村を加へ合せて六箇村これを尾呂志組とす

有馬莊 總十三箇村

波田須村

新鹿村

遊木浦

曾根莊 總八箇村

二木島浦

二木島里浦

市母浦

須野浦

梶賀浦

曾根浦

賀田村

古江浦

右曾根莊に四箇莊木本大泊古泊波田須新鹿遊木六箇村

三木莊三木里名柄小脇三木盛松五箇村有馬莊神木村を

加へ合して二十箇村是を木本組とす

三木莊 總八箇村

三木里浦

名柄村

小脇村

阿田和村

引作村

中立村

下市木村

上市木村

志原村

金山村

久生屋村

神木村

山崎村

口有馬村

奥有馬村

井土村

馬組とす

右有馬莊の中中立神木引作三箇村を除き總十箇村を有

馬組とす

木本郷 總六箇村

木本浦 小名切立

大泊村

古泊浦

三木浦

盛松浦

早田浦

九木浦

行野浦

尾鷲郷 總十箇村

矢濱村

向井村

大曾根浦

林浦

南浦

中井浦

野地村

堀北浦

天満浦

水地浦

右尾鷲郷に三木莊早田九木行野三箇村相賀莊須賀利浦

を加へ合して十四箇村これを尾鷲組とす

相賀莊 總十二箇村

古木村 小名ソノリ 渡利  
 便山村 小名ソノリ 木津  
 小山村 小名ソノリ 長濱  
 引本浦 小名ソノリ 長濱  
 須賀利浦 小名ソノリ 生原  
 矢口浦 小名ソノリ 生原  
 小浦村 小名ソノリ 阿間新田 前住  
 船津村 小名ソノリ 阿間新田 前住  
 中里村 小名ソノリ 島居崎  
 上里村 小名ソノリ 島居崎  
 河内村 小名ソノリ 島居崎  
 馬瀬村 小名ソノリ 島居崎  
 右相賀莊の中須賀利浦を除き總十一箇村是を相賀組とす

海野浦 小名ソノリ 古里  
 長島浦 小名ソノリ 中島 出垣内  
 二郷村 小名ソノリ 片上  
 錦浦 小名ソノリ 河内  
 赤羽郷 總五箇村  
 前山村 小名ソノリ 下地 志子  
 中桐村 小名ソノリ 三口  
 大原村 小名ソノリ 三ノ口  
 十須村 小名ソノリ 浅柄 下河内  
 江龍村 小名ソノリ 中原  
 右長島郷赤羽郷合せて十三箇村を長島組とす

郡中田畑總數  
 田畑高 十萬二千八百七十二石餘

郡中戸口總數  
 家數 三萬二千三百四十軒餘  
 人數 十四萬九千七百十人餘

山

牟婁郡中皆山にして尺地寸塊なしといふとも虚語とすへからざる形状あり或は峻嶽雲表に猝抜して峯々其高きを争ひ或は巖嶽連綿して數里の間に亘りて其窮まる所を知らず波瀾の溟海に起るか如く兎孫の大翁に侍坐するに似たり或は互に持角の勢を張るあり或は各角立して相降らざるの態をなすありよく雲霧を吐納して陰晴須臾に改まりよく風雨を起して隠見出没變化常なし其巖態奇狀目を驚かし神を傷ましむる如き壯觀に至りては必深奥幽僻人跡至りかたき地にありて其攀躋登陟の險をかたれば十歩九折にして歩々相過る事を得ず手に巖角を攀ち足は雲霧を踏み唯轉墜を戒めて他を顧るに暇あらず僅に半峯に至れば中天の表に出るたもひをなせり凡山中の道路皆此に類すといふ山の峻峻なるものは測整これに従ひて亦奇態あり或は絶壁數百仞削り成すの勢あり或は巖々怒張して熊羆虎豹相搏の形をなす千億萬狀形の像るへきやうなく言のいふ事あたはざる所其巖略は各所の條下に書すを以てこゝに其最峻秀なるものを探ひて在る所を擧ぐ高大なるものといへども平々たるものは略し

て書さす

應尾山 秋津莊と三瀬莊との間にあり  
 楨山 三瀬莊と栗瀬莊との間にあり  
 分龍山 栗瀬川莊石船村にあり  
 虎峯 日高郡南郡莊と牟婁郡三瀬莊との間にあり  
 笠塔峯 栗瀬川莊にあり  
 安塔峯 栗瀬川莊と兵生村と和州十津川との間にあり  
 三日森 四番莊野中村にあり  
 嶽山 四番莊和田村にあり  
 三森 市鹿野莊熊野村と四番莊下川上村との間にあり  
 半作峠 四番莊下川村にあり  
 入道峯 市鹿野莊木守村にあり  
 法師峯 四番莊下川上村にあり  
 大塔峯 東江七川谷郷西は四番莊南は市鹿野莊北は四村莊の間にあり  
 妙法山 那智莊と色川莊との間にあり  
 大雲取山 色川莊と小口川郷との間にあり  
 小雲取山 小口川郷と四村莊との間にあり  
 飯盛山 四村莊野竹村にあり  
 果無越嶺 三里郷と和州十津川との間にあり

- 入鹿一族山 入鹿莊にあり
- 武那山 西山郷と和州十津川郷との間にあり
- 保色山 北山莊にあり
- 八木山 三木莊と尾鷲郷との間にあり
- 大臺山 和州勢州紀州三國の境にあり
- 藤掛山 赤羽郷江紀村と勢州大杉谷の境にあり

川

牟婁郡中川最多し其小なるもの數ふるに暇あらず今其大なるものをこゝに書す凡郡中の諸村皆川に沿ひて村居をなすを以て川を擧れば諸村皆其中にあり故に併せて諸莊を附記す

- 芳養川
- 秋津川 三橋川
- 富田川
- 安宅川 日置川といふ
- 古座川
- 太田川
- 那智川

○郡中最西にありて日高郡と接するものを芳養莊といふ莊の中央芳養川あり源は北の方日高郡の界より出て流るゝ事三里許南の方海に入る芳養莊の諸村其左右にあり川小にして舟楫を通するに足らず

○芳養川の東にあるを秋津川といふ源は北の方栗栖川莊の界より出て南の方田邊に至りて海に入る流るゝ事總て四里許秋津莊其左右にあり川小にして舟楫を通するに足らず又三橋川あり源は栗栖川莊の界より出て流るゝ事三里許萬呂村に至りて秋津川に落つ秋津萬呂二莊の諸村其左右にあり

○秋津川の東にあるを富田川といふ源は北の方大和國十津川の界より出て栗栖川莊南の方富田莊中村に至りて海口に入る流るゝ事總て十八里許舟楫通する事七里栗栖川郷岩田郷富田莊の諸村其左右にあり栗栖川にては栗栖川といひ岩田にては岩田川といひ富田にては富田川といふ

○富田川の東にあるを安宅川といふ又日置川といふ此川源數箇所あり西にあるを近露川といふ其東にあるを下川といふ

ふ又其東にあるを熊野川といふ又其東にあるを前川といふ又其東南にあるを將軍川といふ此五の川大抵市鹿野莊合川村に至りて一となり下の方安宅莊に入て安宅川となり南の方日置浦に至りて海に入る源より海口に至りて遠きものは十八九里近きもの十五六里舟楫通する所七里四番市鹿野安宅の諸莊皆其中にあり又城川あり將軍川の南にありて西に流れて安宅川に落つ城川莊其左右にあり

○安宅川の東古坐川あり此川源三あり西にあるを佐木川といふ佐木莊其左右にあり佐木川の東に在るを七川といふ七川莊其左右にあり又其東にあるを小川谷といふ小川谷莊其左右にあり此三の川一となり潮崎莊に入り南の方古座浦に至りて海に入る流るゝ事總て二十里許舟楫通する事七里餘

○古座川の東にあるを太田川といふ源は色川莊大雲取の峯より出て東南の方太田莊下里浦に至りて海に入る流るゝ事十五六里舟楫通すること五里許色川太田二莊其左右にあり

○太田川の東にあるを那智川といふ源は那智瀧より出て流るゝ事四里許濱宮に至りて海に入る那智莊の諸村其左右にあり川小にして舟楫を通するに足らず

○那智川の東にあるを熊野川といふ郡中第一の大河なり源

二あり一は大和國十津川より來り一は大和國北山莊より來り花井莊に至りて合ひて一となり新宮に至りて海に入る流るゝ事總て三十四五里舟楫通する所十津川まで十六里北山川まで九里餘三里四村淺里三村花井入鹿西山北山大野谷尾呂志新宮四箇十二莊を總括す其支流の熊野川に落合ふ大なるもの三あり上にあるを空川といふ其源四村莊靜川村に發して流るゝ事六里許請川村に至りて熊野川に落つ舟楫通する事四里許空川の下にあるものを小口川といふ其源小口川莊瀧本村に發して流るゝ事九里許三村莊に至りて熊野川に落つ舟楫通すること七里餘小口川莊其左右にあり小口川の下にあるを大野川といふ源は大野莊城光山より出て流るゝ事四里餘船田村に至りて熊野川に落つ舟楫通する事二里許其餘支流の小なるもの皆數ふるに暇あらず芳養川よりここに至りて大抵川皆北より南に流れて海に入る唯熊野川乾より巽に向ひて流る熊野川より北は川皆小にして大きなものなく其流れ皆西より東に向ひて海に入る

○熊野川の北尾呂志川あり流るゝ事五里許有馬莊阿田和村に至りて海に入る舟楫通する事一里許これより北曾根莊加太川あり流るゝ事三里許川小にして舟楫を通するに足らず

○相賀莊相賀川あり同莊馬瀬村の山中に出て流るゝ事三里引本浦に至りて海に入る舟楫通する所二里許此川小なれども海潮川上まで通する故に舟楫の通ひあり長島郷赤羽川あり源は赤羽谷の奥勢州の界より出て流るゝ事四里許長島浦に至りて海に入る川小にして舟楫を通するに足らず

郡中名勝舊蹟

出立松原	田邊莊西谷村
牟婁津	田邊莊田邊城
白良濱	田邊莊瀬戸村
牟婁湯	田邊莊鉛山村
秋津里	秋津莊
三柄	三柄莊
八上	岩田郷岡村
岩田川	岩田郷
石舟川	栗栖川莊
瀧尻	栗栖川莊芝村
高原	栗栖川莊高原村

岩神	四番莊道湯川村
和深山	周參見莊口和深村
鹽崎浦	鹽崎莊
王浦	大田莊粉白村
牟婁崎	那智莊太池村
那智出湯	那智莊湯川村
渚宮	那智莊淡宮村
那智	那智山
那智瀧	那智山
雲取	色川郷
佐野	佐野莊佐野村
三輪崎	佐野莊三輪崎村
天石盾	新宮
熊野村	新宮
御舟島	新宮
湯峯	四村莊湯峯村
七越峯	三里郷本宮村
音無川	三里郷本宮村
發心門	三里郷三越村

三越	三里郷三越村
有馬村	有馬莊
花窟	有馬莊口有馬村
四十九院窟	地窟
橋崎	曾根莊市母浦
荒坂津	曾根莊二木島浦
丹敷	長島郷錦浦
三木島	三木莊

郡中瀑布

三階瀧	市鹿野莊下木守村
雨乞瀧	市鹿野莊熊野村
牛鬼瀧	四番莊下川上村
黒木瀧	四番莊下川上村
那智一瀧	那智山
那智二瀧	那智山
那智三瀧	那智山
辨瀧	那智山
布引瀧	那智山

新客瀧	那智山
内陣瀧	那智山
奥滑瀧	那智山
口滑瀧	那智山
松尾瀧	那智山
分散利瀧	那智山
念佛瀧	那智山
水谷瀧	浅里郷浅里村
下谷瀧	浅里郷浅里村
飛雪瀧	浅里郷浅里村
白見瀧	浅里郷浅里村
浅里布引瀧	浅里郷浅里村
蛸和田瀧	浅里郷浅里村
銚子口瀧	三村郷田長村
腹白瀧	三村郷山木村
大山大瀧	小口川郷瀧本村
平治瀧	四村莊平治川村
入鹿布引瀧	入鹿莊大河内村
荒瀧	入鹿莊大河内村

- 松岡瀧 入鹿莊丸山村
- 女夫瀧 西山郷尾川村
- 雨瀧 西山郷赤倉村
- 足谷瀧 西山郷粉所村
- 金繁瀧 西山郷下尾井村
- 瀬戸瀧 西山郷七色村
- 清淨瀧 大野莊鮎田村
- 矢筈瀧 大野莊鮎田村
- 行瀧 大野莊鮎田村
- 鮎田布引瀧 大野莊鮎田村
- 窪河瀧 木本郷新鹿村
- 尾鷲黒瀧 尾鷲郷堀北浦
- 尾鷲滝谷瀧 尾鷲郷堀北浦
- 板手瀧 相賀莊船津村
- 大籠瀧 相賀莊船津村
- 小笠原瀧 相賀莊船津村
- 三浦大瀧 長島郷三浦
- 三浦黒瀧 長島郷三浦
- 槐瀧 赤羽郷前山村

榎瀧 赤羽郷前山村

郡中温泉

- 湯崎湯 田邊莊鉛山村
- 椿湯 富田莊朝來歸村
- 湯川湯 那智莊湯川村
- 川湯 四村莊皆瀬川村
- 湯蜂湯 同莊湯峯村

郡中古祠

- 熊野早玉神社 三山
- 熊野坐神社 三山
- 海神社

- 熊野夫須美神社 三山
- 大佐神社 有馬莊井土村
- 飛瀧神社 那智山
- 瀧姫神社 三前郷古田村

右延喜式及本國神名帳載する所の神なり延喜式本國神名帳に天  
手力男神社を載す  
今其神社名草郡にあり故  
に當郡に省きて載せず

- 海神社
- 安宅比神社
- 御食海神
- 豊海神
- 底海神

安宅莊日置浦出月宮是なるへし

郡中熊野街道王子社

- 本宮十二所權現社 三里郷本宮村
- 新宮十二所權現社 新宮
- 那智十二所權現社 那智莊
- 芳養八幡宮 芳養莊林村
- 芳養日向明神社 芳養莊日向村
- 荒光稻荷社 田邊莊伊作田村
- 關鷄權現社 田邊莊湊村
- 潮御崎神社 潮崎莊上野浦
- 神倉社 新宮
- 飛鳥社 新宮
- 御木明神社 三村郷和氣村
- 産田神社 有馬莊與有馬村

右九社本國神名帳載する所の神なり前の三社に合して

總て十二社

- 芳養王子社 芳養莊下村
- 出立王子社 田邊莊西谷村
- 秋津王子社 秋津莊下秋津村
- 丸王子社 萬呂莊萬呂村
- 三柄山王子社 三柄莊下三柄村
- 八上王子社 岩田郷岡村
- 稻葉根王子社 同郷岩田村
- 一瀬王子社 同郷市瀬村
- 瀧尻王子社 栗栖川莊芝村
- 十丈王子社 四番莊大内川村
- 大坂王子社 同莊近露村社今廢す
- 近露王子社 同村
- 比曾原王子社 同莊野中村
- 織櫻王子社 同村
- 中川王子社 同村社今廢す

小廣王子

同村社今廢す  
御幸記になし

岩神王子

同莊道湯川村社今廢す

猪鼻王子

三里郷三越村社今廢す

發心門王子

同村社今廢す

水飲王子

同村社今廢す

伏拜王子

同郷伏拜村御幸記  
になし

多富氣王子社

那智山御幸記  
になし

市野々王子社

那智莊市野々村御幸記  
になし

濱宮王子社

同莊濱宮村御幸記  
になし

佐野王子

佐野莊佐野村社今廢す御幸記  
になし

郡中古刹

那智如意輪堂

那智山

補陀洛寺

那智莊濱宮村

妙法山阿彌陀寺

那智山

郡中街道

○熊野中邊路

○熊野大邊路

事は總論及田邊莊田邊城下の條に載す

○伊勢街道

事は新宮城下の條に載す

○桃崎道

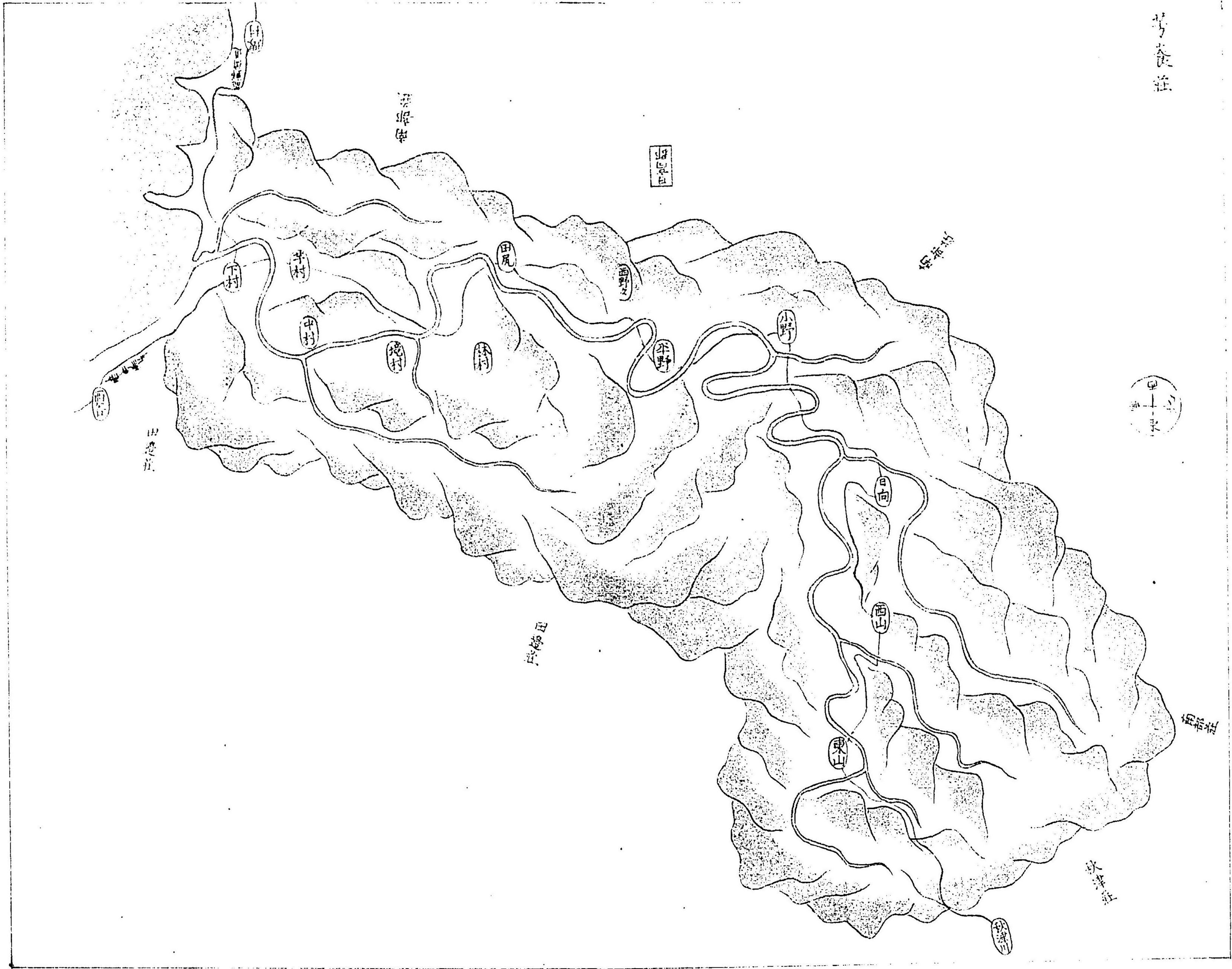
事は北山郷桃崎村の條に載す

○果無道

事は三里郷切畑村の條に載す

○大峯道

事は三里郷本宮村の條に載す



山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄



山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄

山邊庄



紀伊續風土記卷之七十

牟婁郡 第二

芳養莊 波也 總十二箇村

芳養莊總て十二箇村牟婁郡の西の端にありて乾は日高郡南部莊と相接し東は田邊秋津二莊に連なり南の方海に臨む其廣袤東西一里許南北四里許古は莊中三に分れて小野日向西山東山四箇村を上芳養莊といひ日向村に在り日向明神を産土神とす是高野山金剛峯寺の領なり 事は日向村千福林田尻西野々平野四箇村を中芳養莊といひ林村に在す八島明神を産土神とす下村芋村中村境村四箇村を下芳養莊といひ中村に在す八王子社を産土神とす後中莊上莊は城州男山八幡宮の領となりて男山八幡宮を林村八島明神の社地に勸請して入箇村の産土神とせしより入箇村總て下上莊と稱へて是より中芳養の名廢す此莊一溪の間にあり南北に一道の溪流を通して芳養川といふ源は東山の古屋谷といふより出て流ること三里下村に至りて海に入る下村一村は海濱にありて農漁相雜る芋村より上は川を挟み山に傍ひて村をなす中間

紀伊續風土記 卷之七十 牟婁郡 芳養莊 下村

諸村土地狹からす多くは平田にて沃土の形あれども田に餘地なく山淺くして山澤の利に乏しく家居宜しからす貧村なり一莊皆田邊城に隸す

下村

志毛 小名井原 大屋

田畑高 三百五十九石五斗九升八勺  
家數 二百九十二軒  
人數 千二百八人

日高郡南部莊境村の巽二十五町にあり 熊野街道の御抽櫃石村居を以て郡の堺とす 海に濱して熊野街道にあり莊の下にて海口にあるを以て下村の名あり當村漁戸商賈相交り造酒家もあり又饗節を製す小名二つあり井原大屋といふ皆芳養川を隔て、村の西にあり村の東の方濱沿ひに松原といふ地あり舊は芳養莊の地なりしに今は田邊莊に屬す

○若一王子社 境内周百二十間

攝社二社 愛宕社 庚申社 末社三社 若宮 八王子社 后御前社

拜殿

村中にあり下芳養莊四箇村 下村芋村中村境村 の産土神にて御幸記に芳

紀伊續風土記卷之七十

牟婁郡 第二

芳養莊 波也 總十二箇村

芳養莊總て十二箇村牟婁郡の西の端にありて乾は日高郡南部莊と相接し東は田邊秋津二莊に連なり南の方海に臨む其廣袤東西一里許南北四里許古は莊中三に分れて小野日向西山東山四箇村を上芳養莊といひ日向村に在り日向明神を産土神とす是高野山金剛峯寺の領なり事は日向村千福林田尻西野々平野四箇村を中芳養莊といひ林村に在す八島明神を産土神とす下村芋村中村境村四箇村を下芳養莊といひ中村に在す八王子社を産土神とす後中莊上莊は城州男山八幡宮の領となりて男山八幡宮を林村八島明神の社地に勸請して八箇村の産土神とせしより八箇村總て下上莊と稱へて是より中芳養の名廢す此莊一溪の間にあり南北に一道の溪流を通して芳養川といふ源は東山の古屋谷といふより出て流ること三里下村に至りて海に入る下村一村は海濱にありて農漁相雜る芋村より上は川を挟み山に傍ひて村をなす中間

諸村土地狭からす多くは平田にて沃土の形あれども田に餘地なく山淺くして山澤の利に乏しく家居宜しからす貧村なり一莊皆田邊城に隸す

下村

志毛 小名井原 大屋

田畑高 三百五十九石五斗九升八勺  
家數 二百九十二軒  
人數 千二百八人

日高郡南部莊境村の巽二十五町にあり熊野街道の側御嶺石を以て郡の界とす村居海に濱して熊野街道にあり莊の下にて海口にあるを以て下村の名あり當村漁戸商賈相交り造酒家もあり又饗節を製す小名二つあり井原大屋といふ皆芳養川を隔て、村の西にあり村の東の方濱沿ひに松原といふ地あり舊は芳養莊の地なりしに今は田邊莊に屬す

○若一王子社 境内周百二十間

攝社二社 庚申社 末社三社 八王子社 后御前社

拜殿

村中にあり下芳養莊四箇村下村芋村中村境村の産土神にて御幸記に芳

養王子とあるは是なり湯川家領主のとき寄附の田五町餘ありしとそ神主人四人あり古文書神寶の類寶永四年津藩にて失流すといふ

○小祠五社

稻荷社 社地周四十間村の北にあり氏神の社といふ 衣美須社 社地周八間村中濱端にあり  
衣美須社 龍神社 二社共に小名井原の濱端にあり社地周八間  
玉置山権現社 井原にあり社地周八間

○善徳寺 海賢山 淨土宗西山派名草那棍取村總持寺末

村中にあり本堂方五 釣鐘堂僧坊等備はる天正中湯川式部大輔建立すといふ

○長 願 寺 井原にあり山臥の支配なり

○廢極樂寺跡 村の東にあり元龜天正の頃遺構すといふ

○泊山ノ城跡

井原の西にあり南の方海に臨みて熊野街道の側にあり東西三十間南北四十五間湯川氏の城なり天正中湯川氏亡びて大和納言より杉若越後守をして城守とす 亦は田邊城の條及び日高郡小松原村の條に 莊中砦の跡甚多し皆湯川氏の築とし砦といふ

○舊家

目良 幸 作

熊野別當湛増の後に田邊城下田所彌三左衛門と同家なり

芋 村

伊 毛

田畑高 二百石六斗三升四合

家 數 三十七軒

人 數 二百六人

下村の北五町にあり村居山手にあり舊は南の平地にありしに寶永四年の津浪に流亡して今の地に移るといふ村の名義詳ならず 今も舊地に三戸あり 村の坤に皮田あり字を雅計といふ

○大將軍社 社地周十二間村の東にあり

○孝女

村中わさといふ女母に事へて至孝なり享和二年領主より米三俵を與へて褒賞す

中 村

奈 迦

田畑高 二百十八石三升三合

愛宕社

社地周十二間村の巖山ノ上にあり 祇園社 村の北の山の内にあり

尾山明神社

秋葉社 二社社地山周一町二十間田川谷にあり社前に押分岩といふ奇巖あり高さ二間餘長

六間許雨断して其間幅一間許開きて社前への道とす

○不動堂

依葉社の側にあり不動の木像二軀を安す

○不動巖

田川谷民舎の長三町許にあり巖腹洞をなし口狭くして少行けは中や、廣く前而巖隙より日光漏れ入りて明なり内に不動の木像を安せし故不動巖といふ今其不動を村中の不動堂に移す

○砦 跡

村の西の方二町許峯山といふ處にあり東西三十間餘南北二十四間餘湯川氏の築く處といふ

○水取山

田川谷にあり山ノ上より望めは田邊秋津二莊眼底にあり昔砦を搦へし所といふ山高くして水に乏しく麓より水運びしより水取山の名あり

林 村

波世志 小名原田

境 村

左邊比 小名田川谷

田畑高 二百八十二石一斗三升四合

家 數 七十六軒

人 數 三百六十二人

中村の北八町許川の東にあり村名古は堺の字を用ふ下芳養と上芳養との境なるを以て名つくるなり小名田川谷村の東十一町餘にあり

○小祠四社

田畑高 三百七十六石五斗一升二合五勺  
家 數 五十四軒  
人 數 二百三十七人

境村の北七町にあり莊中にて廣曠の地なり村居散在す當村より北の方平野に至る四村を中芳養とす中世中芳養をも上芳養莊といひて石清水八幡宮の領地とす林の名は八幡宮の社地着爵たるより起れるなるへし或はいふ舊は中芳養とのみいひしを湯川氏の被官林氏此地に住しによりて林を名とすといへり小名原田は村の巽にあり

○八幡宮 境内 東西四町 南北三町半 禁殺生

攝社 辨財天社

末社三社 八島明神社 高其若宮神社 太神宮春日 八幡相殿社

拜殿

村の西にあり上芳養莊八箇村の産土神にして莊中の大社なり相傳ふ上芳養莊七百貫の地は山城國石清水の社領なりしを文治の頃鎌倉より地頭を置き領地を沒收せんとせしかは石清水の領家へ訴訟す此時石清水より楠本莊司といふ者を遣はし領地を守護せしめはしめて勸請す後湯川氏代々崇敬して社領五町三段并ひに月々の神事の料を寄附し本社末社

宇賀神社 社地周四町 村の東にあり

○泉養寺 良谷山 淨土宗西山派名草郡槻取村總持寺末

本堂 四方六間半 僧坊 鐘樓

村の北にあり天正年中の開基といふ

○内羽位城跡

村の北にあり東西三十間許南北三十一間許湯川彌太郎光春岩上峠にて山賊を退治せし賞として六波羅より當郡を興ふ此時これを築き内梅と名付けて居住す其後被官林左京進といふ者は是を護るといふ

○公文垣内

村中の小名なり此地に藤田氏といふもの住して數代公文職を勤めし故に公文垣内の名あり公文職は今の大莊屋なり芳養川の流れを此邊にては隅田川といふ脇田川は源頼光五世多田藏人資俊の子俊基和州忍海郡脇田村を領し脇田莊司と稱す其子俊繼當郡野中村に來り子孫湯川家に仕ふ子孫此地に移り淺野家の時當莊公文職を勤め領主の大莊屋役を勤む今其家絶たり其分家今田邊の家士となる畠山氏の書狀及湯川よりの感狀等を藏む

十二社廻廊鐘樓盡造營すといふ昔は神主一人社僧六人八乙女八人神樂男十二人ありしを天正十三年豊臣氏南征の時社殿悉燒き亡され記録等も燒失せり其後氏子等假殿を建立し神主一人社僧一人神子一人を置きたりといふ社領四石元年中領主より寄附す末社八島明神は古老の傳へに八島志奴美命を祀る此神は上古よりの鎮座にして中芳養四箇村の氏神なりしに八幡宮を勸請の後末社とはなれりといふ故に今にいたるまで社地を八島の壇といふ

神主 楠 本 氏

文治年間楠本莊司といふもの石清水より來りて此地に住し社領を支配す其子孫連綿として神主を勤むといふ正應二年に楠本莊司紀國時乾元二年嘉元二年に西願正中二年に楠本莊司守永正平十五年に楠本彦次郎兵衛尉守行等を石清水の領家より祝師職に補任する文書數通を藏む

別當 慈峯寺 姑蘇我山

社地にあり眞言宗古義京仁和寺末古は別當六箇寺ありしかいつの頃よりか當寺のみとなる

○小祠三社

八幡宮 社地山周三十六間 村の東にあり

祇園社 社地周四十間 村の東にあり

### 田尻村

多白里

田畑高 三百四十九石八升四勺

家 數 四十九軒

人 數 二百五十八人

林村の西十町にあり村名は田後の義なり

○氏神社 社地周四町 村中にあり

○瑞光寺 白毫山

村の南にあり修験の支配なり傳へいふ昔盜ありて本尊を掠め取るその後日高郡南部莊埴田浦漁夫の網に懸りて上れるを再當寺に安置したり其頃毎夜寺内に光る地あり土を穿ちて見れば本尊の白毫なり夫より白毫山と名つくとを

○曾和磐跡

林村の八幡宮の社地の傍にて當村領にあり東西三十間許南北四十間許

○狼煙所

村の西南部莊埴の山の上にあり

○古道

狼煙所に五間許の切抜あり芳養坂といふ西は南部莊北道村

より東は林村境村を過ぎて田邊莊に通す此古の熊野往還なりといふ

西野々村

田志乃乃

田畑高 西野々村に籠れり  
家 數 同  
人 數 同

西野々村の長七町川の西にあり坤の方に平田の地あれば平野といふなり

○本願寺 眞言宗古義林村鷲峯寺末

村中にあり舊は林村八幡宮の社僧六箇寺の一にて八幡宮社地の内にありしを天正兵火の後阿闍梨俊快といふ者此地に移して中興すといふ今猶八幡宮の社役を勤む此寺號は八幡宮の本願といふより出たる名なるへし

○地藏堂 境内周八間村の南にあり

○岩跡

村の乾四町許横手山にあり東西二十二間許南北十三間許今猶小城大城などの名残り城主詳ならず

○廢吉祥寺 村の北山の北にあり

小野村

遊農

田畑高 百六十四石六斗六合

平野村

比良乃

家 數 三十八軒  
人 數 百七十八人

平野村の北十町にあり村名の義解をまたす

○大將軍社 社地山林周三十間村の西山の麓にあり

○藥師堂 境内周三十間村中にあり林村鷲峯寺支配下

○小畔川

村の北の谷より流れ出て南流して村中にて芳養川に落合ふ

○孝子

村民藤七といふもの母に事へて孝あり享和二年領主より米三俵を與ふ

日向村

比奈多

田畑高 三百二十九石四斗七合  
家 數 七十八軒  
人 數 三百二十八人

小野村の長十九町にあり村居北の山足に散在して陽に向へる地なり日向の名是より起る

○日向明神社

境内周一町四十間

村中にあり文明十一年造營の棟札あり神名を載せず永正十年の棟札には日向大神とあり土人は四社明神といふ那賀郡天野四社明神を祭れるならん村名によりて日向大神と稱するなるへし下千福寺の條併せみるへし社の寅の方一町餘に舊社の跡あり意ふに古は共に一境内なるへし境内に六抱許の榎樹あり此社古は小野日向西山東山四箇村の産土神なりしに今は林村八幡宮を産土神とす事は莊論に出せり

○氏神社 社地周八間村の南にあり

○千福寺

境内周二十八間

眞言宗古義林村鷲峯寺末

村の西にあり相傳ふ往昔は伽藍地にて日向明神の別當寺なり弘法大師の高野山を開きし前此地に伽藍を建て終焉の地とせんとせし地なりといふ按するに今傳へにより且日向明神を四社明神といふを見れば日向明神は丹生明神にして此地は高野山に縁ある地と思はる三代實録に貞觀十八年金剛峯寺水陸田三十八町在紀伊國伊都那賀名草牟婁四郡勅免其租永爲寺田とあり又永承四年の官符に金剛峯寺領田云々牟婁郡水田壹拾捌町陸段貳佰玖拾肆歩とあり高野領の當郡にある所他に見はるゝ所なきときは此地即是なるへ

日向明神の古の氏下小野日向西山東山等古高野領なるより丹生明神をも祀りて當寺を其別當寺に建てしなるへし後林村の八幡宮を勸請せしより遂に其社僧六箇寺の一となりしなり湯川家此地を領せし時諸堂を修造すといふ後諸堂舎皆廢して今此堂一字僅に存す大抵四百年餘を歴たる物と見ゆ土人飛騨工匠の作といひ傳ふ本尊十一面觀音古佛にして殊勝なり堂附の山林一箇所あり古は寺附の田多くあり慶長檢地の時皆廢すといふ

○西福寺

境内周十二間

眞言宗古義林村鷲峯寺末

村の南にあり本尊裸形の阿彌陀なり古は林村八幡宮社僧六箇寺の一なり寺附の田十石餘あり慶長檢地の時皆廢すといふ

○里境菴

境内周十四間村の北にあり日向明神の本堂といふ

○地藏堂

境内周三十間村の南にあり

○岩跡

村中日向明神の東にあり東西二十七間南北三十六間湯川宮内少輔光春の岩跡なりといふ

西山村

爾志也麻 小名チチチノ知許地野

田畑高 百六十八石六斗七升六合五勺

家 數 八十一軒

人 數 四百人

日向村の北十六町にあり西山東山土地相對するを以て村名とす村居散在して西の方川に添ふを字西川といふ東の方川に添ふを萩野明神前馬頭といふ東山村の小名粉津根に接するを字こつねといふ小名智計地野は村の東十五町許にあり

○東山明神社

境内周百六十間

村の東字明神前にあり祀る神東山村の古老の傳へに據れば丹生四社明神にて日向明神を勸請せるなり日向村日向明神は上りしに何の世に東山村と外三箇村を争論ありて別に東山領の佐和といふ所に勸請して東山明神といひしに後聖の告ありて今の地に移せり故に西山領にあれども後聖は東山村より爲すといへり此傳其實を得たりと見ゆて當社天文元年の棟札及日向村日向明神寛永十七年の棟札にも其證とすへきあり

○小堂六宇

觀音堂 境内周二十間 藥師堂 境内周八間字村の東にあり  
地藏堂四宇 一は村中にあり境内周三十六間一は字西川にあり境内周十四間一は同所にありて境内周二十四間一は字こつねにあり

禰あり

○小祠四社

八幡宮 社地岩山周十二間天正年中林村八幡宮炎上のとき白鳥二羽飛び來りて此に集る夫より社を建つといひ傳ふ

氏神社 社地周三十四間 地主社 社地周

地主社 社地周二十四間社地に鳥合といふ三祀許の大樹あり近年朽ちて今も禰あり

○地藏堂

境内周四十間

○龍神山城跡

村の長山上にあり東西二十三間南北十二間湯川氏の城なり

○舊家

地主 栗山彦之丞

家傳にいふ其祖は豊前國宇佐の社人の一族にて當村の小名古屋谷に住し宇佐八幡宮を古屋谷に勸請して奉祀す其孫栗山三郎勝重湯川直春に事へ日高郡財部村及古屋谷を領す天文十三年直春滅亡し明年七月二十九日其黨と共に泊の城を攻めて戰死す法名芳養道其妻林村の脇田九郎兵衛俊勝に再嫁して勝俊を生む勝俊栗山の跡を續き栗山治大夫といふ萬治二年死す勝俊勝重の軍功を録して一卷とし家に傳ふ代々古屋谷に住し領主より地主とす

り境内周二十八間

○舊家

湯川家の枝族といふ代々當村に住居す 森 氏

東山村

比賀志也麻 小名フキヤノ粉津根

田畑高 百二十二石二斗六升二合五勺

家 數 九十軒

人 數 五百二十五人

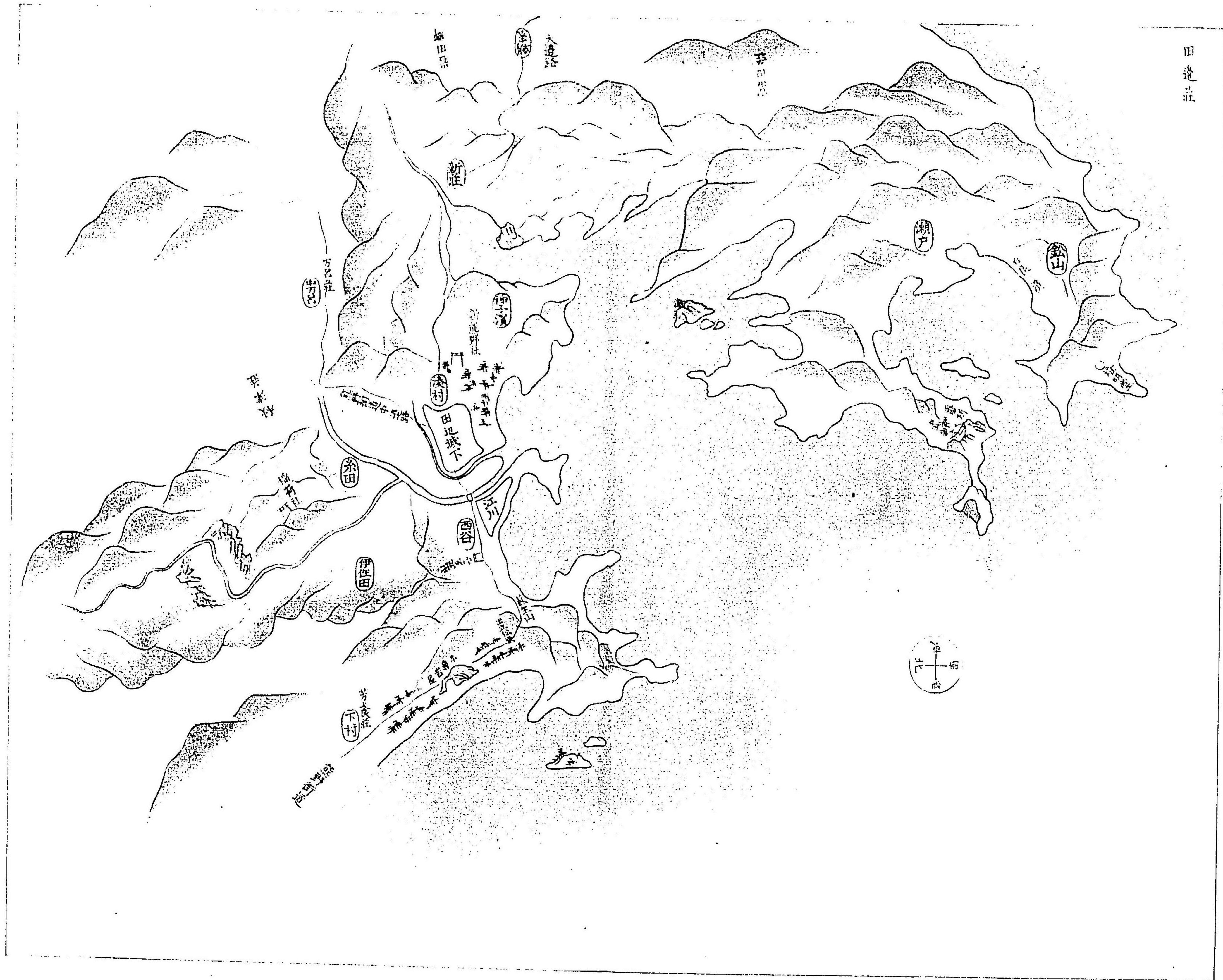
西山村の東二十町にあり東山西山兩村は莊の北の端にして最山中なれども其地廣曠にて二箇村にして莊の大半に居る當村東西四十五町餘南北三十町餘芳養川の源にて民居谷に傍ひて散在す小名二あり村の北の方十二町にあるを古屋谷といひ村の子丑の方二十七町にあるを粉津根といふ又谷二あり其一を齒菜尾といひ其一を峽垂といふ古屋谷は峽垂にあり此谷に盆石を産す絶品なり土人は東山の谷を總へて古屋谷と呼ぶと見ゆたり當村及西山村農隙には炭を燒きて業とす

○宇佐八幡宮

境内周九十間

村中にあり慶長十二年豊前より勸請すといふ森に二抱許の

田邊莊



紀伊續風土記卷之七十一

牟婁郡第三

田邊莊

多奈辨 總八箇村及田邊城下

田邊莊總て城下一村數八其地芳養莊の東南にありて北は秋津三柄兩莊に接し東南は岩田郷富田莊と界し正西は海に濱して一大灣曲をなし其狀殆弓の滿を持するか如しその灣中海崖の委曲に至りては屢數すへからず莊中に通してこれを計るに灣の西の端芳養莊の界より灣の南極嶺山村に至りて通計長さ五里許然して其海上の廣さは遠き所一里近き所二十町許唯伊作田一村北にありて芳養秋津兩莊の中間に突入るもの南北長さ五十町東西廣さ十五町田邊の城下湊村の半を占めて諸士の邸第商賈の市郷軒を連ね甍を並へ民物富庶にして貨物輻湊す實に海南の一都會といふへし此莊の海岸皆沙土にして其地平垣なり皆古の海中或は遠干潟の地なり中に就きて湊村城下の地は皆古の海中にて大抵今の秋津莊萬呂莊と接する地古秋津川の海口にて浪打際の地なるへし故に往古熊野往還の街道は芳養莊林村より伊作田村の

内荒光の山を踰りて下秋津村に至るを古道なりといふ中昔屢 御幸ありし時代は漸退きて大方は今の形に近けれども猶湊村の地などは今よりは狭少なりしなるへし新莊の内にも山際に古道といふ處あり今の道よりは一二町を隔てたり今の道古海潮の上りし地なる事知るへし田邊は國卿安藤氏居城の地なり安藤氏領する所は他の士大夫の知行所と異にして其土地人民山林の類皆屬す因りてこれを田邊領と稱ふ日高郡岩代切部南部三莊牟婁郡にして田邊を初として芳養秋津萬呂三柄富田岩田栗柄川八莊を田邊領とす以下各莊一々にいはす

西谷村

田志乃多爾 小名古町 目良

田畑高 五百七十八石六斗四合五勺

家數 二百六軒

人數 九百四十七人

芳養莊下村の東十八町熊野街道にあり海濱に村居して田邊城下に接せり當村莊中の西にあり村名是より起る本谷御所か谷千津谷等少しつゝの谷多し小名二あり一を目良といひ



本村の南海邊の谷間にあり熊野山別當流層の一を古町といふ村領に  
末流に日其氏あり此地名より出たるなるべし

皮田あり家數三十五軒  
人數百四十五人

○若一王子社 境内 東西五十間  
南北三十間

本社

攝社 太神宮 拜殿

村中の氏神なり御幸記に出立の王子とあるは即當社なり立  
の條詳に下後出立 古は拜殿回廊等ありしに天正の兵亂に悉破損  
せしを後再興すといふ

○東八王子社 境内周百二十間

村中にあり土人の傳へに昔杉若越後守此地上野ノ城主たり  
し時の鎮守なりといふ拜殿あり

○西八王子社 境内周九十間

攝社 牛頭天王社 拜殿 村中に

○大自在天神社 境内 東西百間  
南北七十間

社 攝龍王社 拜殿

村中天神山にあり大永六年修造の棟札あり

社 僧 能滿寺 天神山

天神社の側にあり眞言宗京仁和寺末なり本堂六間半僧坊五間半  
あり末寺一箇寺村中にあり

○萬福寺 用珠山 淨土宗鎮西派西方寺末

本堂 鐘樓

村中にあり古は湊村にありしを享保十四年今の地に移すと  
す

○地藏寺 福山 眞言宗古義京仁和寺末

本堂 僧坊 鎮守社 籠所

村中にあり大破に依りて今假堂を建つ

○願成寺 對城山 眞言宗古義京仁和寺末

本堂 方七 護摩堂 地藏堂

鎮守社 僧坊

村中にあり開基詳ならず昔時開英滿正といふ僧再興せしに  
依りて開英寺と號す伊作田村高山寺舊は勸修寺といひし時  
の六坊の一なりといふ寛永十五年願成寺と改む

○上野山城跡

村の西三町許にあり今畑となりて城跡の間數分明ならず天

正十八年杉若越後守芳養下村泊山城より當城に移り後慶長  
五年淺野左衛門佐居城すといへり田邊城の舊地なり詳に田  
邊城の條に載す 古土傳には當城は舊湯川家の營にて天文二十三年八月高  
僧に命じてこれを攻し其後湯川和隆しく當城 城跡の下には尾の  
な品山家に渡し山本廣信城代となり暫居住すといふ

崎町公文町本町江川町片町寺屋敷といふ町ありしか城を移  
せるより以來は多く古町と唱へて民家となり町名は小名と  
なれり

○御所か谷

出立王子の上により今高となる土人の傳へに昔熊野 御幸  
の時願宮の跡なりといふ御幸記に先陣見三田邊御宿入ニ私  
宿ニ云云御所美麗臨河有深淵御所の跡なるべし

○湖垢離濱

村の南海濱三町許をいふ又御腰掛岩と名つくる岩あり相傳  
へていふ 後白河法皇熊野 御幸の時此海水に浴し給ふ岩  
は其時の御腰掛岩なり因りて後世熊野參詣の貴賤茲に到り  
て湖に浴し不淨を淨むといへり土人或は 崇神天皇熊野  
御幸の時の御事なりといふは訛なるへし御幸記に先陣參  
出立王子於此濱御腰掛離御所略中有御腰云云とある是  
なり此時も先例によりて浴し給へるなり

○蘇生山

往還の小坂なり土人はよろつ山といふ黄泉山を訛れるなり  
按ずるに熊野俗に冥途黄泉の神なるよしへは熊野路の坂  
なるを以てよろつ山はよみち山也といひ出せるにては無き

○出立松原

萬葉集中本國の歌の中に「出立」といふ地名あり歌下に「室之江  
に讀合たり」の海邊をいふ今按ずるに「出立王子あり」上に「又慶長檢  
地帳に田邊莊の諸村を出立莊とす是等に因るに」出立は此邊  
の地名なる事明なり 出立の名土人傳へて熊野別當眞滿平の亂に源氏  
は出立の名起れり 此莊と芳養莊の界の海濱に松の列木あるを芳  
養ノ松原といふ即萬葉集に出立松原出立之清瀧とよめるに  
合へり然れども上古牟婁温泉 行幸の道今と異なれば必其  
地とも定めかたし廣く田邊の海濱の地名とすへし

萬葉集九

大寶元年辛丑冬十月 太上天皇大行天皇幸紀伊國歌

十三首の中

我昔兒我使將來歟跡出立之此松原平今日香過南

萬葉集十三

紀伊國之室之江邊爾千年爾障事無萬世爾如是將有登大舟乃  
思恃而出立之清瀧爾朝名寸二來依深海松夕難伎爾來依  
細法深海松之深目思子等遠細法之引者絕登夜度人之行之  
屯爾鳴子成行取左具利梓弓弓腹振起志之岐羽矣二手 抉離  
兼入斯 悔 戀思者

右一首 此歌牟婁 行幸の時從駕入此地にありてかたり  
たる女に別れて都へへり上る時よめるなるへし

○齋田橋

往還道筋の土橋なり古跡なりといへり舊はサイタカ橋といひしとそ其義詳ならず

○狼煙場

天神山にあり

○燈明堂

海灣の南の端千疊敷の南にあり廻船海上よりの準的とす此邊鉞を穿りし穴多くあり

○千疊敷

海灣の南の端にあり海岸絶壁にして舟を行るもの甚恐るゝ所なり石岩浪に驚蕩せられて奇状怪異殆鷲鶴の飛舞するか如く蛇龍の交戦するに似て最壯觀なり又其上平なる事席を布くか如くなるを以て千疊敷といふ

○窟

千疊敷の南三段といふにあり幅僅に五尺餘にして深さ二町に餘る幅狭く舟を回らすへからす内暗黒にして松明にあらされは入りかたし

古町

布留麻知

本村の坤に接せり

○西方寺 専念山 境内 東西二十五間 南北十九間

浄土宗鎮西派京知恩院末

本堂 四七 僧坊 觀音堂 鐘樓

鎮守社

村領江川浦界本町にあり古は御所か谷にありしに慶長十二年中興開山賢譽今の地に移すといふ末寺一箇寺村中にあり

○淨恩寺 教主山 境内 東西二十七間 南北二十四間

浄土宗鎮西派京知恩院末

本堂 四八 觀音堂 藥師堂 鐘樓

僧坊 鎮守三社 衆寮

西方寺に隣る天正十九年光譽炭山御所か谷に草創せしを慶長十三年三代秀譽良山今の地に移すといふ什物弓一張二分和佐大八郎所持の物といふ末寺一箇寺あり

○龍泉寺 海邊山 境内 東西二十九間 南北二十間

浄土宗鎮西派京知恩院末

本堂 四七 地藏堂 觀音堂 鐘樓

僧坊 鎮守社

淨恩寺に隣る古は江川村洲崎にありしに慶長十二年中興開

山曉譽今の地に移すといふ末寺一箇寺鉛山村來迎寺

○髭洗井

古町の山際に井の跡といふあり文明年中連歌師宗祇此地に小庵を結へる時堀れる井なりといふ宗祇此庵にて世を旅に宿をかり田の邊かなと詠しと土人いひ傳ふ宗祇は湯川の姓を假してこゝに閉居せしなるへし

目 頁

免 羅

本村の南十三町許にあり

○四社明神社 境内山周十三間

祀神 新宮 八王子 拜殿

攝社 八幡宮

此所の産土神なり

○小祠三社

寄子御前社 社地周 八間

大神宮 社地周 三間半

○光明寺

眞言宗古義村中能滿寺末本堂僧坊あり

○元島

紀伊嶺風土記 卷之七十一 平出郡 田邊莊 古町 伊作田村

海上二町許にあり廻り二十町許潮干には歩いて涉るへし

○おこ島

海上二町許にあり廻り二町許潮干には歩いて涉るへし

○牛島嶺

芳養塚の道の傍にあり一大巖小山の如くにして中央穴ありて貫通りて道をなじ形揚土門の如し高二間餘廣五間許堅徑三間餘

○舊家 地土 安宅 川 彌 六

伊作田村

伊佐以太 村居四箇所に分れ各小名あり

下 荒光 谷 惑在

田畑高 五百六十九石八斗六升三合八勺

家 數 百二十三軒

人 數 六百四十八人

西谷村の長にあり村の名義詳ならず按するに古此地に井祭料の田ありて井まつり田と唱へしを祭の字を音に唱へて井さい田といひ遂に村名となれるならん井と伊と假字も違ひ作とさして舊より文字を換めし村三つに分る南にあるを下といひ東に事は當らざるなるへし村三つに分る南にあるを下といひ東にあるを荒光といひ北にあるを谷といふ皆村を以て唱ふこれ

を合せて伊作田村といふ谷の北惑在ありこれを谷の小名とす北は芳養莊東山村と界をなす南は下より北芳養の界まで五十町許あり村の子丑の方一里許に平岩といふあり弘法大師求聞持の法を修せし所といふ

○稻荷大明神社 境内 東四五町 南北四町  
本社六扉 四稻荷三所明神 東熊野三所権現 拜殿 籠所  
攝社三社

荒光の北一町にあり鎮座の時代詳ならず舊は淡村に坐しを後今の地岩城山に移すといふ伊作田糸田兩村の産土神なり永正十五年の縁起といふものあり明應九年元龜二年修造の棟札あり文祿元年朝鮮攻の時杉若越後守の息主殿船十艘人數六百五十人を率て出陣せんとして此社に參詣し其臣黒坂某に命じて社人に開扉せん事を令す社人辭して古より開扉の事なしといふ黒坂應さす強ひて開扉するに忽盲となり又慶長十年淺野左衛門佐命して當社の社木を伐らしむ社人黒坂の目盲し、事を述へて辭しけれどもさかす伐り取りて船を作らしむその年八月船沖合にて破るこれによりて左衛門佐松千本を社地に植しめて謝をなすこれより人益神威を恐るこいふ神事は正月初午の日五月五日十一月二十三日なり明應

九年の棟札に神名を書して阿羅毘賀大明神とあり荒光は地名にして其地に坐すを以ていふならん

○小祠三社

山王權現社 社地周九十町 住吉大明神社 社地周二十二町 谷下村にあり

牛頭天王 社地周一町二十四町 谷の北十一町にあり 谷一村の産土神なり

○高山寺 正南面山 眞言宗古義京仁和寺末 蘇悉地院

境内 東四一町半 山周八町餘 禁殺生  
本堂 八間 大師堂 四間 方二 香堂 方三間 大師堂  
多寶塔 方二 護摩堂 方四 鐘樓  
僧坊 鎮守社

荒光の巽五町許にあり當寺舊は勸修寺といふ後興算寺と改む天明七年今の寺號に改む開基詳ならず傳へいふ弘仁十四年弘法大師熊野の神祠に詣てんとして此地を過き糸田川の淵に己か影を寫して肖像一軀を彫刻すこれ今の大師堂の本尊なりといふ慶長年中淺野左衛門佐より寺領三石二斗を寄す元和五年領主安藤家より舊によりてこれを寄附す什物畫幅の類を多く藏む中にも文珠の墨畫曹溪愚極の畫く所贊あり役行者の像一幅畫人詳ならず此二幅筆力神彩凡手に非ず奇珍といふへし其他領主より納むる所の詩歌笙管樂の類あり

○御影淵

田邊川の中にあり傳へいふ古弘法大師影を寫して自像を作れる淵なりとぞ

田邊城下

家七百六十九軒 八千六百四十二人

此地秋津川の海口にありて古の牟婁津なり齊明紀分注に沙土海を埋め地形大に變遷す中古以後海に濱して村落をなすもの川の東にあるを淡村といひ川の西にあるを江川浦といふ湯川氏江川浦の北西谷の八王子山又上野山に砦を築き天文二十二年八月守護島山氏山本掃部廣信をして湯川氏を擊ちてこれを降す廣信城代として八王子の砦を守保す天正年中湯川のじふる大和納言の臣杉若越後守芳養泊城に居る同十八年城を八王子砦に移して此に居る此時轉入用日高郡り城の廣間とす清水の西にある辨慶松を慶長五年關原役に新宮堀内安房守等石田氏に黨す杉若越後守關東の命を蒙り堀内を討す房州遠電す越後守新宮在陣の内淺野氏封を本國に受け淺野左衛門佐八王子城代たり越後守舟にて遷り田邊の風浦に一宿し透電す八年左衛門佐更に江川浦の洲崎に城を築

り末寺三箇寺あり

○不動寺 南深山 眞言宗古義京仁和寺末

荒光の北村端にあり

○小堂三字

毘沙門堂 荒光の中 におり

地藏堂 境内周十二間下の中におり村民踊りをなす場とす故に踊堂といふ

岩屋觀音堂 境内周二町半高山寺に屬す遠在中の山上にあり巖洞深き二間幅四間高さ二間許東に向ひて開く堂その中にあり此地岩山重疊して形骸を並ふる地如く一種の奇狀をなせり

糸田村

伊達太 小名尾崎

田畑高 四百三十二石五斗三升九合

家數 四十軒

人數 百九十八人

伊作田村の小名下の東八町にあり伊作田と人家入交れり村名糸田は磯田の轉語なるへし此地古は海邊なりしといふ莊論を合せ考ふへし小名尾崎は村の南三町許にあり西谷村領の地なれども人家は當村のうちなりといふ

○山王權現社

社地周十八町村中の山根にあり

き同九年洲崎城に移る同十年八月十二日大風巨濤にて城破  
壞す遂に更て城を湊村に築き同十一年湊城に移る當城是れ  
なり城の坤は海に面し城の北に市郷を開き城の東を諸士の  
邸宅とす元和五年國老安藤氏家邑を此地に受けて舊規によ  
りて擴めてこれを大にし邸宅商屋淡領の地に蔓延し戸口益  
繁く區域彌廣く遂に南邊の一都會となれり此地國城若山を  
去る事殆二十里山川阻絶して形勢相及はす鎮を置に非れば  
近境を制するに足らず故に安藤氏をして郡邑を此地に受し  
めて南方を鎮せしむ遠近相繋き維持制を得たりといふへし  
田邊町

田邊の町八に分る本町紺屋町袋町上長町下長町南新町北  
新町なり外に横町小路數町あり總て東西七町半許南北三  
町許江川浦は東西三町餘南北一町許  
本町 紺屋町 下片町 大手筋

西の方秋津川大橋より東に達する往還を本町とす熊野街道なり東の方に至  
りて南北に通ずる町を城の大手筋とす本町の北に並ぶ紺屋町とす南に並  
ぶ下片町とす

下長町 上長町 袋町 上片町 代官町

西の方大手筋より東に達する往還を長町とす長町の南に並ぶ袋町とす袋  
町の南に並ぶ上片町とす袋町の東に達する町を代官町とす

北新町 孫九郎町 勝徳寺町

慶長十二年今の地に移すといふ

○勝徳寺 慶修山 境内周五十八間

浄土真宗西本願寺末

本堂 鐘樓 僧坊

勝徳寺町にあり傳へいふ參河國八橋の邊に神谷門太郎勝徳  
といふ士あり其子幼稚にして同國佐々木上宮寺に預け置し  
に勝徳戰死せしかは其子出家して願西と號し遠州濱松に一  
寺を建立し父の名を寺號として勝徳寺といふ元和六年諸士  
に誘引せられて當地に來り寛永十三年當寺を建立す始めは  
東派なりしに寛文年中轉派す

○本正寺 安立山 境内 東西十四間 南北三十九間

法華宗像門派京妙覺寺末

本堂 番神堂 僧坊 釣鐘堂

南新町にあり慶長十二年善住院日詮湊村に小堂を建立し元  
和五年理性院日廣今の地に移すといふ寺内に本地院殿の御  
灰塚あり御逝去の時當寺にて御火葬ありしなり其頃寺僧御  
位牌を造りて佛前に安置せしに近年公命ありて新に御位牌  
を納めさせ給ひ寺をも修營し給へり

○海蔵寺 慈航山 境内 東西二十四間 南北七十二間

紀伊續風土記 卷之七十一 牟婁郡 田邊莊 田邊城下

長町の東に續く往還を北新町といふ即熊野街道なり東の末湊村領に至るを  
大邊地街道とし中間より折れて北に行な三柄口といふ中邊地街道なり新町  
の南に並ぶ孫九郎町といふ孫九郎町より北に達するを勝徳寺町といふ

南新町 海蔵寺町 權現道  
北新町の中間南に達する町を南新町といふ南新町より東に達するを海蔵寺  
町とす海蔵寺町の南に並ぶ權現道とす

○江川浦

秋津川を隔て、城西にあり町四つに分る本町中町邊町川縁  
といふ本町は熊野往還なり此地は本城の故地なれば今猶城  
下區域の内に屬す海邊にありて専漁を業とす故に浦の名あ  
り

○稻荷社 境内周三十八間

紺屋町にあり古老の傳へに作伊田村の稻荷社は此地より移  
せりといへり又京の藤森稻荷社も此地より勸請したるなり  
といへり

○小洞二社

衣比須社 社地周十八間 祇園社 社地周二十一間

○淨行寺 境内周七十二間

浄土真宗西本願寺末

本堂 五間半 鐘樓 僧坊 太鼓堂

大手筋にあり文祿二年釋了教開基す古は西谷村にありしに

禪宗關山派京妙心寺末

本堂 五間半 開山堂 位牌堂

觀音堂 千體堂 三千鉢佛 地藏堂

禪堂 鐘樓 書院 僧坊

門 扁額二あり一は慈航山とあり嵯峨宮  
御筆一は海蔵寺とあり木庵の筆なり

什物の中選佛の二大字無學國師消息明慧上人 示徒詩一休和 羅  
漢像三幅書聖 寒山拾得像二幅雪舟書 晉安友 花鳥畫古橋龍  
鞍馬二幅楊月山水畫古座右銘獨立等數品あり

海蔵寺町にあり慶長十年淺野左衛門佐の建立にて伯父天叔  
といふ僧の開基といふ此寺近年書院より玄關に至るまで新  
に修造するに崗中の水杉一本を用ひ餘木を雜へす其木これ  
を海中に得たり天の授くるか如くなるを以て書院を天授院  
と號す文化七年七月風浪の時日高郡南部浦に流れよりし大材なり自然とわ  
れ離れて二つになれたるさまにて丸木の四分の一なるべく覺ゆ一は長  
八間一は長五間末口徑六尺關部疏に出たる水杉なり或は水松といふ實は  
杉と松とを合せたる如し實に真材なり此一本を以て修造全く備る天授と稱  
するにふし

○湊福寺 海崎山 境内 東西二十五間 南北五十三間

禪宗關山派京妙心寺末

本堂 八間半 地藏堂 鐘樓 僧坊 五間

寶篋塔 衆寮

海藏寺町にあり當寺舊川口邊にありしを慶長年中淺野左衛門佐今の地に移す海藏寺天叔和尚轉住して開基すといふ什物種々あり五百羅漢一幅釋迦文殊普賢三幅衣比須及擁護神像一幅皆古畫觀音像一幅白銀和尙布袋像一幅皆從其他古畫數品あり又古法眼の筆なりといふ奇異なる古畫の幅あり

○法輪寺 野田山 野田院 境内 東西二十七間 南北二十五間

神宗曹洞派若山憲譽寺末

本堂 七間 藥師堂 鎮守社 僧坊 六間半

權現道の南湊領の堺にあり初は龍門山寶輪寺と號す延寶二年今の號に改む末寺十二箇寺皆郡中にあり

○田邊橋

秋津川の海口に掛る往還の街道にあり長さ五十間幅三間撥寶珠十四頭其東に秋津川の枝流あるを以て又小橋長さ六間ありりて田邊本町に通ひ小橋に對して西にあるを大橋といふ

○辨慶松 辨慶池

松は袋町にあり池は片町にあり土人傳へいふ辨慶此所にて産る故に辨慶松辨慶池の名ありといふ又關鶴權現本願の家藏に辨慶の産湯を湧かしといふ錮子あり今關東より熊野

増の事を載するもの辨慶を子の數に入るものなし後世の書或は出雲國の産とし或は伊勢度會氏の裔とす何れも的證なしかくの如く其説區々にて何れを正説と定めかたければ田邊の地古く土人の口碑に遺りて所々符合の事多ければ田邊の地に産れて本宮にて七歳頃まで育ち後上洛して叡山に登りしなるへし

湊村

美那斗 小名敷 小泉 志保古

旧畑高 八百五十六石三合

家數 百八十軒

人數 八百八十八人

田邊城下の東にありて人家相接す北は秋津莊下高呂村と界す増基か熊野紀行にむろのみなどある是なり今の田邊城下の地は舊は皆當村の地なりしに城を築きてより諸士の宅地并に町家を作りて田邊町の地とす小名敷は村の南三町にあり下に出せり

○新熊野關權現社

境内周六町十三間

證誠殿 前行一間 二尺餘

に詣する者辨慶の舊蹟と稱して必是を見る其夜必此城下に宿して餅を搗くを例とす號けて辨慶の力餅といふ此等の事其證跡定かならざれども相傳へて古くなし來る事といへり按するに辨慶の事世の普く知る所なれども其産る所古書に記さす所生人亦異説ありて一様ならず其名は東鑑に始めて見たり文治元年十一月三日の條に辨慶法師已下彼地辨慶は熊野別當辨正の嫡子母は二位大納言名の女なり始大臣師長公に嫁せん事を約す師長病に罹り熊野神を祈りて平癒す其翌年師長大納言某と女を娶はしむ師長及大納言某大に怒り兵を率めて別當を討んとして切目に陣する時 院宣ありて兵を歸す其後別當の張さなり懷胎する事八月にして辨慶を産むとあり公卿補任を授かるに師長右大臣を經ずして内大臣より直に太政大臣となる又内大臣に任じたるは安元元年にて師長三十歳なり此等の事關鶴並しければ後經記書す所信を取るに足らずといふへし幼名を鬼若といふ叙にて出家し武藏坊辨慶と改む兵術を好みて悪行す後義經に従ひ軍忠を盡し奥州衣川にて入水すとあり又文明十三年の文書寛文記に辨慶は別當辨正の子語古抄心子七歳の頃本宮備前里にてあり又舟渡の場と備前の渡といふ養育す五條大納言國綱卿具足して上洛の後叡山西塔之伯耆律者慶順の弟子也とあり然れども別當次第記及目良氏系圖等を考ふるに並に辨心辨正の名なし或書に辨正一名湛曹紀州田邊鶴合權現別當とあり湛曹は湛増なるへし然れども古書湛

西御殿 早玉社 前行三間

若殿 若女玉子 前行一間

以上上の四社と稱す

禪師宮

聖宮

兒宮

子守宮

以上中の四社と稱す

一萬宮

十萬宮

勸請十五所 四社相殿 前行二間 二尺餘

飛行宮

以上下の四社と稱す

攝社 玉置權現社

末社三社 辨財天 大黒天 役行者

萬山宮八百萬神遙拜所

拜殿 東西三間 南北五間

繪馬堂 東西三間 南北五間

村の南にあり境内山に倚る社殿壯麗にして近郷の大社なり

田邊城下の總産土神とす社傳にいふ熊野別當滿快の時滿快は藤原實方朝臣の裔熊野別當泰教の曾孫といふ三所権現を此地に勧請して新熊野と稱す此地其頃は三山の領地なりし故勸請せしならん滿快の子を滿増といふ始めて當所に住居す人呼ひて田邊別當といふ元暦元年源頼朝卿平家追討の時に當りて源平二氏の中孰れを助けんと疑惑す此に於て此社地に放ち伺ふ雞赤白二色を分ちて兩氏の旗色に準へ神前に於て闘はしむ白雞の方勝ければ心を決して源氏を助け是より闘鶏権現と稱すといふ平家に此事を記してはいはく熊野別當滿快は平家へやまゐるへき源氏へやまゐるへきとて田邊の新熊野にて御神樂奏して權現に祈誠し春の白旗につけさなほせけるを猶うたひひをなしてしるさ雞七赤き雞七これをなして權現の御まへにて勝負をせさす赤き鳥一もかたすみなまけてにけりさてこそ源氏へまゐらむと思ひきためけれ一門のものさめひ能し都合其勢二千餘人二百餘艘の舟にのりつれて若王子の御正體を舟にのせまひらせ旗のよこみには金剛童子むさねとてまつりて權の浦へしるをなみて源氏も平氏もまはれける 慶長年中淺野家より米五石を寄す元和五年領主安藤家舊によりて寄附す神庫に永享八年の文書及明應五年の勸進狀青蓮院權實を藏む其他神寶は天正の兵火に紛失すといふ古は社僧六人講衆六人神戸八人神頭二人堂下三人承仕二人本願一人ありて神事祭禮も嚴重なりしに亂世に至りて大に衰ふといふ祭禮毎年六月二十五日其儀式壯觀にして田邊領内の諸莊皆群參す

別當 松雲院 眞言宗古藏京仁和寺末  
 本堂 八間 護摩堂 四半 地藏堂 四半  
 歡喜天堂 二間半 僧坊 五間  
 境内にあり田邊城下の地土田所彌三左衛門の祖代々神職を勤めしか慶安以後當院に譲るといふ當院舊は社僧六人ありし内に秋津莊下萬呂村にありて待賢寺といふ滿増の子孫にして妻帯なり慶安二年其住僧滿翁といふもの寺を當社の邊に移して別當寺と稱し清僧となる其後寺號を松雲院と改め仁和寺の末となる

社役人  
 執行一人 兼人神頭一人  
 神子一人 堂下二人  
 本願 大福院 修驗を兼ぬ

大福院は社の境外にあり別當滿増の末葉といふ修驗にて代々相續す一山修理の事を掌る家に滿増の着用せし鳥帽子形の冑を藏む又辨慶産湯の鐘子といふ物を藏む其大さ水二斗を入るへし

○蟻通明神社 境内周五十間  
 村の西二町にあり淡村の地主神といふ

○若宮三社明神社 境内周二町許

村の寅の方一町半新熊野草創の時分ちて勸請すといふ

○八幡宮 境内山周一町二十間  
 村の北八町にあり元和八年領主の命に因りて石清水より勸請すといふ社僧あり眞言宗の修驗者にて江州飯道寺袈裟下なり

○愛宕山権現社 境内周三十六間  
 村の子丑の方五町山の上によりて元和七年京都より勸請す社僧あり眞言宗修驗者にて江州飯道寺袈裟下なり

○牛頭天王社 境内周五十間  
 村の南六町山にあり小名志保古の産土神なり

○根本寺 蓬萊山 禁殺生  
 修驗者江州飯道寺袈裟下

村の辰三町にあり舊は伽藍地なりしに天正年中燒失して元和二年眞言宗の修驗者再興す

○神宮寺 山 修驗者江州飯道寺袈裟下  
 村の西二町餘にあり古より新熊野社の奥院といふ天正年中燒失す後眞言宗の修驗者再建す

○庚申堂 境内周二町許 禁殺生  
 眞言宗修驗者江州飯道寺袈裟下

村の丑の方二町半にあり

○小堂二宇  
 地藏堂 境内周一町二十間 不動堂 境内周一町四十間村の未の方村の南五町にあり 大福院支配す

○蓬萊山  
 村の東五町許にあり山高からす大ならず蓬萊と名つくる事詳ならず山の下に池あり蓬萊の池といふ

敷  
 淡村小名  
 寛文記に夙と書す他の夙村と同じ

○山王権現社 境内周一町四十間  
 敷の産土神なり攝社三社あり

○衣比須社 境内周一町十間 濱邊にあり

○超願寺 慶雲山 淨土宗西山派日高郡筋村超世寺末村中にあり

○覺照寺 淨土眞宗西派海部郡和歌浦性應寺末村中にあり

○不動堂 眞言宗修驗者江州飯道寺袈裟下村中にあり

神子濱村

美古乃婆麻

田畑高 四百八十二石四斗八升七合  
家 數 七十軒  
人 數 三百三十三人

漆村の巽七町半にあり海濱なり舊は新熊野社の巫の居住せし地なる故に村名起れり此邊よりいたす荒砥を神子濱砥といふ

○大梵天王社 境内山周百四十間

村中にあり一村の産土神なり籠所あり

○若宮 境内森山周百三十六間

村中にあり攝社に秋葉權現社あり

○妙見社 境内周四十八間

攝社 毘沙門天社 拜殿 村中にあり

○金剛寺 八將山

村中にあり本寺なし古より禪宗なりといふ

○潜岩

海濱にあり穴の幅八間許高さ二丈九尺浪されの跡あり是を潜りて往來す

若宮

社地周百二十間小名鳥ノ巢にあり未だ神島明神社中ノ御前社あり又拜殿あり

四大天王社

社地周一町四間村の乾二町にあり社地三方二十二間の田地あり御供及修理料とす

河内神社

社地周四十五間村の北の方二町餘にあり社地ノ松の大樹を神林とす拜殿あり

山田御神森

社地周三町本村の中小名北原の田中にありて社なし大木を神林とす此木に巡りて芹を腐れば葉をなす故に神と

○神島明神森

境内島九町

鳥ノ巢より海上三町許を隔て、神島にあり祀神詳ならず

○東光寺 三十山

禪宗關山派田邊城下海蔵寺末

本堂

觀音堂 鐘樓 僧坊

村の中の方六町半にあり

○小堂三宇

地藏堂

觀音堂 二堂境内周十六間村中山にあり

觀音堂

境内周五十六間村北五町山にあり

瀬戸村

世登 小名綱不知

田畑高 二百四十二石七斗三升一合  
家 數 百八十七軒  
人 數 千四十六人

新莊村

志雲百也字 小名跡之浦 鳥巢 内浦

田畑高 七百四十三石八斗四升八合八勺  
家 數 三百三軒  
人 數 千二百人

漆村の巽十町許にあり西の方海上二十町を隔て、神子濱村と相對す熊野大邊地の往還なり東は山を負ひ西は海に面す農田鹽を製す小名三ッあり未の方磯山を隔て、七町にあるを跡之浦といふ海に面す跡之浦の南三十町にあるを内之浦といふ海灣の南隅にありて鳥ノ巢の岬前面をふさき袋の底に居るか如し故に内の浦といふ南は富田莊境なり内之浦の乾十三町にあるを鳥ノ巢といふ南より北に突出たる岬に村す其西の海上神島神樂島加奈伊島等葦布して絶景なり小名鳥巢の方舊本村にして夫より分けしよりの名なりといふ

○小祠八社

若一王子社

社地周二町四十五間 村中にあり拜殿あり 山神森 社地周七十間 内浦にあり

田中御神森

社地周十間村中にあり田中にある三樹を祀りて社なし大木今朽たり

梵天社

社地周二十八間小名跡の浦にあり村中東光寺の鎮守といふ拜殿あり

此村莊中海灣の南の端にありて新莊村の小名鳥ノ巢の坤陸地一里半海路一里許にあり其地三面海に面して東の方一方富田莊と土地相接す山ありて隔絶し鳥巢と海を隔つといへども其地坤に突然たるを以て此莊に屬すといふ此地は牟婁温泉の地にして古は別に大名なし其地形古海灣の北の端中間南北に切れて島ありて別に迫門をなせり 鳥は即今の邊跡の地 海潮退きて迫門陸となり鳥と一となる人民始めて此地に村居をなしてより迫門の名此地の大名となり文字を瀬戸と改む古の迫門なりしといふ地今に汚下にして其形猶殘れり亦田地の字に鳥の前といふ名も殘れり村中の土地皆岩石にして井を掘るへからず唯迫門の一條井を穿つへしといふ古の形知るへきなり正保年間温泉のある所海濱數町の間有家居充滿するを以て別に一村となし鉛山村といふ村居のある所亦瀬戸村の領と犬牙相交れり今詳に辨すへからず故に湯の事は鉛山村の條に載す瀬戸の小名三ッあり本村の北にあるを惠津良といひ東にあるを綱不知立谷といふ皆家居あり大抵皆漁戸なり

○三社權現社 境内森山周八町  
攝社 地主明神社 拜殿 舞臺

村の坤にあり其地別に海に突出て島の形をなせり一村の産土神にて熊野三所権現を祀るといふ境内に御腰掛石といふあり 齊明天皇此地 行幸のとき御腰を掛たまふ石なりといふ又火雨塚といふ穴あり深さ知るへからず人作の穴の様なれとも何の爲に穿つといふ事知るものなし其穴より一町餘北の磯を御舟谷といふ其穴此地に通すといひ傳ふ御舟谷は 齊明天皇行幸の時の古蹟ならん

○藤九郎盛長社 境内森山除地 畫馬堂 廳

の乾にあり神體衣冠の木像なり何の故に盛長を祀るか其事詳ならず土人の傳へに昔盛長うつる舟に乗りて此に來り住む其葬地村中にあり土人祠を此に立て祀るといふ又或は傳へて御體宮といふ土人甚崇敬し舟に乗るもの尤奉崇すと今按するに藤九郎は國體の轉にして其初國體の流れ寄りたるを埋葬せしに崇まざる事はいひ傳へし村民等祠を立て其盛を祀りしより國體の稱呼轉じて藤九郎盛長を附會しならん寛文九年再興の棟札あり安達藤九郎景盛社とあり

○衣比須社 村中にあり

○本覺寺 大信山 淨土宗鎮西派京知恩院末

本堂 方五 觀音堂 鐘樓 僧坊

村中にあり

兼 盛

君の代の數どもとらん紀れ國の

えらゝの濱みえたる石とは

寶治三年八月四條宮扇合歌

とみ人えらら

かもめみるえらゝの濱の水底も

その玉みゆる秋の夜の月

家集 鴨 長 明

ふせにやはまたとかたらむ玉をろふ

えらゝのわたり秋の夜の月

出湯 仲實 朝臣

はしらゝの濱の走湯浦さひて

今とみゆたのかけもうほらす

後鳥羽院熊野 御幸時瀧尻王子御會

濱月似雪 右馬助源朝臣家長

冬さてもまゝ降そめぬ雪の色も

おたしえらゝの月影

山家集 内に貝ははせんとてさせ給ひある人に

あはりて 西行法師

紀伊櫻風土記 卷之七十一 牟婁郡 田邊莊 鉛山村

○藥師堂 湯谷といふにあり鉛山村入合の所なり事は鉛山村の條に載す藤三大夫といふもの支配す茶所あり

○瀬戸崎番所

村の西山麓の北の端の山上にあり其山桔梗甚多し故に桔梗平といふ異國船斥候の番所なり寛永二十年より田邊與方三十六人一月替に輪當して是を守る

○白良濱

曲灣の内瀬戸村と鉛山村との間十町許の間の濱をいふ砂土潔白にして雪の如し

夫木抄

百首歌に千鳥

寂念法師

雪のいろも同じえらゝの濱千とり

同 聲さへさゆる明得れ空

天祿三年五月資子内親王家歌合

心はてみえらゝの濱みひろふ石の とみ人えらら

いと得とあらんよをしうそまで

永久四年百首歌

仲實朝臣

いづく夜寝ええら玉とほるほしらゝの

濱松の松に松葉折した

入道攝政家御屏風ほめるいささ哉

浪とほるえらゝの濱のからま貝

をろひやまくもかもほゆるるな

月

とあせたる白良の濱の沖の石を

くさかてほらふ月の白浪

人々なせよひて和歌をむみよとほして

うらみおこせぬり常をは 讃岐入道顯綱

され國やえらゝの濱のえらせ給と

とせりかれやわかれうらむる

柏玉集 百首み濱菊

後柏原院御製

とる波もえらゝの濱はかはらねど

菊れみせどり色そうけろふ

雲玉集 濱砂

逍遙院内大臣

眞砂みは月もえらゝの濱風に

霞の空も春にむすきて

鉛山村

源泰也

田畑高 瀬戸村の内に籠る



村の坤にあり其地別に海に突出て島の形をなせり一村の産土神にて熊野三所権現を祀るといふ境内に御腰掛石といふあり 齊明天皇此地 行幸のとき御腰を掛たまふ石なりといふ又火雨塚といふ穴あり深さ知るへからず人作の穴の様なれども何の爲に穿つといふ事知るものなし其穴より一町餘北の磯を御舟谷といふ其穴此地に通すといひ傳ふ御舟谷は 齊明天皇行幸の時の古蹟ならん

○藤九郎盛長社 境内森山除地

畫馬堂 廳

村の乾にあり神體衣冠の木像なり何の故に盛長を祀るか其事詳ならず土人の傳へに昔盛長うつろ舟に乗りて此に來り住む其葬地村中にあり土人祠を此に立て祀るといふ又或は傳へて獨體宮といふ土人甚崇敬し舟に乗るもの尤奉崇すと今按するに藤九郎は國體の轉にして其初國體の流れ寄りたるを埋葬せしに崇なごの事なひひ願らし村民等祠を立て其靈を祀りしより國體の稱呼轉して藤九郎盛長を附會しつならん寛文九年再興の禮あり安遠藤九郎於盛長社あり

○衣比須社 村中にあり

○本覺寺 大信山 淨土宗鎮西派京知恩院末

本堂 方五 觀音堂 鐘樓 僧坊

村中にあり

兼 盛

君の代の數どもとらん紀國の

まらゝの濱みまある石とは

寶治三年八月四條宮扇合歌

とみ人まらば

かもめなるまらゝの濱の氷底み

その玉みゆる秋の夜の月

家集

鴨 長 明

まをにのほはまたとかたむ玉をらふ

まらゝのわたり秋の夜の月

出湯

仲 實 朝 臣

はしらゝの濱の走湯浦さひて

今とみゆたのかけもうほらす

後鳥羽院熊野 御幸時瀧尻王子御會

濱月似雪

右馬助源朝臣家長

冬さてもまゝ降そめぬ雪れ色み

おれしまらゝれよその月影

山家集 内に貝ははせんとてさせ給ひある人に

あはりて

西 行 法 師

紀伊櫻風土記 卷之七十一 牟婁郡 田邊莊 鉛山村

○藥師堂 湯谷といふにあり鉛山村入合の所なり事は鉛山村の條に載す藤三大夫といふの支配す茶所あり

○瀬戸崎番所

村の西曲灣の北の端の山上にあり其山桔梗甚多し故に桔梗平といふ異國船斥候の番所なり寛永二十年より田邊與方三十六人一月替に輪當して是を守る

○白良濱

曲灣の内瀬戸村と鉛山村との間十町許の間の濱をいふ砂土潔白にして雪の如し

夫木抄

百首歌に千鳥

寂念法師

雪のいろよ同じまらゝの濱千とり

聲さへさゆる明得れ空

同 天祿三年五月資子内親王家歌合

とみ人まらば

心あてまらゝの濱よひろふ石の

いと得とからんよをしうそまで

永久四年百首歌

仲 實 朝 臣

いづく夜凝ぬまらゝ玉とれるはしらゝの

濱松の松に松葉折した

入道攝政家御屏風はめるいさみ哉

浪とれるまらゝの濱のからま貝

をろひやましくもおも得ゆるるな

月

とをまたる白良の濱の沖の石を

くさかてほらふ月の白浪

人々なまよひて和歌をむみよとてして

うらみおこせぬり茶をば 讃岐入道顯綱

され國やまらゝの濱のまらせ給と

とどりかれやわかれうらむる

柏玉集 百首み濱菊

後柏原院御製

とる波もまらゝの濱はかはらねど

菊れみかどり色そらうりるふ

雪玉集 濱砂

逍遙院内大臣

眞砂みは月もまらゝの濱風に

霞の空も春に包すきて

鉛山村

迦奈也哉

田畑高 瀬戸村の内に籠る

家 數 七十一軒  
人 數 三百二十一

瀬戸海灣の内白瓦濱より坤温泉のある所鉛山の嶺なり村名鉛を掘りたるに起る續日本紀に大寶三年五月令紀伊國阿提飯高牟婁三郡獻銀とあり當郡にて銀の古く出し地詳ならず此地古に願れし地にして鉛の出し地なれば銀の出しは此地の事ならん村の坤の山燈明堂の邊に鉛を掘たる鑛穴多くありつもの頃まで鑿りしか元和の頃の下文に猶鉛を掘る定書等あれども其事は既に絶たりと見ゆ今の人家は皆鑛徒居留りて村居をなしたるより遂に一村となれり此地舊より耕すへき田畑なければ淺野氏の時屋敷地畠とも合せて高五石二斗五升餘を免許す元和の後舊に仍りて是を免し給ひ且網を作りて漁をなさしめ又其海稅をも免し給へり土地舊鉛を出すを以て鉛稅を賣する地なれば温泉の湯料を村中に與へて右の内にて歲貢を定めて鉛稅の代となさしむ凡四方温泉ある所多く山溪幽僻の地なるに此地は海濱にありて風景絶勝なれば四方の浴客日に集り歲に増して今は村中六十餘戸皆浴客の旅舎となり飲食玩好歌舞の類に至るまで都會の地に差さる様になれり村居三つに分れて上野塙本町村出と

り湯崎の名是れより起る元湯の名は湯壺の源の義なり其谷を湯谷といふ湯谷に藥師堂あり湯によりて安するなり其所に森三大夫といふものあり舊は湯守にて慶長年中淺野氏より湯料定書を與へらる近年碑を建て詳に湯の事を記せり因りて書紀并ひに續紀の文を左に載せ併せて碑文を載す  
日本書紀 齊明天皇三年九月有間皇子性照陽狂云々往牟婁温泉偽病來獻國體勢曰觀觀彼地病自獨消云々天皇聞悅思欲往觀四年冬十月庚戌朔甲子 幸紀温泉時夜半赤兄遣物部朴井連帥率造宮丁園有馬皇子於市經家使遣驛使奏 天皇所戌子捉有馬皇子與守君大石坂部連藥鹽屋連鯛魚送紀温泉舍人新田部末麻呂從焉於是皇太子親問有馬皇子曰何故謀人答曰天與赤兄知吾全不解庚寅遣丹比小澤連國襲絞有馬皇子於藤白坂或本云有馬皇子曰先日爾夜遣牟婁以船師斷淡路國五年春正月己卯朔辛巳天使如牟婁其事移入諸日不可也云々天皇至自紀温泉又書紀 天武天皇十四年夏四月紀伊國司言牟婁温泉沒而不出也此はしほし出 持統天皇四年九月乙酉詔曰朕將巡行紀伊之故勿收今年貢師田租口賦丁亥 天皇幸紀伊一戊戌 天皇至自紀伊按するに此幸何れの地なること之枝の歌の意を考ふれば湯崎の地に幸し給ひしこと明なり 又續日本紀 文武天皇大鳳元年九

いふ

○小祠二社

衣美須社 社地周八十四間 村中にあり 山神社 社地除地村中濱の山の上により拜殿あり

○來迎寺 湯崎山 境内周五十間

淨土宗鎮西派田邊城下龍泉寺末

○金徳寺 境内周四十間

淨土眞宗西派本願寺末

村中にあり本堂僧坊あり

○温泉

元湯 屋形湯 摩舞湯  
濱湯 崎湯

外に阿波湯目洗湯などいふ小き湯壺あり

日本紀 齊明天皇の御卷に有馬皇子往牟婁温泉といひ又續紀 文武天皇大鳳元年九月幸紀伊國十月 車駕至武漏温泉といふ是なり今は湯崎といふ元湯崎湯は古の湯壺と見む自然の岩穴なり屋形濱摩舞の三は人作にて湯壺をなすものなり中昔の歌に所謂眞白良の濱の走湯といふもの此地の温泉の形をいふなり崎湯は海灣の南の端にあ

月丁亥 太上天皇幸紀伊國冬十月 車駕至武漏温泉  
戊申從官並國郡司等進階並賜衣衣及國內高年給稻各  
有差勿收當年租調並正稅利唯武漏郡本利並免曲赦罪  
人戊午 車駕自紀伊至按するに太上天皇は持統天皇なり今の文武二帝併に行幸したまひしなり

湯崎温泉記

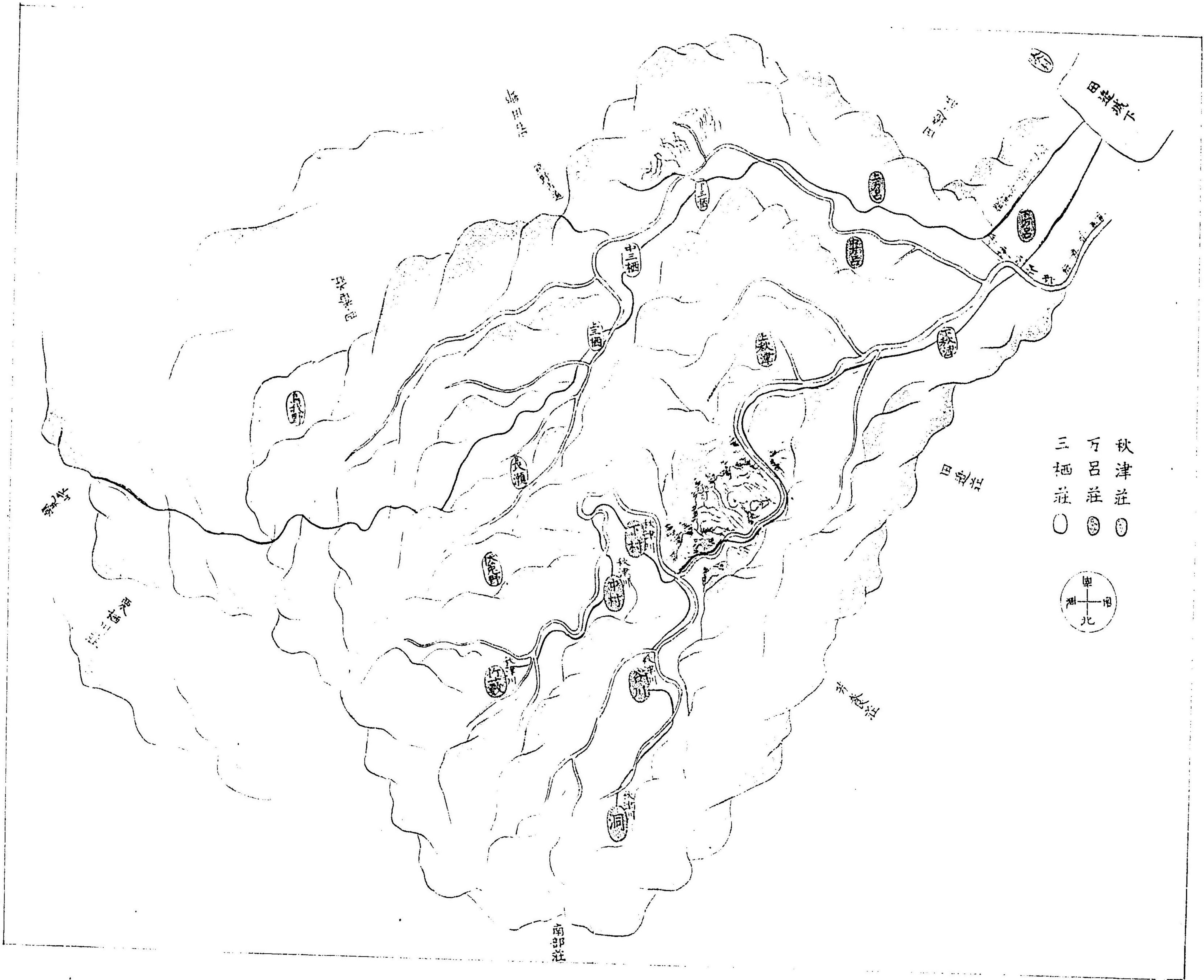
海内温泉不可勝數其最顯於古者莫先於豫之熱田津攝之有馬紀之牟婁牟婁温泉尤多其有名者二焉曰湯崎曰湯峯古史所記泛言紀温泉不斥其地故世或疑焉書紀 齊明天皇四年冬十月 帝幸紀温泉先是日有馬王子來浴牟婁温泉歸奏曰其地勝絕纒涉其境病自獨消 帝聞之南巡之意決矣 帝之幸也皇太子亦從焉即 天智帝是也又書紀 持統天皇四年九月 天皇幸紀伊又續紀 文武天皇大鳳元年九月 太上天皇幸紀伊國冬十月 車駕至武漏温泉蓋此時 二聖相偕幸焉而持統帝則併前兩回萬葉集所載亦足以徵之矣然則此地温泉之美海嶽之勝所稱於古者其將奚疑乎今村中相傳稱御船谷御幸芝者乃隨幸之遺蹟云蓋茲地橫出於瀛海之中一偃蹇蟠屈如臥龍奔虬北與田邊城相對

面勢海灣灣大十有餘里其間蒼顏秀壁之削立山浦長洲之聯亘漁村之點綴島嶼之莽散異態詭狀不可縷形憑高望之恍如入三億都其遠望則峻嶽巒峰濃淡分彩而聳於雲表大瀛萬里渺無際涯一買帆商舶往來出沒於風濤煙雲之中者一舉目而足矣誠海南之壯觀也有間王獨病之言不虛矣今溫泉五焉曰元湯曰屋形湯曰濱湯曰崎湯曰摩舞湯故老相傳元湯最舊古之所用信矣余聞之醫曰溫泉說本草以下皆未盡獨稱若水香太沖所論確當其言曰凡地有火脉有水脉二脉相交則成溫泉其性極熱觸物則變又曰溫泉必生硫黃蓋溫泉之滓也按茲地故稱鉛山以地出鉛也鉛之爲性甘寒無毒極熱觸之相和且無硫黃氣者其山邪夫物之峻烈取刻雖速其害亦多其唯溫柔和煦足以奏功無有後害所以爲貴也昔時聖駕相繼臨幸得非爲此耶若乃助氣溫體通滯利關節解結發病愈瘡諸如此之類皆此湯所驗而四方來浴者各宜自得焉況有奇偉秀絕之觀交相輔以獨病如有所稱乎此皆不可不知也余奉命巡省此地邑長某來請曰吾邑溫泉貴於天下最

顯於古願記其事俾來浴者有考焉於此是乎書刻之石

天保壬辰歲孟冬

仁井田好古撰



物之峻烈取レ効ヲ雖レ速ト其害モ亦多シ其唯温和煦足ニ以  
 奏ルニ功無キ有ニ後害ニ所ニ以爲貴ト也昔時 聖駕相繼テ臨  
 幸スル得レ非レ爲レ此レカ耶若シ乃助レ氣ヲ温レ體ヲ通シ滯ヲ利シ  
 關節ヲ解テ結ヲ發シ病ヲ愈シ瘡ヲ諸如此ノ之類皆此湯ノ所ニ驗アリ而  
 四方來浴スル者各宜シ自得ニ焉況ニ有ニ奇偉秀絶之觀交々相  
 輔ヲ以獨レ病如シ有間王所ニ稱乎此皆不可ニ以不知也余奉  
 レ命ヲ巡省此地ニ邑長某來リ請テ曰吾邑ノ溫泉貴ニ於天下ニ最

紀伊續風土記卷之七十二

牟婁郡第四

秋津莊 阿鹽豆 總三箇村

秋津莊總て三箇村芳養莊の東にありて北は日高郡南部莊に接し東は三柄莊栗栖川莊に接し南は田邊莊に隣る四面皆山峯相圍みてたゞ坤隅一面平野ありて田邊莊に續く大抵南北二里二十八町餘東西長短相補ひて二十五町許秋津川村上にあり上秋津村下にあり二村相接する處兩山峽をなして其間一里許僅に一條の流を通するのみ因りて秋津川村は北の方に一區域をなし上下秋津村南の方に一區域をなす其形殆腰鼓の如し秋津川村居山溪の間に散在して一所に聚らず然れども農糧相兼るを以て生産乏しからず上下秋津田島稍々廣くして沃野といふへし此地古の牟婁郷の内なり秋津の名御幸記及文治頃の歌に見はる莊名の起れるはいつれの時なることを知らず其名義を考ふるに下秋津の南に秋津王子の神祠あり此社古は今の社地より南七町許柳原村今下高呂にありといふ地にあり其地南の方田邊莊湊村と相接す湊は齊明紀に所謂牟

婁津なり此地その水門なるを以て水門の神速秋津彦速秋津姫を祀り秋津の名起りしならん秋津王子社其社なるへし大抵某の王子と稱するは昔若一王子を祀りて地名を以て此に冠らしむる事なれどもまづ然らざるものあり蓋より其地に神祠ありて是に就きて御神拜なご御坐な以て稱するものあるへし

○秋津里 秋津山 夫木抄 家集秋津 法印定圓

み取月の比とも見えぬ草葉のあ 秋津のさとの道れ露けさ

里 そみ人まらけ 見とせと切目の山も霞みつゝ

秋津の里は春めさよきぞ 後鳥羽院熊野御幸時切目王子御會

遠山落葉 春宮亮藤原範光 見とせと木々の木れ葉も散とてゝ

秋津の山は名のみありきぞ

○秋津川 莊中を貫きて流る水源二ありて東なるは秋津川村小名竹藪

より來り西なるは同村小名谷川より來り小名下の産土神の所に至りて合ひて一となり田邊城下に至りて海に入る流

るゝ事總て三里許

○川中奇勝

秋津川村の小名下と上秋津村と相接する所兩山峽をなすも其間一里餘にして秋津川其間を流る山川の奇勝殆状すへからす此地龍神山は西に在り鷹尾山東にあり巖巖嶮峻として東西に相亘り兩山此所に來りて相迫り對峙して峽をなす奇巖怪峰突起奮揚して崖湫に至りて犬牙錯出するもの互に相避るか如し一條の藍流其間に注ぎて宛轉紆餘として吼ゆる事雷の如し其東側に一線の細徑巖腰に傍ひて轉回百折斷んとして僅に通すかくの如きもの一里餘其中間橋ありて線路西側に轉す其形狀能畫手の畫さ成すか如し是を高橋といふ深布ありて懸る事二丈許總て此の如き絶勝近境其比を見す山容石質又他山と絶て異なりこれまた一奇なり峽中葦蘭を産す常に羣猿百有餘出遊ふ土人いふ鷹尾山より來る猿群は皆鼠色なり龍神山より來る羣猿は皆黒毛なりとぞ

下秋津村

志毛阿法立

田畑高 千二百二十一石一斗三升三勺

家 數 百六十七軒  
人 數 七百二十五人

田邊莊湊村小泉橋より北二十町餘にあり村の北に小名内田川原といふあり其地民家多し若一王子及雲森社の棟札によるに此地中世湯川直光又愛洲元俊同長俊等の領地と見ゆたり村中若一王子雲森明神大悲權現の三社を産土神として一村の中各祭日を殊にす

○若一王子社 境内周六十六間

末社 若宮 拜殿

村の巳の方小名安井といふにあり御幸記に秋津王子とある是なり秋津の義莊論に詳なり當社舊は此地より六七町南柳原といふにあり永正七年寛文九年の棟札等に秋津莊柳原と書す是なり柳原は熊野往還なり後洪水ありて秋津川の流南に移りしより社を今の地へ移せりといふ元禄六年の棟札に當社非村にあり

○雲森明神社 境内周百六十二間

末社 八百萬神遙拜所 拜殿

村の乾山上にあり祀神詳ならず永正三年の棟札に奉興立一本願檀那愛洲三郎左衛門源元俊と見ゆ天文十年の棟札に愛

洲三郎源長俊再興とありて神名を載せず元禄十五年再興の棟札に始めて雲の森大明神と記せり雲森は地名なり

夫木抄 寶治二年百首森紅葉 正三位知家

むら雨のけさもゆきよの雲の森

くたひ秋の梢をむらん

○大悲權現社 境内周四十間

末社 八百萬神遙拜所 拜殿

村の乾小名大西といふにあり祀神詳ならず

○國府宮明神社 境内周二町餘

小名青木といふにあり往古尾張の國より勸請すといふ祀る神詳ならず拜殿あり

○小祠三社

鳴神明神社 社地除地小名青木といふにあり

申神二社 一は社地周八間村の北大西といふにあり一は社地周八間村の北大西といふにあり

○寶滿寺 岩倉山 禪宗關山派海部郡由良興國寺末

本堂 鐘樓 僧坊

村の東山上にあり上秋津村岡島の城主鹽屋三郎行久の建立にて開山は絶照和尚といふ舊は伽藍地なりしに天正年中杉若越後守破却す後今の形に再興すといふ末寺三箇寺村中

にあり 藏むる所の古文書に當寺極那野方主徳目良方彌次郎春津浜川七郎右衛門殿直敷龍神石見守殿右四人當寺檀那四方あり

○光明寺 禪宗關山派村中寶滿寺末村の東にあり

○普光寺 禪宗關山派村中寶滿寺末村の西にあり

○眞福寺 禪宗關山派村中寶滿寺末村の東にあり

○釋迦堂 村中にあり

○秋津野

村の東南にあり八町許の野なりしを今は皆田地となれり御幸記及夫木抄に山里をよめるは皆此地なり又萬葉集に岩倉の小野ゆ秋津にといふ歌をも此地の事とし八雲御抄等に紀伊國とあれども是は同名異所にて大和國吉野郡なり是等の歌するに依りて上秋津の小名に一目さいふ山あるを大和國とし寶滿寺の山號に岩倉山と號したるは其亦の附合なり

坤庵集 金蓮寺十首歌合に寒艸

頓阿法師

くちのゐる枯葉も霜も埋もせて

名のみ秋津のをの、淺ちふ

千首 九月盡 宋 雅

くまてゆく秋津の小野の淺ちふも

およひの露のおさやせのれむ

草根集 初秋 正 徹

さひしさはいつも秋津のをのゝ露

此ころ草にかはる色かな

是等の歌大和なるへきか此地なるへきか後世の題詠は  
さためかたけれども熊野御幸以來は此地をよひまじき  
にもあらねはしはらくこゝに出せり此餘いはくらとよ  
み又は雲尾花などをよみ合せたるは萬葉集の歌により  
たるなれば吉野にある方と見ゆればすへてはふきつ

○舊家

田邊領地士 目良 武藏

當家は熊野別當港増の後なり芳養の目良田邊の田所と同姓  
にして其系の分る所知るへからず秋津莊の領主として秋津  
川に居る永祿年中に目良淡路守といふあり天正年中に當莊  
地頭目良彌次郎春港といふあり秋津川村の中峯の  
城は其居城といふ天正十三年一國一城の命あり中峯の城廢  
して春港浪人す其子孫下秋津村に移る寛文二年より四代の  
間秋津組大莊屋を勤め寶曆九年領主より地士とす

上秋津村

加美阿佐豆 小名サカケニ 左向谷 久保田

田畑高 千四百十六石九斗七升六合

此に雲祭す寛永の頃下秋津村栗山若大夫といふもの再興と  
いふ

○小祠四社

辨財天社 社地周八十四間村の東十町餘小名畑といふにあり

申神社 社地周十一間村の坤小名岩内といふにあり

大將軍社 社地周十四間村の長にあり末社妙見社あり

愛徳山權現社 社地周四十六間拜殿あり

○千光寺 鷹尾山 禪宗關山派京妙心寺末

本堂 六間 鐘樓堂 五間

村の南小名平野といふにあり古傳にいふ百合若大臣縁丸といふ鷹の吊の爲に當寺を建立す古は鷹尾山にありしに天正年中杉若越後守破却せり今猶堂の故址に礎石等あり七八十年前村民伽藍の敗壞せるを悲みて其椽柱等の遺材を以て當寺を山麓に建立す中興開山を快輔和尚といふと末寺二箇寺古牌二あり銘云前任當山得中卒和尚願師とありて裡に千時永享元年己酉十一月廿五日光孝寺殿左金吾督立源本公大願定門神儀裏に奉徳乙亥三月廿八日とあり

○興禪寺

禪宗關山派田邊城下海藏寺末村の坤岩内といふにあり

○小堂九宇

安養寺 白尊といふにあり

不動寺 境内周五十八間禪宗關山派村中千光寺末小名畑にあり

紀伊續風土記 卷之七十二 牟婁郡 秋津莊 秋津川村

家數 三百七十九軒  
人數 千五百六十人

下秋津村の北十八町餘にあり北は川中の巖石鎖せるに似たり村散在して字多し小名二あり村の西十町餘にあるを左向谷といひ村の南十三町許にあるを久保田といふ享保十九年五月洪水にて山崩れ田畑村居流亡して盡るに至らんとせし事ありといふ

○川上明神社

境内周百三十二間

攝社 祇園社

末社二社 若宮八幡宮 八百萬神通拜所 拜殿

村中にありて産土神なり古老傳へて古肥前國佐賀郡より勸請すといふ社舊は今の社地の坤にありしに享保の頃大水にて山崩れ祠并に人家數十軒潰亡して後今の地に移すといふ舊地に楠の大樹あり古き祝文を傳へたり

○立岩明神森

境内山周十七間

小名左向谷にあり大石を神とし祀る祭禮十一月十五日

○龍神社

境内周五十間

龍神山の上により拜殿及末社愛宕社あり鳥居は下秋津村にあり境内に小池あり高峯の崩なれども大旱に水枯れず莊中

福田庵

不動寺同境内にあり千光寺末

寶藏寺

小名天ヶ谷といふにあり

明徳庵

小名杉原といふにあり

高地城跡

村の申酉の方山、上にあり東西二十間南北五十三間

岡島城跡

村の寅の方山、上にあり平地方八間鹽屋三郎行久の城跡といふ行久は上下秋津村の地頭といふ

鷹ノ巢城跡

村の子丑の方鷹尾山の内鷹ノ巢といふにあり東西二十五間南北十間山嶮にして登るへからず愛洲三郎長俊の城跡といふ長俊は上下秋津村の地頭なり

地士

田邊領地士 野村 源内

秋津川村

阿佐豆寶波

村居五に分れ各小名あり 下中 竹藪 谷川 洞

田畑高 五百十八石二斗九升二合六勺

家數 百七十三軒

人數 七百人

上秋津村の北にありて山村なり一村にして莊中大抵三分の二に居る山間にて小谷多しといへども東西の兩谷これを總ふ秋津川は總名にして東の谷に下中竹藪の三箇所あり西の谷に谷川あり下は上秋津村の北一里二町にあり中は又其北二十四町餘にあり谷川は中の乾十二町餘にあり河は谷川の北二十九町にあり村民多く炭を燒きて業とす山中所々鬱茂せる大樹多しこは村民大樹になれば神ありとして恐れて近つかざる故なりといふ

○稻荷明神社 境内周百二十間

下にあり一村の産土神なり古地頭目良彌次郎京より勸請すといふ櫻田氏代々神主なり社人六人あり古き祝文を傳ふ末に天正十一年當莊地頭目良彌次郎春湛の命により如舊本一寫了元祿十二年又寫とあり其祝文には三所大明神あり又彌次郎初良彌右衛門正上正の板札ありて稻荷大明神とあり又長十五年前還にありしを元祿十二年日良彌右衛門長今之地に移して再興すとあり

○小祠四社

荒神社 中に 王子社 社地森山周八十間竹敷にあり拜殿あり

大將軍社 谷川に 六荒神社 社地森山周六十間中にあり境内に辨財天社あり

○萬福寺 桃源山 禪宗關山派山邊城下海藏寺末

本堂 五間 六間 阿彌陀堂

下にあり目良彌右衛門尉波清の建立といふ

○正福寺 照越山 禪宗關山派村中萬福寺末 中にあり

○小堂四字

地藏堂 境内周三十間 觀音堂 境内周四十間 中にあり

釋迦堂 境内山周六十間 堂念地藏堂 谷川にあり此堂に多く盆石を備へあり故に似たる盆石を出す下品なりといふ

○中峯城跡

中にあり目良彌次郎春湛の城といふ

○大楠

小名洞のうち於陵地といふ所にあり大さ十抱根本より三間程上にて二股となり兩股の間數人を坐せしむへし千年を経しものと見ゆ其邊に又楠の大樹二本あり小堂一字あり地藏藥師を祭る堂前に舞堂あり七月に村民相集りて踊をなす所といふ

萬呂莊 麻 總三箇村

萬呂三柄兩莊總て九箇村一溪の内にして中邊路往還なり三柄莊は其長上流にありて萬呂莊は其坤下流にありて土地最狭小にして三柄莊に較ふれば僅に十の一に及はず二莊に通してこれをいふに北に榎山を負ひて栗栖川莊と界し東は岩田郷に隣り西は秋津莊と接し三方何れも山峯を以て界とす唯西南の端田邊秋津二莊に相接する所平野なり其廣袤南北三里餘東西は北の方榎山の麓にしては二里半に餘るへく南の方にては僅に二十餘町なり萬呂は牟婁の轉にして二莊は古の牟婁郷の内なり御幸記に九王子あり是萬呂の名の見わたる始めなり莊名となすはいづれの時よりなるか詳にせず三柄の名御幸記にみすの山王子あり傳へし此莊中古熊野權現の御簾の領田なりしより其名起れりとそ二莊風俗民産尋常の田家にして別に記すべき事なし唯榎山の麓梯田多く馬我野伏菟野二村最山村にして僻遠の地といふへし

○榎山

事は栗栖川莊論の下に載す

○三柄山

紀伊嶺風土記 卷之七十二 牟婁郡 萬呂莊 下萬呂村

下にあり目良彌右衛門尉波清の建立といふ

○正福寺 照越山 禪宗關山派村中萬福寺末 中にあり

○小堂四字

地藏堂 境内周三十間 觀音堂 境内周四十間 中にあり

釋迦堂 境内山周六十間 堂念地藏堂 谷川にあり此堂に多く盆石を備へあり故に似たる盆石を出す下品なりといふ

○中峯城跡

中にあり目良彌次郎春湛の城といふ

○大楠

小名洞のうち於陵地といふ所にあり大さ十抱根本より三間程上にて二股となり兩股の間數人を坐せしむへし千年を経しものと見ゆ其邊に又楠の大樹二本あり小堂一字あり地藏藥師を祭る堂前に舞堂あり七月に村民相集りて踊をなす所といふ

下三柄村より岩田郷岡村に越る山をいふ登り十三町即熊野詣の古道なり

山家集 熊野へまゐりけるに八上の王子の花面

白かりければ社に誓つけける

待きつる八上の櫻咲にけり

あらくおろすなみすの山風

○三柄川

源は伏菟野村目良より流れ出て長瀬村三柄三箇村萬呂三箇村を経て下萬呂村笠松代といふ所にて秋津川と落ち合ふ

○熊野古道

萬呂莊上萬呂村より下三柄村に至り小名かけの鼻といふ處にて今の往還と別れ巽に向ひて岩田郷岡村に至り岩田川に沿ひて瀧尻王子に至るこれ古道なり今の街道に改まる事何れの時なるを知らず

下萬呂村

志毛麻草

田畑高 六百八十二石七斗一升五勺

家数 九十一軒



人 數 三百七十八人

田邊莊湊村の長十一町餘にあり村居南北に分れて南にあるを小名小泉といひ北にあるを米佐片山といふ

○牛頭天王社 境内森山周二百八十四間

本社 稻田合殿

攝社二社 熊野權現社 稻荷社

末社 辨財天社 拜殿

中萬呂村の界小名天王代といふにあり萬呂三箇村の産土神なり神主を土井氏といふ

○若宮 社地除地小名加伊 廻りといふにあり

○初山古城跡

村中にあり東西十五間南北十三間何人の居城なりしか詳ならず

中萬呂村

奈迦麻彦

田畑高 三百九十四畝五斗六升三合

家 數 五十軒

人 數 百九十四人

下萬呂村の北十七町餘にあり村居小名天王代といふを隔てて南北に散在す

○狐白明神社 境内山周百六十四間

本社 尺前七 拜殿

小名田中代といふにあり祀神詳ならず下萬呂村天王社神主支配す

○辨財天社 社地周十間小名待賢 寺代といふにあり

○地藏堂 村の北山 柳にあり

上萬呂村

迦美麻彦

田畑高 三百九十二石八斗五勺

家 數 三十七軒

人 數 百四十九人

下萬呂村の東十九町にあり南は田邊莊新莊村に界し北は秋津莊上秋津村に隣る

○王子社 境内森周五十六間

川の向三光寺平といふにあり御幸記に超山參九王子とある是なり拜殿あり

○山王權現社

社地周六十四間小名莊法平といふにあり拜殿あり

○三光寺 日立山 眞言宗古義田邊城下高山寺末

小名法下にあり本堂四半僧坊あり

○影見王子社

境内森山周九十間

村の巖岩田郷岡村に越ゆる道にあり御幸記にみすの山王子とある是なり土人いふ古御神社邊の谷川にて影をうつし見給ひて此社に鎮座す故に影見といふとそ

○知法寺 龍口山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末

村の南の山麓にあり堂七間僧坊等あり

○巖屋觀音堂 境内山周百三十間

村の巖登ること三町許にして岩穴あり高さ七間半横十三間深さ四間斜なる岩の上に掛作りの堂を作り巖石を以て牆屋に當つ古は巖山普門寺といひしと堂五間に三間なり

○地藏堂

小名高坊といふにあり萬治二年村中に五郎といふ者獄に繋かれしに此地藏に祈り夢の告げを得て死罪を遁る土人因りて五郎地藏と唱ふ僧坊あり

○如來堂 境内周百三十間

村中にあり村中榎本某の家記に此堂の事を記していふ一條帝の御時尾張國熱田に定尊といふ僧あり夢の告げによりて信州善光寺如來の像七體を換し所々に安置す其一體を當所に安置し伽藍を造立して淨覺山報恩寺と號す 白河帝

三 栖 莊

彌須 總六箇村

下三栖村

志毛美須

田畑高 七百八十一石三斗八升五合一勺

家 數 九十九軒

人 數 四百五十二人

上萬呂村の長十五町にあり北は秋津莊上秋津村と界す

○中ノ宮牛頭天王社 境内周百間

末社三社 若宮 八幡宮 拜殿

村の東にあり一村の産土神なり

の御時に再建して後度々廢壞せしを榎本氏世々修造すといふ

○小堂三宇

辻 堂 境内周十二間 阿彌陀堂二宇 一は境内百三十四村中 二は境内百三十四村中 三は境内百三十四村中

○龍口山城跡

村の巽にあり東西二十間南北五十間榎本某の家記に山本數馬の弟岡村の地頭楠本六郎御籠、莊を奪ひて龍口山の城に居住す後熊野の衆徒是を取りて古の如く神領とす其後藤堂與右衛門青木勘兵衛宇野若狹守攻め落すとあり又或記に楠本六郎三好と戦ひし時當城に攻入り雜兵七十三人を討つ是より山本氏に扶助せらるゝとあり

○孝子

村民善大夫といふもの夫婦繼母に孝を盡せるを以て享和二年領主より米五俵を與へて褒賞す

○舊家

榎本氏

中三栖村

奈迦美須

○舊家

眞砂氏

熊野入莊司の中眞砂莊司の末葉といふ右馬允といふ者の代まで領地若干あり天正十三年潮見峠水ヶ峠にて豊臣家の勢と戦ひ所領に放れて浪人となり栗栖川莊村に盤居す其長

子は越前家に仕ふ次男太郎右衛門は杉若越後守に仕へて知行二百五十石を領す越後守死して後致仕して三栖村に住居す其子太郎右衛門始めて公文役を勤む後公文の名大莊屋に改まりて今に至りて九代職を嗣くといふ羽柴紀伊守及五奉行より杉若越後守に贈れる書簡二通を所持す

上三栖村

加美美須

田畑高 三百七十斗七升八合五勺

家 數 七十四軒

人 數 三百五十二人

中三栖村の東にあり村居多くは中邊路往還にあり北の方山の半腹にあるを小名切畑といふ

○一倉明神社

境内森山 東四十五間 南北四十一間

本社三社

新宮 各一間 本宮 一間

末社二社

若宮 大將軍社 拜殿

小名前田といふにあり此地古熊野の御籠領なるに依りて祭るといふ古は三栖莊三箇村の産土神なるを今は上中二村の産土神とす

田畑高 八百二十八石八斗八升七合三勺

家 數 百四十四軒

人 數 五百六十九人

下三栖村の東十一町にあり莊中にて廣曠の地なり

○小祠二社

大將軍社 社地山周二千八間小 妙見社 社地山周四十間小名

○尋聲寺

横尾山 禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末 小名堂といふにあり

○小堂二宇

藥師堂 村の中西の方にあり昔は三 眼山三眼寺といひしとす

虚空藏堂 境内周二十二間小名 大行寺といふにあり

○衣笠山城跡

村の乾にあり麓より峠まで六町餘上段周四十間中段周四十間村中尋聲寺の石垣は此所の石を取りて築きたりといふ今猶石垣の跡あり文永の頃愛洲八郎源經信の居城なりといふ

○大將軍社 境内山周百六十間

末社 若宮 拜殿

小名細手といふにあり

○辨財天社 境内山周四十間

小名切畑にあり三栖川の中島に安置す

○地藏堂 村中にあり古は長樂寺 といふ寺なりといふ

○古城跡

村の東にあり村中より峠まで十三町餘なり東西十八間南北十一間藤堂與右衛門宇野若狹青木勘兵衛の附城といひ傳ふ

長瀬村

奈我勢 小名ナガセ 長尾

田畑高 四百五十五石八斗五升四合

家 數 百二十四軒

人 數 六百七十四人

上三栖村の長二十二町にあり土地狭く皆梯田にして村居多くは山の半腹にあり長瀬は長狭の意にて山の形に仍りていふなり小名長尾は村の巽六十五町を隔て、横木山の山足にあり横木山の尾筋の長きを以て名とす

○八幡宮 境内森山周九十八間  
末社三社 若宮 山神社 拜殿  
小名澤の口といふにあり一村の産土神なり那須定守といふ者の勸請なりといへり末社定守社は即其人を祭るといふ

○小祠四社  
金剛社 社地山周六十四間小名澤の口  
大將軍社 社地山周三十間小名長尾の内上垣内といふにあり  
若宮 社地山周六十間小名長尾の内長井といふにあり  
申神社 社地山周六十間小名長尾の内瀬谷といふにあり

○不動寺 如ヶ山 禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末  
小名森にあり正平年中老山和尚の開基といふ地藏堂あり  
○光福寺 岩龍山 禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末  
本堂 六間半 觀音堂 五間 僧坊  
小名中園といふにあり

○小堂二字  
虚空藏堂 境内周十六間  
地藏堂 境内周三十二間とも小名長尾にあり  
○大倉  
伏莖野村境谷狭くして纒に細徑を通す徑の左鷹尾山の東面峻峻にして切岸の如き大巖あり高さ二町名つけて大倉といふ

ふ倉は壁巖の名なり大倉より少し劣れるを小かね倉といふ三栖川麓を流れて水中に數千の巖石あり秋津莊川中の如き奇勝にあらずといへども壁巖は彼に勝りて嶮峻たり此邊壁巖に罅隙を産す利を食る者絶壁の巖上より脊に乗り繩を以て繰るして是を取る中には謬りて深溪に墜ち蜜粉となるものありとぞ

馬我野村

婆賀乃

田畑高 百二十八石一斗二升五勺  
家數 六十軒  
人數 二百五十四人

長瀬村の小名長尾の東二十町にあり長は栗栖川莊西谷村と界し南は岩田郷岡村と接す  
○牛頭天王社 境内山周百十間  
末社二社 秋葉社 辨財天社  
小名峯の前といふにあり一村の産土神なり  
○八幡宮 境内山周三十八間  
末社若宮 拜殿

小名宮の谷といふにあり

○小堂三字

虚空藏堂 小名横山といふにあり  
地藏堂二字 共に境内周二十二間一は小名堂の嶺といふにあり一は小名下品といふにあり

○古戦場

村の東五町許にあり東西十二間南北三十二間藤堂與右衛門宇野若狭青木勘兵衛長尾坂より攻め登り湯川勢と戦ひし處といふ

伏菟野村

布村乃 小名熊川

田畑高 百八十石八斗二升七合五勺  
家數 四十八軒  
人數 二百十五人

上三栖村の丑の方長瀬領を経て四十町にあり大倉の細徑を過ぎて溪流に循ひて入る東は栗栖川莊西谷村鍛冶屋川村と接し乾は秋津莊秋津川村と界して莊の北に突出せり村名は土圍兒の生ずるを以て名つくるなりふとは古名保村漢名を土圍兒といふ蔓草なり和名鈔には土芋の字を訓めり蔓長く

少しつゝ間ありて芋子の如き丸根多く附り依りて間の名あり今も大和にては保村といひ本國及飛騨國などにて布村といふ即保村の轉語なり遠江國にては岡くわむ藤くわむなといふ其形くわむに似たる故なり小名熊川は本村の北二十町にあり

○八幡宮 境内周二百四十間

小名向垣内といふにあり一村の産土神なり拜殿あり

○大將軍社 社地周五十間小名王子といふにあり

○小堂二字

瀧頭觀音堂 境内周百二十間  
地藏堂 境内山周七十間小名向垣内といふにあり

紀伊續風土記卷之七十三

牟婁郡第五

富田莊 登婁 總十四箇村

富田莊總て十四箇村古は十二箇村なりしに後に西北堅田村を開き東南朝來附村を開きて十四箇村となる此莊田邊莊新莊瀬戸兩村の東にありて東南は安宅莊と界し東北は岩田郷と界を接し西南の間海に濱して富田川其中央を流れ良より坤に向ひて中村に至りて海に入る土地廣くして沃田多く舟楫通して運漕の便あり富田の稱眞に虛ならずその廣袤を計るに南北三里餘東西二里半餘此地は古の岡田郷の内ならん然れども岡田の稱其出る所を知らず岡田或は富田の誤にて字體近きに依りて傳寫謬るならむか按ずるに和名抄載其地皆考ふべけれども唯岡田郷の地詳ならず今一郡に郷名を配當するに岡田郷正しく此邊の事なるべし疑ふらくは岡田は文字の誤にて富田なるべしとおしは此莊中古熊野權現の社領となる故に王子權現を祭りて一莊十二箇村の産土神とす舊は莊二ツに分れて川の東南にあるを南莊といひ保呂内ノ川社川十九淵川の西北にあるを北莊といふ中吉田高井瀬尾才南莊は内川修理大夫と云ふ者これを掌り北莊は吉田某これを掌りしといふ内川の家今斷絶す吉田の家は

和伊續風土記 卷之七十三 牟婁郡 富田莊 保呂村

こ仰する者あり  
○富田川

源は栗栖川莊兵生村の安塔ヶ峰より發し栗栖川莊中諸谷の水を合せて岩田郷に入りて岩田川といひそれより當莊に入りて富田川と稱す中村に至りて海に入る舟楫栗栖川莊眞砂村まで通す海口より總て九里餘なり

○富田坂

高瀬村より南に向ひて登る事一里許これを降れば安宅莊安居村に至る坂道總て二里二十八町と云ふ坂路石高く路險にして大邊地街道の内坂道の險にして大なるは此坂を第一とす

保呂村

市路

田 畑 高 二百二十三石七斗一升三合五勺  
 家 數 五十三軒  
 人 數 百八十九人

田邊莊新莊村より南岩田郷岩崎村を歴て南の方一里十町餘熊野街道にあり富田川を隔て岩崎村に相對す保呂の名義詳

ならず

○秋葉社 社地周九十間上  
辨財天 畑と云ふにあり

○法善寺 禪宗五山派内川村林翁寺末

村の罪にあり長祿中内川治部大輔といふ人の建立と云ふ

○大日堂 境内周四十間  
村の罪にあり

○鶴巢城蹟

村の巖山上にあり東西十間南北十五間山本主膳正の家士内川平兵衛と云ふ者の城といふ平兵衛は管村及内川を領せし人なりといふ安宅莊久木村小山氏藏ひる島山植長より小山式部大輔宛の文に今度保呂城へ敵取懸候之處雖及二戰彼城落居無念次第候殊同名數多討死不便粉骨無二比類候彌忠節肝要候謹言とある保呂城は當城の事なるへし

内川村

字智之加波

田畑高 四百六十九石八斗五升一合二勺

家數 八十七軒

人數 三百二十一人

保呂村の末の方十九町にありて熊野街道なり富田川村の西

北を流れ其支流に傍ひて人家散在す内川は其支流より起れる名なり當村を此莊の本村とす

○稻荷社 境内周百二十間

村中森の下にあり文明五年内川修理大夫故ありて京都より勸請すと云ふ

○小祠二社

梵天王社 社地周七十間小  
名大坪にあり

金毘羅社 社地周六十間小名五  
段田といふにあり

○林翁寺 古谷山 境内山周七十間

禪宗虎關派京東福寺末

本堂 僧坊 鐘樓 觀音堂

村中にあり末寺一箇寺あり

○孝子

村民幸作といふもの親に孝あるを賞して近年領主より米十俵を與ふ

社川村

志也雅波

田畑高 二百八十六石八斗九升二合二勺

家數 九十二軒

人數 三百十六人

内川村の坤八町にあり富田川を隔て相對す土地廣平なるに因りて平の名あり

○小祠二社

稻荷社 社地周二  
百八十間

祇園社 社地周二十間二社共に小  
名池の内といふにあり

○角王寺 平尾山

小名上平にあり禪宗にて本寺なし

○孝子

村民嘉吉といふもの父母に孝あり享和二年領主これを賞して米三俵を與ふ

高井村

多加草

田畑高 百九十九石九斗八升五合三勺

家數 四十五軒

人數 百四十八人

平村の南十七町にあり土地少し高し村中に富田川の堰あり

高井の名是より起る

平村

多比羅

田畑高 二百四十九石四斗八升八合九勺

○最勝寺 護國山 禪宗虎關派京東福寺末  
小名社川口といふにあり昔は理勝最勝二寺ありしか頼破の後最勝寺のみ再興し理勝寺の本尊をも堂中に移すと云ふ

小名五段切といふにあり

○誓願寺 薩摩山 境内周百三十間  
眞言宗古義京仁和寺末

小名社川口といふにあり

末社 若宮 拜殿

○河内明神社 境内山周百六十間

村中を経て富田川に落合ふ村領東は安宅莊久木村と山を境して西内川限まで總て二里許の谷なり

○觀福寺 白華山

境内周八町 禁殺生

禪宗關山派京妙心寺末

本堂 九間 僧坊 七間半 鐘樓 昭堂

開山堂 鎮守社 八社 明神

村中にあり吉田村吉田氏の始祖南莊を領せし時海部郡由良興國寺なる法燈國師の弟子覺元禪師を請ひて草創し法燈國師を開山とす或は是より先中岩氏の祖範秀草創すと云ふ正安中京都兩六波羅の御教書あり覺元の跡に因りて守護地頭其餘什物數品あり鎮守八社明神は吉田氏の祖範盛の靈を祀り其後に川口明神田口明神十九淵明神社川明神内川明神平明神の七社を合祀して八社と云ふとそ末寺四箇寺莊中にあり

○弘安寺 松尾山 禪宗關山派村中觀福寺末 村の北にあり

溝端村

美叙婆多

田畑高 百七十二石三斗八升四合二勺

家數 三十八軒

人數 百三十八人

高井村の東一町にあり富田川に沿ひて村居す

○若宮 社地周八町 村中にあり

才野村

佐伊能 小名鴨居 安久川

田畑高 三百二十一石二斗五升八合六勺

家數 百十八軒

人數 四百九十五人

高井村の乾八町にあり名義詳ならず小名安久川は本村の坤にて堅田村の大池より流れ来る家居川の海口にあり小名鴨居は安久川の西礪山を隔てて相接す其地別に一小溪の海口にして浦小灣をなし三方山を以てつゝゆる如く地狹まりて平田なし西は田邊、莊瀬戸村と山を堺す村中の溪流に架せる土橋二土地狹き故に古は人家なかりしに元和以前に五左衛門と云ふ者此地に新田を墾闢して住居す南龍公田邊莊瀬戸村におはしましけるとさ此邊御遊覽ありて此家に與をよせ給ひ家の普請料を給ひ又網一帖を給ひ魚漁をなさしめ其征を免したまふ夫より漸村居増加して今は二十軒許になれり此浦に五色の小石あり大さ豆の如し

○辨財天社 社地周七間池といふ 池の中島にあり

○丈六寺 普門山 禪宗關山派高井村觀福寺末 村中にあり

○兩願寺 禪宗關山派高井村觀福寺末 村中にあり

○地士 笠松五左衛門村

堅田村

加多多 小名池田

田畑高 六百五石一斗一升六合三勺

家數 百四十三軒

人數 六百五人

才野村の北十二町にあり北は田邊莊瀬戸新莊の兩村と海陸を堺す堅田の名義詳ならずもしは田地堅田の意、又は海へ近くて村の長岩田郷岩崎村界に池あり堅田大池と稱す其流村中の田に漑くに足る小名池田は本村の北礪山を隔て田邊莊新莊村の堺海灣にあり人家少し其坤の小灣に細野浦といふあり

○八幡宮 境内森山周二百八十間

末社二社 三所権現社 拜殿

上の坊にあり一村の産土神なり

○辨財天社 社地周四町六 池の側にあり

○聖福寺 松尾山 禪宗關山派京妙心寺末

本堂 方五間 僧坊 法雲庵

小名寺の腰といふにあり法雲庵は村中にありしを明和八年境内にうつすとそ

○小堂二字

地藏堂 境内山周二千四百小 小堂 小名丸山にあり禪宗 名福田の谷にあり

○要害山岩跡

村の東山上にあり方十五間許土人は山本主膳正の家士堅田式部といふものゝ居城なりといふ

○狼煙所

小名池田の山八丈ヶ峰と云ふにあり

○孝子

村民義平といふ者養父に孝あり享和二年領主これを賞して

米五俵を與ふ

中村

奈通 小名中芝

田畑高 四百六石八升三合五勺

家數 百八十三軒

人 數 六百二十二

高井村の坤九町にありて海濱に村居す小名中芝は村の東六町にありて富田川に傍ふ

○小祠二社

大將軍社 社地周八十間 村中にあり 衣比須社 社地周十二間 濱邊にあり

○西光寺 鳳臺山 禪宗關山派高井村觀福寺末

村の北の端にあり境内に地藏堂あり

○鳥倉

才野村界の磯山なり登り五町許堅四町横平均して二町許山上高低なく甚平にして珍らしき山なり其平らなる所を土人權現平といふ舊は熊野權現の社ありしとぞ

○地十三人

西島 源作  
濱野長左衛門  
板本小右衛門

吉田村

興志賦

田畑高 百四十八石六斗八升九合九勺

家 數 五十八軒

人 數 二百三十二人

高井村の南二町にあり當村を南莊の本村とす

○稻荷社 社地周六間村中にあり

○舊家 六郎右衛門

其祖は熊野別當泰教の五代範智の弟範秀といふ者にて當村に來り住し富田法橋と號す範秀の孫範盛も富田に住して吉田少將といひて富田南莊を領す範盛法燈國師の弟子覺元を請し高井村の觀福寺を再興す弘安十一年範盛の木像を彼寺に安置して法名俊嶽善秀と云ふその後孫天正中領地に放れ土民となれり

十九淵村

都豆羅夫知 小名イセケニ 伊勢谷 血深皮田

田畑高 二百九十六石四斗四升八合

家 數 百四軒

人 數 五百二人

吉田村の東富田川を隔て十五町にあり村の東は山深くして安宅莊入木村と山峠を境とす北の方保呂村社川村領より富田川に添ひ當村の北小名血深皮田を経て本村に至るを大邊

地街道とす川屈曲して羊腸の如し因りて十九淵の名起る文字古くは葛淵と書くを正しと云ふへし今十九と書くはつゝの借字にてらは添へて呼ふなり小名伊勢谷は本村の巽十町許にあり

○若一王子權現社 境内山周十六町

攝社 住吉社

末社三社 稻荷社 辨財社 辨財社 拜殿

小名伊勢谷にあり莊中朝來歸堅田の二村を除きて十二箇村の産土神なり社殿壯麗にして境内も廣し相傳へて熊野本宮第四の宮天照大御神を勧請すといふ故に此地の名を伊勢谷といふ此地古は熊野神領なりしならむ古は祭日に田樂舞流鏑馬等もありしに今は絶わたりと云ふ文龜元年元龜三年文祿五年等の棟札あり神主を吉田大和といひて吉田範秀の後なりと云ふ社僧一人禰宜二人あり

別當 海門寺 介谷山

太子堂 鐘樓 僧坊

社の境内にあり眞言宗古義京仁和寺末なり末寺三箇寺村中にあり

○小祠三社

紀伊續風土記 卷之七十三 牟婁郡 富田莊 十九淵村

河内明神社 社地山周四町面の内谷 さいふにあり拜殿あり

田口明神社 社地周六十間小名田口 さいふにあり拜殿あり

○圓徳寺 慶徳山 眞言宗古義村中海門寺末 小名小倉山さいふにあり

○常照院 圓通山 眞言宗古義村中海門寺末 小名面の内さいふにあり

○加勝寺 光瀧山 眞言宗古義村中海門寺末 小名面の内さいふにあり

○孝子

村民源吉といふもの養父母實母に孝あり且農業を勵む實曆十一年領主より米拾俵を興へ後又三俵を興へて褒賞す○又村民義平といふ者の妻きんと云ふ者姑に孝あり文化四年領主よりこれを賞して米五俵を興ふ

○血深皮田

小名伊勢谷の北十五町にあり

○血深山城址

小名血深の東の山にあり城主詳ならず山上三段に分る上段東西十八間南北十六間中段東西六間南北十六間下段東西二十五間南北二十間なり

芝村

志 淡

田畑高 二百四石六斗九升二合九勺

家 數 九十一軒

人 數 三百五十二人

十九淵村の南九町熊野街道にあり人家高瀬村につゞきて一村の如し古芝原を墾りて田を開き村居をなしたるより村名とせしなるへし

高瀬村

多加勢 小名フナ袋

田畑高 百六十三石五斗六升八合二勺

家 數 八十二軒

人 數 三百八十二人

芝村の東五町にあり熊野大邊地街道にして富田坂の北の麓に村居す小名袋は村の坤山を隔て十五町にあり其地袋谷川巽より來りて海に入る人家其海口にあり礪山の出崎兩方より相繞りて浦の形袋の如く舟繋フナカの地なり是を袋の湊といふ

其西小灣をなし海上に巖二並へり是を對ツの浦といふ當村の邊にて荒砥を産し諸國に賣出す

○飛鳥飛龍權現社 境内山周四町

小名圓光といふにあり昔草堂寺の僧洞外と云ふもの那智より勸請すと云ふ拜殿あり

○小祠二社

川口明神社 社地山周四十町 稻荷社 社地

○草堂寺 南島山 境内周八十八間

禪宗虎關派東福寺末

本堂 八間半 觀音堂 地藏堂

鐘樓 僧坊 七間半 鎮守三社

小名圓光といふにあり堂舍備はれり傳へ云ふ古は眞言宗にて圓光寺と云ひしを慶安元年村中中岩久照の弟洞外といふもの再興して寺號を草堂寺と改めて禪宗となす一條家九條家洞外を歸依して祈願所とす又本寺より郡中虎關一派の派頭となす虎關の木像一軀を本寺より授かりて毎年七月二十四日一派會合す什物數品あり古眞言宗なりし故に灌頂道具其餘眞言宗の佛具も多し寛文中領主より永代山林一箇所寄附あり本堂の障子皆丸山應舉及蘆雪の畫なり觀るへし

○要害山城趾

村の東にあり上段東西十一間南北五間下段東西七間南北四間城主詳ならず

○舊家

中 岩 氏

熊野別當範智の子範秀の後にして吉田村六郎右衛門と同家なり淺野左衛門佐よりの狀を藏む

○地主

竹 中 半 九 郎

○孝子

村民長兵衛といふ者の母其昇并ひに其母に孝あり安永三年領主よりこれを賞して米十俵を與ふ○村民勘兵衛といふもの夫婦其母及妻の母に事へて孝を盡す安永三年領主より夫婦のものへ稻米を與へて褒賞す

朝來歸村

阿佐羅岐 小名見草

田畑高 二百四石五斗九升六合九勺

家 數 七十九軒

人 數 四百九人

芝村の南一里半にあり高瀬村の小名袋より礪山を越りて當

村の小名見草に至り又礪山を越りて本村に至る此地は莊の南端にして人家は海灣にあり東南は安宅莊日置浦の小名市江と礪山を堺す此崎最南端に突出るを以て市江崎といふて海路を渉るもの難所とす朝來歸の名義詳ならず中古富田莊十二箇村の稱ありて朝來歸の村名其内にもれたり其地山間海磯の峽地なれば其頃は一村の姿はなかりしならん小名見草は朝來歸と高瀬村との間にあり別に小灣をなせり其出崎を見草崎といふ

○小祠四社

稻 荷 社 社地周四町小名谷山といふにあり一村の産土神なり拜殿あり

衣美須二社 社地共に周七間一社は濱にあり一社は小名見草にあり

稻 荷 社 社地周百五十間小名見草にあり寛永十二年の棟札あり拜殿あり

○普門寺 潮音山 禪宗五山派東福寺末村中にあり

○遠見番所 狼煙所

朝來歸の出崎にあり

○温泉

村の南八町椿谷にあり湯小温にして水清く性柔なり浴する時は支體膏油を漉かかことし



岩田郷 伊波多 總七箇村

岩田郷總て七箇村岩田川郷の中間を貫きて上は栗栖川に續き下は富田川となり良より坤に向ふ故に此郷東北は栗栖川莊を受け西南は富田莊に接し西北は田邊三柄兩莊に隣り東南は安宅莊と境す東西長さ五里半餘南北は廣き所三里十町餘狭き處一里十町許此地は右の岡田郷の地ならん岡田の邊に中古は富田莊と同一熊野權現の領地なるへし後世に至りて山本氏市瀬村に居城して此地を領す岩田村より下は地開け田多く土利富田莊と齊市瀬より上は深溪く田少く民家左右の山足に散在して寒村の形あり然れども古熊野の街道なれば今よりは盛なりつらんを古道廢して最僻陋の地となれるならむ此地土人傳ふる所の莊名村々にして殊なり皆信用しかたし岩田の名最古に著れて川も亦これを以て稱する時は此地の舊名なるへし因りて改めて岩田郷とす

○麥粉峯

鮎川村の南に在りて安宅莊玉傳村の境に峙たち郷中の高峰なり

○分領山

郷中の長栗栖川莊の界にあり高山にて登り三十町許二峰を起すにより一名を矢筈山ともいふ四番莊下川下村界の山に續けり二峯の中間に瀧ありて小川谷に落合ひ鮎川村にして岩田川に合ふ

○岩田川

栗栖川の下流にして栗栖川莊北郡村領より當郷鮎川村領に入り良より坤に貫き郷中の枝溪を合せ流るゝ事三里餘にして岩崎村境にて富田莊に入りて富田川と稱す栗栖川莊眞砂村まで舟楫通せり熊野の古道此川に傍ひて登る

熊野にまゐらせ給ひける時岩田川にてよませ給ひける

華山院御製

岩田川とさる心の深きれど

玉葉集

夏熊野へまわりけるにいはたといふ所にてすゝみて下向しける人につけて京なる同行のもとにつかはしける

西行法師

松のふれ岩田のきし乃夕涼み

君のふれなどかまはゆるか取

後千載集 題しらす

前大納言爲家

五月雨とゆくさたふるし岩田川

とさる瀬ごとに水はささづつ

わつらふ事ありて久しく熊野にまふて侍

らさりける比よみ侍りける

權大僧都公順

おもむかる袖をぬき寄り岩田川

とありなれにせよれとら波

新千載集 百首歌奉りし時祝ひ 權僧正良瑜

おれつらら神もえららむ岩田川

いと糸とぬめくたのぞ心を

夫木抄 十二首御歌の中 知徳門院

わさる瀬も春はせられていと川

花こきさめ浪のさくらみ

夫木抄 馬 後鳥羽院御製

いと川谷れ雲間にひら消て

せむむる駒の聲もはののに

拾遺集 河邊落葉 權中納言定家

とめし秋をくれぬとたせりいと川

また波おゆる冬れよの月

源平盛衰記

三位中將入道は日敷経れば岩田川に着給ひて一の瀬のこりをかき給ひ我部に留め置し妻子の事露おもひ忘るゝひまなければさこそ罪深かるらめども一度この河をわたるもの無始の罪業悉滅すなれば今は愛執煩惱の垢をすゝきぬらむとたのもしげに仰られて

いと川誓れ船を棹さして 沈む我身も浮かざるかな

或傳に 後白河法皇の御生前は熊野にて蓮華坊といひし僧也佛道修行の功によりて今帝位に轉世あり前生の懺悔岩田川の水底にありて柳樹つらぬき生し風ふく毎に動搖するによりて今の御身に應じて平日頭痛の御惱ありて夢見給ひてやかて岩田川を探りて懺悔を得これを觀音の頭中に籠めて三十三間の堂を造りて蓮華王院と號しかの柳樹を堂の梁とすといへり京平寺の縁起 此事はもと古事談に曰晴明者俗那智千日之行人也毎日一時瀧立て被り打けり先生も無し止大峯之行人云云 花山院在位御時令病頭風給有雨氣之時殊發動爲方不知給種種醫藥更無驗云云爰晴明

朝臣申云先生無<sub>レ</sub>止<sub>ト</sub>行者にて御座れり於<sub>二</sub>大峯某宿<sub>一</sub>入滅  
答先生之行徳雖<sub>レ</sub>生<sub>三</sub>天子之身<sub>二</sub>先生之憫懷若介<sub>一</sub>落をさま  
りて候か雨氣には巖ふとる物にてつめ候之間今生如<sub>レ</sub>此令  
痛給也仍御療治者不可<sub>レ</sub>叶御首<sub>ヲ</sub>取出<sub>テ</sub>被<sub>レ</sub>置<sub>二</sub>廣所<sub>一</sub>者定  
令<sub>二</sub>平糶<sub>一</sub>給歟としてしか<sub>レ</sub>の谷底にぞ致<sub>テ</sub>遣<sub>レ</sub>人<sub>被<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>之</sub>  
處申狀無<sub>レ</sub>相違<sub>二</sub>被<sub>レ</sub>取出<sub>一</sub>首後御頭風永平愈給云云かく見<sub>レ</sub>て  
後白河院にはまします 花山院の御事と見<sub>レ</sub>又大峯  
とのみありて岩田川の名も柳樹のことも蓮華王院の事も見  
わす元來晴明か奇特をいはひとていひ出たる浮説なるへき  
を俊世浮屠氏牽曠してかくは世にも傳へたるなり元來  
鳥羽上皇得長壽院を造立ありて一千體の観音を安<sub>ス</sub>後改め  
て蓮華王院と號すといふ方本説なるへし

○熊野古道

三柄<sub>ノ</sub>莊下三柄村より峠を越<sub>テ</sub>當莊岡村より岡川に傍ひて  
岩田村に至<sub>リ</sub>岩田川に傍ひて市ノ瀬<sub>ノ</sub>川二村を経て栗植川  
莊北郡村に至<sub>ル</sub>

岩崎村

伊波佐護 小名<sub>ノ</sub>野田

人 數 千四百五人

岩崎村の長十八町にあり田邊莊新莊村を距る事戊の方一里  
五町熊野大邊地街道なり朝來は且來と同く舊はアサコと正  
しく唱へしなるへし名草郡多田郷且來村の條合せ見るへし  
當村舊は上下二村に別つ後上村より金屋分れ下村より大内  
谷分ると云ふ上下金屋の三は村居一所にあり是を本村とす  
大内谷はそれより戎の方の小谷にあり皮田千束は本村の北  
谷にあり

○産土神社

境内周八十四間

祀 神 八幡宮 合殿 拜 殿

金屋にありて金屋の産土神なり當社は山本氏此地を領せし  
時勸請せしならん例祭七月二十七日氏下群參して踊あり其  
唱歌に市ノ瀬殿の寶の御船渡へ廻るようめでた<sub>ク</sub>攻<sub>メ</sub>攻<sub>メ</sub>たよ  
細川をこ<sub>レ</sub>河内の陣のさたしさを等の語あり市ノ瀬殿は御山本  
領内の民領主の乗船を稱する詞は富田川 永祿年間島山高政三好の  
の旗なるへきたじきの旗いまた考へず 永祿年間島山高政三好の  
長慶と河内國高屋城及教興寺等にて合戦あり山本氏島山氏  
に屬して細川三好の徒と戦ふ其凱陣を稱して此童謡ありし  
を今に傳へしならん又神庫に古き鉾を藏む

○小祠五社

紀伊續風土記 卷之七十三 牟婁郡 岩田郷 生馬村

田畑高 百九十七石六斗五合四勺  
家 數 五十一軒  
人 數 二百十三人

富田莊保呂村と富田川を隔て、相對す巖聳て川に臨める  
處あり因りて岩崎の名起る小名野田は村の坤七町にありて  
富田莊平村と界す

○大神宮

境内森山周二十四間

村中の巖山にありて一村の産土神なり永正二年の棟札に柏  
山又四郎といふもの、建立とあり

○虫逐明神森

境内森山周五十間

小名野田にあり社なし樹を神として祀れり

○正福寺 岩崎山

禪宗關山派朝來村圓鏡寺末

大神宮の側にあり大神宮永正の棟札に岩崎山正福寺とあり  
舊は京妙心寺末と云ふ境内巖窟に不動堂あり

朝來村

阿都曾 村居五箇所に分

上<sub>ノ</sub> 下<sub>ノ</sub> 金屋  
大内谷 千束皮田

田畑高 千六百九十八石五斗六升三合二勺  
家 數 二百九十七軒

梅田明神社

社地周百二十四間小名下の里田と云

辨財天社

社地周九十間大内谷の峠と云ふ所にあり拜  
殿あり市守長考といふもの、勸請といふ

虫逐明神森

社地周三十間下<sub>ノ</sub>にあり楠木を神位と  
す夏時田虫を逐ふ爲に祀る神といふ

愛宕社

社地周十二間下<sub>ノ</sub>  
梅田社の傍にあり

山 神 森

社地周五十間大内谷の  
萬ノ尾と云ふ所にあり

○圓鏡寺 水智山

禪宗關山派京妙心寺末

本 堂

觀音堂 僧 坊 鐘樓門

金屋にあり末寺二箇寺あり

○桂昌庵

禪宗關山派村中圓鏡寺末  
上の片山と云ふにあり

○役優婆塞堂

あり

○地 士

玉置宇左衛門

○孝行人

小名金屋の善七と云ふ者父母に事へて孝を盡す寛政九年領  
主より米三俵を與へて褒賞す

生馬村

伊久麻 小名<sub>ノ</sub>生馬谷 山王 救馬谷

田畑高 六百七十四石三斗二升二合四勺  
家 數 二百五十五軒

人 數 九百九十一人

朝來村の巽二町半にありて岩田川に添ふ小名三ッあり川を隔て、南にあるを山王といひ巽十四町にあるを生馬谷と云ふ生馬谷深くして大抵莊の巽を盡す其溪流三里許民家亦多くして本村に優れり本村の北二十町許にあるを救馬谷といふ生馬救馬其義詳ならず此地永正年間安宅大炊之助俊判の領地なりしこと村中山王社の棟札に見ゆたり

○山王社 境内周二百間 本社五社 護摩堂 拜殿

小名山王にあり一村の産土神なり永正十四年領主安宅大炊之助俊判三の宮修營の棟札天文十五年山本治部少輔忠朝二の宮修造の棟札あり

○稻荷社 境内森山周二町 小名生馬谷にあり産土神なり拜殿あり

○小祠二社

愛宕社 社地周四十間小 名山王にあり 祇園社 社地周四十間小名生馬谷の口にあり

○觀音寺 大貫山 淨土宗鎮西派京知恩院末 本堂 僧坊 鐘樓 小名生馬谷の中根と云ふにあり

○小堂二字

觀音堂

境内周二百八十間小名救馬谷の山上巽殿の中にあり

阿彌陀堂

村中下生馬と云ふにあり山本氏の念持佛といふ

○生馬谷川

源は安宅莊玉傳村界麥粉カ森より流れ出て村中にて岩田川に落合ふ流る、事三里許

○蛇喰城跡

小名生馬谷の中宮田莊社川村界の山上にあり山本兵部の城跡と云ひ傳ふ

○孝行人

生馬谷の善七といふもの母に事へて孝を盡す天明四年領主より米三俵を與へて褒賞す

岩田村

伊波多 小名カクク 田熊 田熊川 尾崎

田畑高 九百五十石六斗八升三合四勺

家 數 二百十九軒

人 數 九百三十人

朝來村の長十六町にありて岩田川に添ふ熊野往還の古道な

り岩田は河岸巖險より起る名にして舊此地の大名なり今は一村の名となれり小名三あり川を隔て、巽の小谷にあるを

田熊と云ひ其東溪に入る事二十町許にあるを田熊川と云ひ北の枝谷に入る事十町許にあるを尾崎といふ

○稻葉根王子社 境内周四十八間

末社 稻荷社 拜殿

村の長二十餘町王子谷といふ所の川端にあり此地熊野古道なり一村の産土神にして慶長十一年の棟札あり御幸記に稻葉根王子 此王子推五體王子 御幸過云云とある是なり二十二社註云御幸之義同五體王子云云

式の條に云或記曰 嵯峨天皇弘仁十二年夏智證大師參熊野以顯密法還向之時過紀伊國石田川下稻羽里之間一人老翁多刈稻荷之二人女亦載稻不知行方失訖其夜大師夢一人老翁者上宮二人女下中社なり云云とあり稻羽里は御幸記に稻葉根とかけけるに同く當所なるへし里の名廢して王子今當社の末社に稻荷社あるは此古事によりて祭れるならむ

○小祠五社

杉本明神社 社地森山周二十間大坊といふ所にありて産土神なり 大山權現社 社地森山周二十二間立平といふにありて氏神とす本社拜殿末社稻荷社

稻荷社 社地周三十四間 小名尾崎にあり

祇園社 愛宕社 二社社地周三十八間田熊にあり昔近年の勸助なり

○三寶寺 朝明山 禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末 立平と云ふにあり堂五間僧坊あり

○小堂六宇

影庵 小名田熊にあり

觀音堂 境内周八間小名田熊にあり

觀音堂

阿彌陀堂 二堂境内周四十二間小名上殿といふにあり

阿彌陀堂 境内周十四間

地藏堂 二堂立平と云ふにあり

○釣掛御岩跡

小名田熊にあり山本氏の家老山本兵部の城といふ兵部は當村及市瀬岡村の内を領せしこと

○頓宮跡

其地詳ならず御幸記に稻葉根王子次入ニ晝餐宿所馬自ニ此所ニ停被置師自ニ是步指ニ渡石田河ニ先參ニ瀬王子ニ候之次云云とあるは是なり按するに此地に馬を停むるは古例と見えて 後鳥羽院の御製にも岩田川谷の雲間にむら消てと、むる駒の聲もはのかにとあり

岡村

道加 小名岡川

田畑高 九百八十七石四斗五升五合三勺

家 數 四百八十八軒

人 數 六百二十五人

岩田村の北岩田川の北の枝谷にありて岩田村の小名尾崎と谷を同くす乾の方田邊莊新莊村三栖莊中下三栖村栗栖川莊西谷村等と堺す三栖よりの往還にて岡越といふ熊野古道なり此地溪間にて土地高し因りて岡の名あり小名岡川は村の良溪に入る事四十町許にあり三栖莊馬我野村と山を境す

○八上王子社

境内森山周四町餘

末社 稻荷社

拜殿 經堂

三栖莊下三栖村より越ゆる路傍にあり一村の産土神なり御幸記にヤガミ王子とある是なり八上は谷上の義なるへし僧西行當社の櫻を見てよめる歌山家集に載す其歌三栖莊三栖境内に松の大樹あり

○田中明神社

境内森山周二百五十間

て當村に住す子孫莊屋役を勤む清介の孫長は井淵の家を續き代々當村に住す次は田邊城下に遷り楠本の家を立て商賈となると云ふ

市瀬村

伊智乃勢 小名汗川

田畑高 千六十一石二斗七升八合六勺

家 數 百九十七軒

人 數 八百八十七人

岩田村の東二十八町岩田川の西熊野古道にあり市瀬或は一瀬と書す川邊に榎木ありしより榎瀬の名起れるにて松瀬梅津など同例なるへし小名汗川村の北枝谷に入る事十五町許にあり栗栖川莊西谷村と堺す中古山本氏居城を此地に築きて居住せしより其遺蹟村中及近村に多くあり

○春日社

境内森山 東西五十間 南北七十間

攝社 王子社

末社 若宮

拜殿 護摩堂

後代と云ふ所にあり一村の産土神なり古奈良より勸請すと云ひ傳ふ此社山本氏領主の時氏神なりしより其遺形にて祭

紀伊嶺風土記 卷之七十三 牟婁郡 岩田郷 市瀬村

宮代といふ所にあり祀神辨財天と云ふ一村の産土神とす拜殿あり

○小祠二社

八幡宮

社地周二百七十八間小名岡川にあり岡川の産土神なり

辨財天社

社地周七間平野といふ所にあり

○普大寺 龍雲山 禪宗關山派京妙心寺末

村中にあり境内に古き石塔あり應永三年十一月十五日橋忠實母の爲に供養と書せり本堂五間半僧坊五間半藥師堂等あり

○觀音堂 小名寺尾と云ふにあり

○國陳山岩跡 村の南岩田村の堺にあり東西二十八間南北三十四間

○尻付山岩跡

村の乾中三栖村の堺にあり東西六間半南北八間共に山本主膳正の出城と云ふ

○舊家

井淵清介

和田新兵衛行忠の子を楠本六郎忠實といふ山本氏の婿となり三栖村當村を領し龍口城に下三居城す其六世の孫を忠延と云ふ永祿中三好氏の爲に城を落さる山本主膳に依りて當村に住す井淵清介は其婿なり清介舊信州諏訪の人なり亦山本氏に客たり山本氏の亡ふる妻の家に至り山本の家を併し

祀の儀今に猶盛なり市瀬踊と云ふ踊あり歌の辭領主を祝せる辭なり事は詳に朝來村産土神社の條に見ゆ

○市瀬王子社

境内山周二十四間

清水小山にあり御幸記に一瀬王子とある是なり拜殿あり

○小祠四社

天神社

社地周五十間下平野と云ふにあり

岩淵辨財天社

社地周三十二間山と云ふにあり

辨財天社

社地周四十六間上尾といふにあり

地主社

社地周二十八間宮の尾と云ふにあり

○興禪寺 大雄山

境内山方四町

禪宗關山派妙心寺末

本堂 七間

觀音堂

僧坊

中の岡といふにあり

○小堂三宇

文殊堂 上平野といふ所の山上にあり

觀音堂 境内山周八十二間清水谷といふにあり

雨乞地藏堂 境内山周二十八間足谷と云ふにあり

○龍松山城址

村の北八町許登る事三町許にあり本丸址東西四十四間南北二十八間堀址二町四十間幅五間南北に井戸あり馬井戸址方

五間玉置氏系譜に天正九年の比山本主膳康忠當城の主となり其伯父玉置圖書直俊後見となりて共に當城に住す天正十五年杉若越後守の爲に落さるといへり城より川を隔て下屋敷の趾あり山本氏は朝來七箇村富田莊十四箇村栗栖川四番田邊三莊萬呂村日高郡鹽屋村萩原村等を領すとあり

○地士 中村傳左衛門

鮎川村

阿田加波 小名アガガ 愛賀川 小川谷 藤野

田畑高 四百八十七石三斗二合四勺  
家 數 二百八十三軒  
人 數 千七十一人

市瀬川の長三十町にあり岩田川に傍ふ川にそひて栗栖川、莊に至るを熊野古道とす鮎川は合川の義にして小名愛賀川の流岩田川と合流するより起れり此地莊の長の端にありて栗栖川莊に接して兩山此に會して谷漸狹る東は四番莊下川下村と境を接し巽は市鹿野莊深谷小谷二箇村安宅莊玉傳村と界し北は栗栖川莊石舟北郡二箇村に接す東西二里二十三町南北一里半六町小名三あり東三十町許枝谷にあるを

愛賀川といひ又其谷の枝谷にあるを小川と云ひ長二十五町許岩田川の上流北郡村境にあるを藤野といふ

○住吉社 境内周百三十間

末社 若宮 一拜殿

村の東にあり一村の産土神なり

○劔明神社 境内森山周一町四十間

末社 若宮

小川谷にあり天文二十一年勸請の棟札あり劔を祭りて神體とす戰國の比此地に引き籠りし人の所持の寶劔を祀りしならむ神威靈驗有るにより諸人尊信して四方より參詣禱祝するもの多し小川谷の産土神なり又愛賀川に劔明神と云ふ小社あり

○小祠二社

玉置山權現社 社地山周一町四十間あり

王子 社 社地山周一町四十間あり

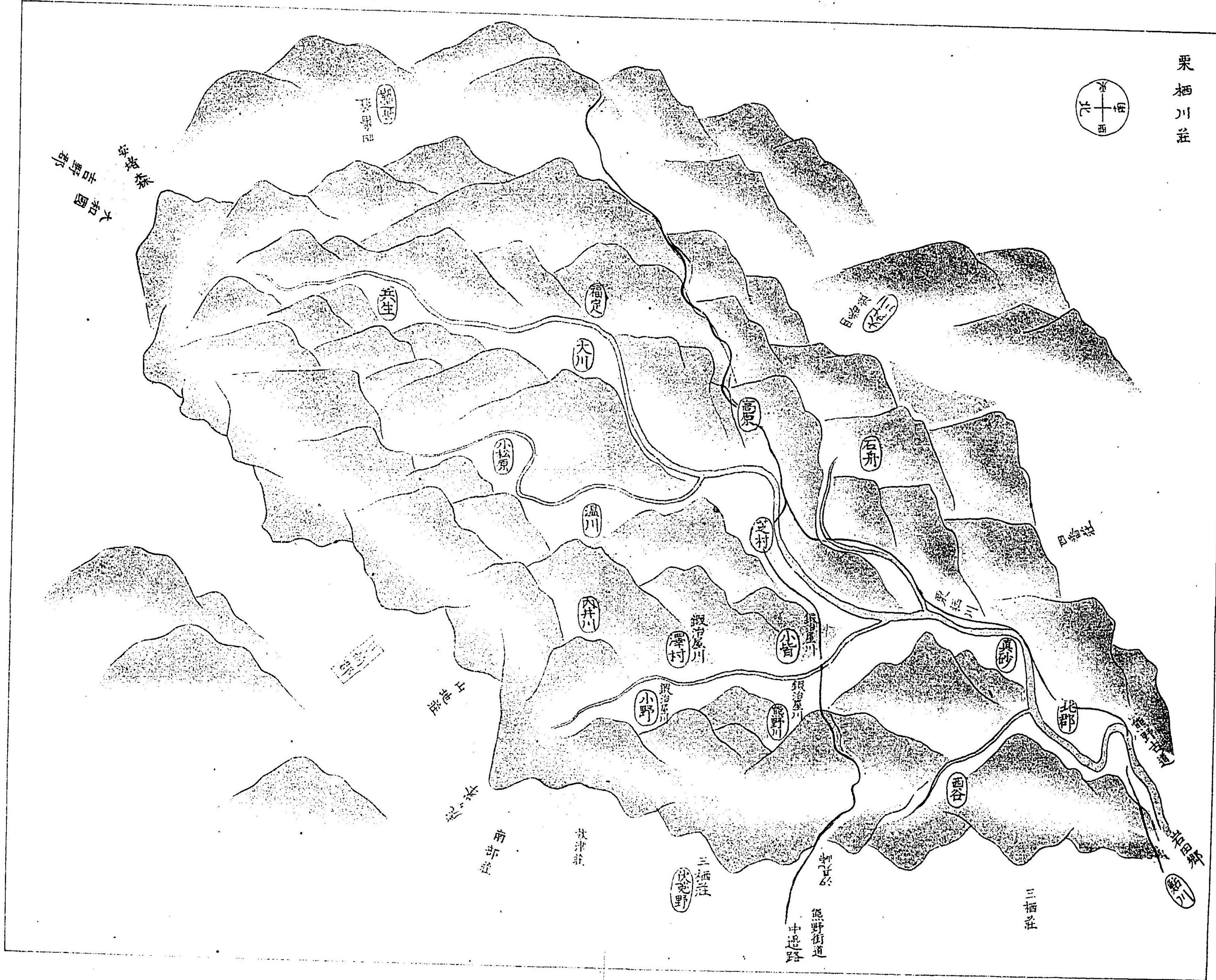
○成道寺 境内周百四十七間

村中にあり本堂觀音堂僧坊等あり

○御所平 念佛淵

小名藤野にあり 後白河法皇熊野御幸の頓宮の地と云ふ念

栗栖川盆



大田原郡 栗栖川

目物山

栗栖川

栗栖川

前部道

秋津村

三栖庄 伏見野

御前 栗栖川 中邊路

三栖庄

栗栖川

佛淵は 法皇御供養の淵と云ひ傳ふ又御所ノ瀬阿閉梨平な  
との字あり

○鉛山谷

村の東にあり舊くより礮穴あり近年又鉛を鑿りしに今又廢  
す

○地主二人

成瀬兵之右衛門

田上 圓 六

栗栖川莊

久留須賀波 總十三箇村

栗栖川莊總て十三箇村一郡の西北隅にして西は三栖秋津  
二莊に接し巽は四番莊に鄰り北は日高郡山地莊と界し長は  
和州十津川と界し乾の方山地南部二莊に界せり其廣袤東西  
六里半南北三里半栗栖川其中間を貫きて流る源は乾に發し  
末は南に向ひて岩田川となれり此莊及四番莊市鹿野莊東西  
相並ひて通して古の栗栖郷の地にして栗栖の名栗栖川の地

形によりて起れり栗栖の名義名草部栗 熊野街道中邊路を行くも

の湖見嶺を越えて此莊に入るときは深山幽谷の地にして山

川の形狀村落の様子物態土風頓に世と異にして一乾坤の地

なり栗栖川の枝谷大なるもの三あり東より來るを石舟川と

いひ乾より來るを鍛冶屋川といひ其北に在るを中川と云ふ

其谷皆狭くして道窮まるか如くなれども内はやと廣くして

諸村皆其流れに沿ひて家居あり深谷の中にあれども田畑の

耕すへきあり又山木多くして山稼もあれば山民生を安くし

て風俗淳朴なり

○槇山 潮見峠

栗栖川岩田三栖秋津の四莊の界にありて高さ二里許廻り十  
里に餘るといふ山峰の巽の方に山の足を引きたるを潮見峠  
といふ潮見より西の方十八町に捨木嶺あり捨木より潮見に  
至るまで槇山の半腰に一線路を開きて中邊地の街道とす仰  
きては槇山の高峰の峻拔するを視るへく俯しては萬仞の深  
壑に臨めり一夫關に當れば萬夫過る事あたはずといふは箇  
様の地をいふなるへし天正十三年豊太閤南征の時大軍此地  
に至りしに湯川山本二氏此地に據りて敵兵を遮りしかば豊  
公の兵進む事を待さりしも宜なり此地を潮見嶺といふは本

宮の方より来るもの此地に至りて始めて滄海を望むを以て潮見峰の名あるなり時より巽の方麓芝村まで一里

○栗栖川

源は兵生村の安塔ヶ峰より出て福定村大川村を経て高原村に至り芝村真砂村北郡村を過ぎ岩田郷富田莊を歴て海に入る莊中を流るゝ事六里餘其間を栗栖川といふ真砂村まで舟通せり此川兵生村より福定村に至る間淵狭く兩岸巖壁立して水巖脚に満ちて流る岩上樹木繁茂して隱翳をなし殆洞中の如きもの總て十餘町故に溪流に沿ひて道をなしかたし四面山峰環合し兵生村の境實に一乾坤の地と云ふへし小松原村より行く道を彌街道と云ふ山峻に石失りて寸歩も甚かたし福定村より行くも又高峰を越えて道を作る此道又峻惡なり皆溪流に添ひて歩すへからざる故なり其溪流の中に鶯鶯多く集り棲む土人これを窺ふもの一羅にして四五十羽を得ることありといふ

○鍛冶屋川

源は虎か峰より出て鍛冶屋川村を貫きて流るゝこと三里餘芝村の鍛冶屋口と云ふ所に至りて栗栖川に落合ふ此川の鮎味美なりとて人これを賞す五月より八月比まで鵜飼又は小

應綱にてこれを取る

○中川

源は笠塔山より流れ出て小松原村温川村を経て高原村の内川合と云ふ所にて栗栖川に落合ふ流るゝ事三里許

○石舟川

源は分領山のつゝき知毛谷より出て、流るゝ事八十町許芝村の瀧尻にて栗栖川に落合ふ

夫木抄

三熊野や石ふり川のとやくとり

おのひをみゆの社なりと云

忠盛朝臣

北郡村

保久曾義

田畑高 六十八石三升四合  
家數 六十六軒  
人數 二百五十二人

岩田郷鮎川村の長一里栗栖川の西北にありて川に添ふ熊野古道なり當村元祿の頃までは真砂村の枝郷なり村の中央田地の字に保久曾者と云ふあり村名はより起る名義は火草木

にて柴薪とすへき木多きより其名あるならん曾者に郡の字を假り用ふる事詳ならず郡は割の誤にてもあるへし

○山王權現社

境内山林周百十六間

本社 拜殿

末社三社

辨財天 八幡宮 二宮

村中にあり一村の氏神なり神體玉石なり

○圓通寺

慈光山

禪宗臨濟派田邊城下海藏寺末

村中にあり

西谷村

爾志院附 小名潮見峠

田畑高 五十四石六斗四升三合  
家數 六十二軒  
人數 百六十人

北郡村の亥の方三十三町餘枝谷にあり舊は真砂村の枝郷なり真砂村の西にあるより西谷と云ふ村居標山の山足溪流に添ひて乾は三栖莊馬我野村と山を堺す小名潮見峠は村の長四町許標山の半腹にあり中邊地街道にして茶店あり

の條下に  
見たり

○山神森

社地周百二十六間

川端にあり一村の氏神なり境内に石燈籠ありて社なし社を建つれば祟ありと云ふ總て熊野の山中には大樹或は古木を神體とし其境内雜樹蒼鬱として周回数町に亘るもの多し其祭日には供物を木葉に盛り或は木葉を供ふる事あり通して木葉祭りといふ山中風俗の一端といふへし

○福岩寺

仙峯山

禪宗臨濟派田邊城下海藏寺末  
村中にあり

真砂村

麻奈突

田畑高 四十七石五斗六升六合  
家數 二十一軒  
人數 七十八人

北郡村の長十二町にあり栗栖川に添ひて村居す熊野古道なり栗栖川此地に至りて水底に小石多し故に舟楫此地より上には通せず川筋古今大に變し舊の川原の地今田島となりし故に田島に川原石尤多し真砂の名は其川原の石より起れるなるへし村の墓所に應永十八年の古墓あり妙心禪尼とあり



何人か詳ならず又村の端栗栖川の岸に船つきと云ふ所あり  
瀧尻王子社芝村領より十町許川下なり土人傳へて古熊野往還なりし時の渡口なりと云ふ

○八幡森 境内山林周百十六間

村の寅卯の方一町餘にあり一村の産土神なり社殿なし

○莊司カ淵

村の南栗栖川の淵なり眞砂莊司の宅地其邊にありしと云ふ淵の邊の岩上に莊司松と云ふあり又城の屋敷と云ふ所あり其邊の字に大門射場の段等の名あり日高郡道成寺の縁起に眞砂莊司の女の事を載す此地古の熊野往還なれば彼縁起の事もありしにや

○舊家 眞砂氏

眞砂莊司の後なりと云ふ村中の舊家なれば眞砂を氏とするならむ

石舟村

以志夫理 小名向峯

田畑高 七十三石三斗一合五勺

家數 十六軒

家數 百六軒  
人數 四百六人

眞砂村の長二十五町餘にあり乾の方三栖莊より湖見峠を越えて當村に来るを中邊地街道とす驛場なり栗栖川の西にして川に添ふて村居あり村名は芝生シノキにて平地の義より出つ御所芝又は兵家の跡に一の芝二の芝なき云ふに同じの小名峯は村の坤登り二十五町餘山上にあり湖見峠の尾つゝさなり

○杵荒四所明神社 境内周百十間

祀神 春日四座 拜殿

攝社 地主明神社

小名下久保といふにあり村中の産土神にして莊中の大社なり古老の傳へに古兵生村に祀る所の春日神像洪水に流れ来るを佐本某栗栖川の股が瀬と云ふ所にて拾ひ上げて社を建て今今の地に祀ると云ふ杵荒の二字土人シユクワツと唱ふるは字音を訛れるにて幾奈良と訓讀すへしされあら大和國の奈良を萬葉集に古衣コヒきならと詠したる歌あり後人奈良の一名の如く註せり故に奈良春日四所と云ふを杵荒四所と書しなるへし浮屠四所と云ふに附會して丹生四所明神と云ふは誤なり攝社地主明神は上古より此地に鎮坐まじくけるに春日の神像を拾ひて其境内に祀り

人數 百二人

芝村の巽一里十一町栗栖川の東にあり此地南は分領山北は高原山登りて村居其溪にあり溪流を石舟川といふ石舟の字古は石伏と書しよしいひ傳ふ舟伏の二字共によりの詞に假りたること詳ならず或は石ふねの轉訛かと云ふ然れども平忠盛の歌に石ふり川と詠みたれば其說非なり石舟の川中に巖石多く横たはり溪流其巖に觸るゝを以て川の名とするならむ綱をふりさいふ小名向峯は村の北登り十五町高原境の山ノ上にあり本村の向なるを以て名とす

○天神社 境内山周六十間

攝社 山ノ神社

村中にあり村中の産土神なり

○觀音寺 分領山 禪宗五山派京東福寺末

村中にあり本堂僧坊等あり

○地藏堂 村中にあり

芝村

志婆 小名峯

田畑高 三百六十八石四斗六升四勺

崇敬して産土神とせしより自攝社とされるなるへし  
○瀧尻五體王子社 境内山周百六十間

村より十二町栗栖川の東瀧尻にあり御幸記に見たり全文下條此地急灘にして川水石に觸れて激流す當社其側にあり因りて瀧尻といふ社邊に寶篋印塔ありて三四百年間の物と見ゆれども石損して銘よみかたし境内の山上を劍ツルギ山と云ふ半腹に岩穴あり深さ三間横二間許傳へ云ふ古奥州の秀衡妻を携へて熊野に參詣す其妻臨月なり此地に至り産の氣あり人家なきを以て此岩窟の内に入りて三郎を産む其時立願して安産を得たり因りて七堂伽藍を造營して諸經并ひに武器等を其堂中に納めしといふ因りて其堂を秀衡堂と號す天正の兵亂に破壊し舊記も紛失して今は堂舎の跡なし岩穴の少し上に胎内くゝりといふ巖窟あり深さ四間程入口は四尺許出口は三尺許の窟なり毎年二月彼岸の中日には近鄰より諸人王子に詣して此穴を潜ると云ふ神寶に小太刀長九寸矢根鈴の三品あり秀衡の奉納する所といふ三種とも古色あり今社向なきを以て熊野古道廢せしより當社は參詣の人も稀に村中數寺に納むして大に衰微せり

○不寝王子廢趾 境内周八間

瀧尻王子の上一町許、山の中に礎石あり、土人傳へて社の跡なりと云ふ。今は瀧尻王子社に合せ祀れり。

○小洞二社

八幡森 社地山周百間に名野の田にあり

辨財天社 社地山周凡一町小名集にあり

○歡喜寺 小倉山 禪宗關山派京妙心寺末

小名寺平にあり、本堂僧坊あり、三百餘年前に正體和尚の開基の由にて正體の木像あり。

○堂二字

江月庵 禪宗關山派田邊城下海藏寺末小名集にあり地蔵堂なり

藥師堂 村中にあり古は眞砂八助持拂堂と云ふ僧坊あり

○小倉山

下芝にあり、土人此山の事に大塔宮の故事を傳ふれども、大塔宮此地に至り給ふ事なし、傳への誤なり。土人云ふ昔大塔宮熊野へ落家あり其衆を尊れ給へは木地を作る者云ふ其家に一宿し木地願を許し給ふ故に此山上を木地と平と云ふと云ふ此事或は惟喬親王のこまを詠り傳へしにや

○瀧尻宿所

其地詳ならず、御幸記云昇リ雀鬼ル嶮岨ニ入リ瀧尻ノ宿所ニ河灘韻忙巖石之中也、入レ夜ニ給レ題ヲ使者過來云云、即詠之持參如例披講之間參入讀上退出參此王子一歸宿所一

河邊落葉

秋先し秋をくまぬとたれる川

まゝ浪さゆる山姫の袖

旅宿冬月

瀧川のさくさといそく旅の庵を

まゆりよ過る冬の月影

○堂跡

王子の社前谷を隔て、堂跡あり、七堂伽藍の跡とも三十三間堂の跡とも云ふ、按ずるに秀衡の建立せしと云ふ地此所なるへし、今田地となる。

○古石塔

中芝といふにあり、一は幅三尺許長さ四尺餘、建徳元年庚戌十二月晦孝子等敬白と銘あり、此地昔辻堂ありて古墓多かりしと云ふ。

○三度栗

小名内平といふにあり、一年の間に三度實を結ぶ故に三度栗と云ふ、實は小なれども味は美なり。

○舊家

眞砂莊司の裔といふ 眞砂氏

鍛冶屋川村

廻遊也賀波 村居四箇所に分る各小名あり 小皆 熊野川 小野

田畑高 三百二十石三升八合一勺

家 數 六十九軒

人 數 四百二人

芝村の西枝谷にあり、村居四箇所に分る東にあるを小皆と云ひ、其西にあるを熊野川と云ひ、其北にあるを澤といひ、澤の西にあるを小野と云ふ。鍛冶屋川の名義詳ならず、屋は谷なるへし、鍛冶の義いまた思ひ得ず、山中所々に鍛冶屋と云ふ所あるをみれば、鍛冶は山中の地形を呼名にて峽なるといふ類なるへし、土人傳へ云ふ栗栖川の内に鍛冶屋敷と云ふあり、昔三條小鍛冶宗近落へし、人となり、此所に來り住居す、鍛冶屋の名これより起るといふ、これ後世附合の訛なり。

小皆

小皆は假字にて、其義は小峽なり、鍛冶屋川の入口其狭き事僅に人を通す小峽の名ある所以なり。

○若宮

社地周一町半一村の産土神なり

紀伊續風土記 卷之七十三 牟婁郡 栗栖川莊 鍛冶屋川村

○龍徳庵

禪宗關山派田邊城下海藏寺末

○廢光明寺

火災に因りて廢絶すと云ふ

○観橋

熊野街道に架する橋なり、長六間幅八尺、兩方石巖峙ちて谷底深く橋杭なし。

○龍馬瀧

蘆谷と云ふ所にあり、高さ五間許、古獵師此所にて鹿笛を吹きければ、龍馬見はれしに因りて驚き去る、後其所を見れば、岩の上に龍馬の足跡あり、これより龍馬瀧といふ。

熊野川

熊野川は假字にて、其義は隈の川なるへし、地形に因りて呼ぶなり。

○若宮

社地周三十二間山の内にあり一村の産土神なり

○法珠寺

熊野山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末

○鍛冶屋屋敷

事は村の名義の條に出たり

澤

瀧尻王子の上一町許、劍山の中に礎石あり、土人傳へて社の跡なりと云ふ。今は瀧尻王子社に合せ祀れり。

○小祠二社

八幡森 社地山周百間に名野の田にあり

辨財天社 社地山周凡一町小名平にあり

○歡喜寺 小倉山 禪宗關山派京妙心寺末

小名寺平にあり、本堂僧坊あり、三百餘年前に正體和尚の開基の由にて正體の木像あり。

○堂二字

江月庵 禪宗關山派田邊城下海藏寺末小名平にあり地蔵堂なり

藥師堂 村中にあり古は眞砂八郎持拂堂と云ふ僧坊あり

○小倉山

下芝にあり、土人此山の事に大塔宮の故事を傳ふれども、大塔宮此地に至り給ふ事なし、傳への誤なり。土人云ふ昔大塔宮熊野へ落家あり其業を尋ね給へば、木地を作る者云ふ其家に一宿し木地職を許し給ふ故に、此山上を木地と云ふ。此事或は熊野親王のこゝを流り傳へしにや。

○瀧尻宿所

其地詳ならず、御幸記云昇り崖巖嶮入瀧尻宿所、河灘韻忙巖石之中也、入夜給題、使者廻即詠之、持參如例披講之間參入讀上退出參此王子歸宿所。

河邊落葉

きんし秋をくまぬとたれらんと川

おら浪おゆる山姫の袖

旅宿冬月

瀧川のをくまぬとそく旅の庵を

まゆのよ過る冬の月影

○堂跡

王子の社前谷を隔て、堂跡あり、七堂伽藍の跡とも三十三間堂の跡とも云ふ、按ずるに秀衡の建立せしと云ふ地此所なるへし、今田地となる。

○古石塔

中芝といふにあり、一は幅三尺許長さ四尺餘、建徳元年庚戌十二月晦孝子等敬白と銘あり、此地昔辻堂ありて古墓多かりしとそ。

○三度栗

小名内平といふにあり、一年の間に三度實を結ぶ故に三度栗と云ふ、實は小なれども味は美なり。

○舊家

眞砂莊司の裔といふ

眞砂氏

鍛冶屋川村

進退也賀波 村居四箇所に分かる各小名あり

小皆 熊野川 深 小野

田畑高 三百二石三升八合一勺

家 數 六十九軒

人 數 四百二人

芝村の西枝谷にあり、村居四箇所に分る東にあるを小皆と云ひ、其西にあるを熊野川と云ひ、其北にあるを澤といひ、澤の西にあるを小野と云ふ。鍛冶屋川の名義詳ならず、屋は谷なるへし、鍛冶の義いまた思ひ得ず、山中所々に鍛冶屋と云ふ所あるをみれば、鍛冶は山中の地形を呼名にて、峽などといふ類なるへし。土人傳へ云ふ栗栖川の内に鍛冶屋敷と云ふあり、昔三條小銀宗近落人となり、此所に來り住居す、鍛冶屋の名これより起る、いふこれ後世附合の訛なり。

小皆

小皆は假字にて、其義は小峽なり、鍛冶屋川の入口其狭き事僅に人を通す小峽の名ある所以なり。

○若宮

社地周一町半一村の産土神なり

熊野川

熊野川は假字にて、其義は隈の川なるへし、地形に因りて呼ぶなり。

○若宮

社地周二町二町山の内にあり一村の産土神なり

○法珠寺

熊野山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末

澤

地形に因りて呼ひ名とするなり

○龍華寺 倉野山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末

○城跡

村居の巽の方麓より四町許山腹にあり昔判官と云ふ人籠城せし地と云ひ傳ふ又倉の平の後の山に一日泊りと云ふ地あり判官の一夜泊りし地といふ判官何人なるか詳ならず

小野

これも地形によりて呼ひ名とするなり

○明顯天王社 社地山周一町半許といふにあり 小野澤兩所の産土神なり

○小堂二宇

○阿彌陀堂

性月庵 禪宗關山派田邊城下海藏寺末 井の向といふにあり

○稻平谷

村居より亥の方に當り小谷あり深さ一里半餘谷奥に住吉明神の小祠あり土人相傳ふ春攝州堺の人落人となり此谷に來り田島を開き住す村民これを知るものなし或時芋莖谷奥より流れ出るを視て人あることを知るといふ其人堺の人なるを以て住吉明神を祭りしなり今猶小祠あり然れども今は田

田畑高 百三十五石二斗九升六合

家 數 五十四軒

人 數 二百九人

芝村の北高原村の領を経て一里十二町餘にあり栗栖川の枝谷中川に添ひて村居す村の名義詳ならず按するに烈しからざるを努留志と云ふ此地皆山高く溪流湍急なるに此所地やや平坦にして川流れ急疾ならず困りて努留美川の稱あり

○春日明神社 境内山周一町

村中にあり此社一莊の本宮にて古は莊中の總産土神なりと云ふ明應七年享祿三年永祿十一年の棟札あり今は一村の産土神なり攝社に若宮あり

○明神社

社地周一町 兵山にあり

○西光寺

養法山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末 寺の平にあり

○牛鬼瀧

村の己の方諸谷にあり高さ三間餘

○觀音瀧

村の乾の方堂の谷にあり高さ五間餘

○城跡

村の乾鎌倉峠にあり長さ四十間幅二十間何人の城跡なるか

紀伊嶺風土記 卷之七十三 牟婁郡 栗栖川莊 内井川村

畑も皆荒れて人家もなしと云ふ

○小野辻戰場

村居の坤十四町許にあり天正十三年湯川直春四番莊横矢六郎の家に隠れしを杉若越後守押寄せしに小野澤の土民等こにて相障へ杉若勢を追ひ退けし地と云ふ

○虎ヶ峯

村居より亥の方にて登り四十町許の高峯なり詳に日高郡山地莊上柳瀬村の條にあり

○舊家

澤

家傳に其祖を湯川莊司光政の弟次郎勝光といふ新宮能城に土居を構へて住せしより能城を氏とす八代能城二兵衛勝重永祿五年河内國飯盛合戦に湯川直光に隨ひて三好勢と戦ふ直光戦死す勝重兵庫と計り直光の死骸を葬め小手草摺を持歸り日高郡小松原村の城にて其子直春に贈ると云ふ後當村に土居を構へ二十餘年住せしに天正兵亂の後直春毒殺せられしより浪人となり猶澤村に住し澤を氏とし子孫百姓となる湯川直春の書簡一通を藏む

温川村

叙留美賀波

詳ならず

内井川村

宇智加波 小名足立

田畑高 七十三石七斗七升五合

家 數 三十六軒

人 數 百七十五人

温川村の西十八町餘にあり中川の枝谷内井川といふに添ひて村居す村の乾銀冶屋川村と山を境す村中に堰あり内井の名是より起れるなるへし足立は本村の東小溪にあり

○若宮明神社 境内周一町二十間

村の東垣原といふにありて一村の産土神なり銀冶屋川村の小名小皆熊野川并に當村皆若宮明神を以て産土神とすその神詳ならず按するに此莊の本社は温川村の春日明神なりといふ其傳によるに其春日明神を各村に祭りて春日の若宮と稱するなるへし

○明神社 境内周三十六間

松葉といふにあり

○向上寺 向峰山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末 村の西にあり

○夫婦瀧

村の北二十五町許にあり男瀧高さ六間許女瀧高さ四間許此瀧の上に八尺許の巖穴あり深さ知る者なし古より此穴に大蛇住ひと云ひ傳ふ寛永年間和泉國の人矢敷孫左衛門と云ふ者此村に來り獵人となる或時此瀧の側に來りしに婦人忽然として見はる孫左衛門鐵炮にて是をうつ其音大に響きて雲霧一時に起る大蛇穴の側に死せり是より其穴を蛇穴と云ひ傳ふと孫左衛門の子孫今猶村中にあり

小松原村

吉原郡栗栖 小名下皆

田畑高 百九石一斗五升一合  
家 數 四十四軒  
人 數 百六十五人

温川村の長二十三町餘にあり中川の源に村居す北は笠塔山の峰を境して日高郡山地莊東村領に鄰る小松原を開墾せしより村名とす小名下皆は本村の西枝谷に入る事二十四町にあり其谷を下皆谷と云ふ

○住吉大明神社 境内山周八十間

落合ふ所にあり川合の名あるゆゑなり

○熊野權現社 境内周百十六間

本社 拜殿

村の西街道にあり一村の産土神なり應永九年本宮より勸請すといふ應永天文天正等の棟札あり森に櫛樟の大樹數株あり

○大門王子 社地周十六間村の東十餘町街道の傍にあり石碑ありて社なし

○栖雲寺 萬松山 禪宗臨濟派京東福寺末

本堂 七間半 觀音堂

村の端にあり末寺あり

○堂ノ庭

村の西十六町許街道の傍にあり古は堂ありし地なりと云ふ方十間許の舊趾なり此處熊野古道と今の街道との別れ道なり

○壇ノ山

村の東端街道にあり 花山院法皇熊野御幸の時御經を納め給ふ所と云ふ今猶小さき五輪あり

○高原

後鳥羽院熊野御幸時瀧尻王子御會

紀伊織風土記 卷之七十三 半妻郡 栗栖川莊 大川村

末社西氏社 拜殿

梅垣内といふにあり村中の産土神なり末社西氏の社祀神詳ならず温川村山本某の記文に大塔宮十津川落の時西四郎と云ふもの供奉して後温川村に住すと云ふ其縁ある神にや

○西禪寺 禪宗關山派田邊城下海藏寺末

村中にあり本堂僧坊あり

○笠塔山

村の北にあり峰まで登り一里許

○中川

莊論にあり

高原村

多邊渡良 小名川合 中石谷

田畑高 二百七十一石九斗九升八合  
家 數 九十三軒  
人 數 二百七十九人

芝村の東登る事二十四町栗栖川の東にありて中邊地街道の驛舎なり高原は地形によりて名とす小名中石谷は村の南八町許にあり川合は村の西の方川の向ひにあり中川栗栖川に

峰月照松

因幡守通方

高原や岑よりゆるる月影は

千とせの松をてらに取りけり

大川村

於後加波 小名皆川

田畑高 百八十石六斗四升  
家 數 三十三軒  
人 數 百八十三人

芝村の長高原村領を経て五十一町にあり栗栖川に添ふ巽は四番莊大内川村と大坂峠の峰を境す小名栗木平小松野は山の腰にあり村名は中川鍛冶屋川等に對して云ふなり小名皆川本村の西十八町にあり谷川ありて村中にて落合ふ故に峽の川の名あり皆は假字なり

○春日大明神社 境内山周八十八間

末社 天神社 拜殿

小名川向にあり

○正八幡宮 社地山周八十八間 小名小松野にあり

○松雲寺 賢遊山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末 小名小松野にあり

福定村

布久左殿

田畑高 九十六石六升三合  
家 數 二十一軒  
人 數 百三人

大川村の東栗栖川を隔て、十二町餘にあり東は大坂峠の峰を境して四番莊近邊村大内川村と鄰る村名の義詳ならず按するに古此地福定と云ふ人の領にて福定名などいへるか村名とされるなるへし

○春日明神社

境内周四町

攝社 大神宮

末社 八幡宮 拜殿

小名水谷にあり一村の産土神なり

○寶泉寺 無量山 罪宗五山派高野村寶雲寺末小名竹ノ垣内にあり

○近露大塔ノ森

村の寅卯の方山上登る事一里許にあり峯より東の方近露村に當りて山路あり此山を近露大塔といふ

兵生村

比也字是以

田畑高 五十五石七升二合四勺  
家 數 三十五軒  
人 數 百六十八

福定村の北二里にあり此村莊の良隅栗栖川の源に在りて尤深山險僻の地なり故に其大さ東西二里半南北三里半北は日高郡山地莊丹生川村并に和州十津川と接し東は四番莊近邊村と鄰る坤小松原村に至り南福定に至る二道あれども道路險惡にて殆歩すへからず當村田畑少ければ山林繁茂し地廣大なるを以て材木を出し炭を焚き松煙を取るを業とす

○春日明神社

境内山周四町

攝社三社

辨財天 八幡宮

村の乾にあり一村の産土神なり

○福泉寺 如意山

村の東にあり

○安塔ノ峯

村の北に當る山峯なり麓より登り七十町樹木鬱茂して登るに道なし樹間を攀ちて纒に登ることを得と云ふ山の良は和

州十津川に接し頂より十八町下りて乾は日高郡山地、莊に續く元弘の亂に大塔宮切目の五體王子の夢の告を得給ひ熊野の方を避けて大和十津川に趣き給ふ時熊野の凶徒道を遮らんことを恐れしに此峯を越えて始めて十津川の地なれば峰に登りて安塔せし由をのたまふ是より安塔ノ峯と云ふなり此邊の高山にて山上より望むときは牟婁郡高の二郡より和州の諸山一々指點すへし紀州の地形此に至りて地形隠折し東に連なりて山峰遞進たるものを牟婁郡と和州との界とす南は牟婁郡なり北は和州十津川北山等の地なり然して安塔ノ峯其曲折の處に當りて巍然として峰を起す境界の標示をなせり

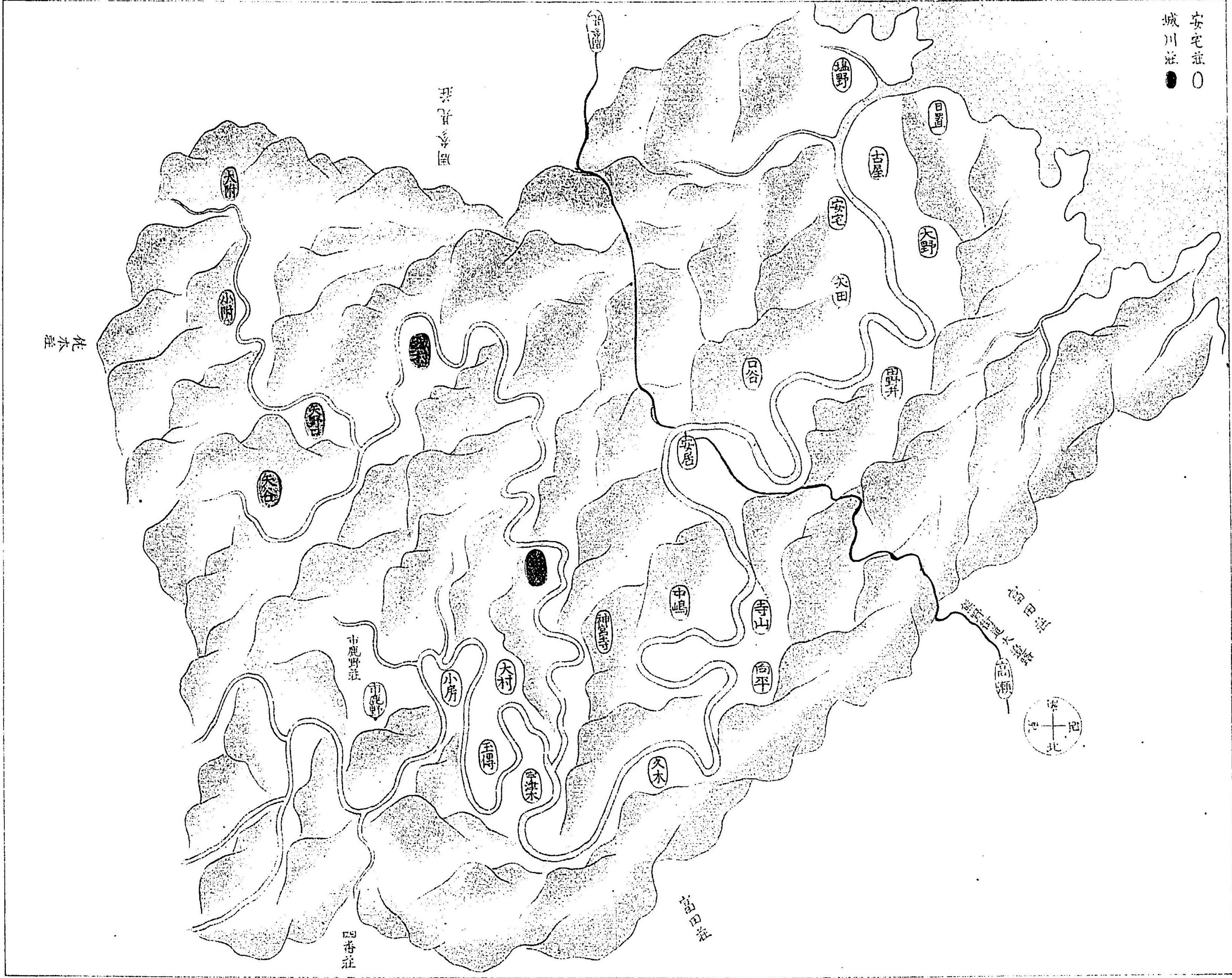
○和田ノ峯

安塔ノ峯より北に續きて別に峯を起せる高峰なり

○大滝

高さ三十尋餘大體谷の内にあり

安宅荘 〇  
城川 ㊦



花水 庄

堀多丸 庄

市鹿野 庄

四香 庄

堀田 庄

堀田川  
堀田川



# 紀伊續風土記卷之七十四

## 牟婁郡第六

### 安宅莊 阿多岐 總十八箇村

安宅莊總て十八箇村安宅川の左右に村し總て一溪の内にあ  
り小房村を上流とし日置浦を海口とす其間の諸村川の曲折  
に循ひて或は東或は西或は南或は北方面向背各異にして詳  
にいひかたし東南は城川周參見兩莊と界を接し西北は富田  
一莊と界し北に岩田郷あり西南一面海に濱して日置浦鹽野村  
こゝに在り東西長さ五里餘南北廣さ推平し二里半許莊中安  
宅川ありて運漕の便よしといへとも寺山村より以上は溪間  
狭く耕田少きを以て城川市鹿野莊の如くならされとも民産  
乏きを苦む安居村より下溪廣くして耕田やゝ多きを以て民  
産優なり日置浦海口にあるを以て山中の諸貨こゝに集り四  
方に運漕の大船多く又漁の利ありて此邊の富村なり此地は  
即古の岡田郷の地ならん安宅は此溪中の本村にて今の安宅  
大野田野井邊を總たる名なり後世安宅河内守安宅村に城を  
築きて此地を領せしより莊名とそなれるなり其名義詳なら

紀伊續風土記 卷之七十四 牟婁郡 安宅莊

す本國神名帳に載する所安宅比咩神社此地に鎮り坐すを以  
て遂に地名となるか將又此地舊より安宅の名ありて此御神  
其地に鎮り坐せるを以て神名とするか今地名を考ふるに此  
莊中の村名久木宇津木等の名あるときは安宅も此等と齊く  
木の名より起る稱ならんか

#### ○安宅川

源は四番市鹿野兩莊より出る廣見川安川前川將軍川等の諸  
川皆市鹿野莊合川村に會集して同莊市鹿野村の瀧を歴て溪  
流始めて深穩にして舟楫を通すへし是より日置浦の海口に  
至るまで總て八里といふ川屈曲多くして流れ深く兩崖の諸  
山甚高からす山容平穩にして秀麗目を悦はしむるに足る運  
漕の便最宜し其支流に城川三箇川等の溪あり安宅川海口の  
名を呼て又日置川ともいふ

#### ○三舞森

中ノ島村の巽城川莊小川村の堺にある高峯なり三舞は三前  
なり此峯圓峯にして三方より望て前面皆同きを以ていふな  
り近年頂上に碑を建て眺望の絶美を記す

#### 三舞嶺之記

紀州牟婁郡田野井村天徳寺常瑞禪師訪老納退居



武溪叙離瀾畢徐語曰我末山清冷寺背後有三間居地形極高峻以居小川安居中島三村間得名又稱三舞蓋方言呼間居如舞云而俗傳絕巖有數十頃湫池幽深難測而有宛然槐柳園之又有女神顏如舞華一人逢之則不期年而必死矣故藝苑鬼者雖往半嶺末嘗有能到巖者予聞之謂俗所傳多妄說耳不足信矣寬政庚申季冬十三日子獨行踏其巖無湫池槐柳况彼妹者乎徘徊瞻眺目則南溟淼漫白波瀼天小轉而阿右讀預阿土四置區分歷々乎可數東則那智秀拔鬼峨較其高於斯相伯仲也北有大塔西曰富田其餘高野大峯高見等爭獻勝於前後又有瀧流出於本宮直入邊地凡七八十里彷彿乎匹練際秋陽傳聞霧海商船指此嶺而擬南針云高標如此豈可與衆山同日而論哉乃下山集里人語曰我探三舞嶺所謂怪異者不一有我將欲安措三村鎮護且使人得登覽之勝焉於汝等如何僉曰師言出望外誰不敬從於是ト日率里人魚貫上剎除荆蕪伐却木石削高增卑途創三石祠中央置大日左虛空藏右狩場明神爾來禱賽者繼々乎

登降不絕而使三村中三寺轉次主祠限以一年矣予乃欲勸其事于石使後人知師之願師爲我記焉焉老稱自喪明以來不能遊戲于翰墨唯從心所欲而卒餘年而已記文非予任固辭不許因口述其所聞使侍者錄之夫三舞嘗爲里俗所誣爲妖魅界數十年何其冤也得禪師之勇往而勝樂始顯于世不啻洗冤又置三祠爲一大靈場禪師功德不其偉哉嗚呼予拙文亦因禪師而貽之無窮而已豈敢曰使禪師能不朽之云乎  
文化三年丙寅初夏仲藩  
奥州相馬長松寺物先旭杜多誌之  
田野井村天德寺菴瑞建焉

日置浦

比隣 小名志原 笠市 市江

田畑高 四百五十六斗九升六合

家數 三百七十軒

人數 千四百六十四人

富田莊朝來歸村の南二里二十八町にあり村居坤に向ひて海

○小祠九社

衣美須三社 一社は村中にあり二社は小名志原にあり

河内明神社 社地森山周百八十間小名志原にあり志原の産土神なり

春日明神社 社地森山周六十間小名笠市にあり笠市の産土神なり

日光聖眞明神社 社地森山周百十間小名市江にあり市江の産土神なり

○正光寺 長榮山 淨土宗鎮西派京知恩院末

本堂 八間 觀音堂 鐘樓

村中にあり

○海藏寺 海王山 眞言宗修驗者三寶院末

本堂 大師堂

村の北八町許にあり

鹽野村

志保能 小名居漕 名立

田畑高 百五十二石七斗二升四合

家數 五十軒

人數 二百四十六人

日置浦の辰の方十四町川の向ひにあり安宅川此邊まで湖さしのほるを以て古鹽を焼きし故に村名となれりといふ小名

に濱し安宅川の海口にして海上南は磯浦を周參見莊の堺とし北は小名箕輪を富田莊朝來歸村の堺とし南北總て三里半を日置浦といふ村の南十七八町許にして海上に突出したるを安宅崎といふ其南一里許に突出したるを小石か鼻といふ村の乾二里許にして突出したるを市江崎といふ材木の廻船數艘諸國に通ひて繁榮の浦なり故に人家も數百並列して町をなし小名も多し小名志原は村の乾三十町にあり笠市は志原の北山を隔て二十四町にあり市江は笠市の北山を隔て二十五町にあり皆海に濱して尤山海の利多し又此浦より基石を産す

○出月宮 境内森山周二百六十四間

末社

杵築社 木守社 住吉社

大神宮 熊野權現社 天滿天神

拜殿

村中にあり一村の産土神にして社殿壯麗なり大永三年安宅氏再興の棟札あり土人傳へて近郷に五社の女神ありて當社を妹神とすといふ又當社の境内古は殊に廣大なりしといふ按するに本國神名帳安宅比神ならん安宅比神は比の字の下賣を脱せるにて安宅比賣神なるへし

居酒は本村の己の方二十五町にあり名立は本村の未の方十  
五町にあり

○妙見社 境内周七十間

末社二社

八幡宮 山社 磨

村中にあり楠の大樹を神とし祀る

○廣金寺 賢王山 祖宗臨濟派矢田村寶勝寺末  
小名如地といふにあり

### 安宅村

阿多岐

田畑高 三百五十六石八斗六升五合

家 數 七十六軒

人 數 三百八十四人

鹽野村の北七町にあり古屋村大野村と川を隔て、向へり

○八幡宮 境内森山周二百四十間

末社二社 若龍神社 拜殿

小名北か地といふにあり當村及矢田村の産土神なり傳へい

ふ正平年中安宅河内守山城石清水より勸請すといふ大永四

年の棟札に奉造上棟八幡宮一字大本願安宅大炊助とあり元

龜三年に大本願安宅橘光定等とあり

○小祠四社

辨財天社 社地森山周百二  
十間村中にあり

稻荷社 社地周十二間小  
名城の内におり

○古城跡

村の東城山にあり享祿年中安宅河内守居住の城といふ東西

三町南北二町許又村の南勝山に岩の跡あり

○舊家

當家は此地の著姓にして姓は橘氏 正平  
文世 居地の名を以て安宅

と稱ふ周參見氏と並び稱せらる 正平十四  
年文世 南北の間に橘頼藤と

いふ人あり備後權守に任ず觀應元年足利尊氏頼藤の一族に

命して淡路の海賊を防ぐ爲に同國由良に居城せしむ觀應二

年周參見氏と、もに阿波國竹原莊内本郷を知行す 觀應二  
年文世

年同國牛牧莊の預となる又安宅王杉丸といふ人あり 家系に頼  
藤の子に

リ文和元年同國壹島の地頭となる其後頼藤 北朝に背く正

平十四年 南朝より備後守に任せらる同年八月 繪旨を賜

はりて周參見氏と、もに阿波國を討しむ同十七年同國の内

南方の地を賜はる 以上文世  
に據る 其後の事詳ならず淡路由良城は永

正の頃安宅甚五郎の居城にして數世の後三好長慶の弟攝津

人 數 百六十一人

日置浦の寅卯の方十一町にあり慶長檢地帳には大野古屋村

とあり後分れて二村となる民居入交れり

○梵音寺 禪宗臨濟派矢田村寶勝寺末

村端にあり鎮守辨財天社門前にあり

### 大野村

於保能

田畑高 百七十五石九斗三升六合

家 數 七十三軒

人 數 二百四十六人

古屋村の女子の方三町にあり

○春日明神社 境内森山周二百十間

村の端にあり大野古屋兩村の産土神なり大永二年の棟札あ

りしに燒失すといふ拜殿あり

○秋葉社 社地周三十二間  
村中山上にあり

○長壽寺 賢王山禪宗臨濟派田野井村天徳寺末  
村の端寺山にあり

○地藏堂 寺山にあり

○講場 海部郡西濱村善念寺末

### 古屋村

布留也

田畑高 二百十三石一斗三升七合

家 數 四十軒

紀伊續風土記 卷之七十四 牟婁郡 安宅莊 古屋村 大野村

村中にあり淨土眞宗寄合講の處なり

○修驗者 仙臺院

矢田村

也多

田畑高 二百二十八石一斗二升八合

家 數 五十三軒

人 數 二百十八人

大野村の寅の方十二町川の東にあり川の西に小名宇井我地といふあり慶長檢地帳には宇井我地矢田村とあり村の名義安宅村の小名に矢田か地といふ處ありて古安宅の被官矢田氏の住みたる地といふ是に因るに宇井か地は宇井氏の領地矢田は矢田氏の領地にて村名とされるならん

○小祠三社

妙見宮

王子權現 二社社地周百十五間

祇園社

社地周八十六間 共に村中にあり

○寶勝寺

四通山

禪宗臨濟派京妙心寺末

本堂

七間半

僧坊 五間 四間

鎮守社

川の向にあり元和元年開基といふ

○廢寺二

常琳寺 和田山にあり

宗善寺 和山にあり

○地主

和田伴七

田野井村

多能草 小名追芝 辻野

田畑高 六百四石二斗五合

家 數 百一十一軒

人 數 四百四十七人

矢田村の亥の方二十一町にあり村廣く人家多し村中に山あり中山といふ此山古安宅氏の砦なりしといふ或はいふ田井氏の小名追か芝は川を隔て、本村に向へり辻野は川向辰の方八町餘にあり

○春日社

境内山林周八十五間

末社

金毘羅社

拜殿

中山にあり一村の産土神なり天文十五年の棟札には安宅玄蕃允本願主と書し天正十年の棟札には田井左近大夫氏俊とあり當社は中山城の鎮守にして始は中山の城主安宅氏造營し後被官田井氏此城に居て造營せしなり神號天文より慶安までの棟札には五社明神と

凡の寛文五年より以來の棟札には春日明神とあり

○牛頭天王

社地周六十四間 村中にあり

○天徳寺

風蓮山

禪宗臨濟派京妙心寺末 村中にあり

○阿彌陀堂

小名中山

○修驗者 光明院

小名寺地にあり堂あり地蔵を安置す

○舊家二家

田井伊大夫

家傳にいふ榎本判官直光當村を領し田井を氏とす其後田井備後守といふあり河内國畠山義英に仕へて後安宅玄蕃の爲に亡ふ夫より世々士民となれり先祖の屋敷は村中中山にありしといふ義英より田井備後守に贈る書簡の寫三通又永正四年盛秀康綱より田井筑後守へ贈る狀の寫文龜二年幸野孫三郎奉公狀等を藏む

田井爲八

田井備後守の後といふ義英義將盛綱康綱田井備後守に贈る文書五通の寫あり又永享三年義長より榎本民部少輔に贈る文書あり皆寫なり天養中の文書あり

口谷村

久智賀多爾 小名舟木

田畑高 二百二十五石五斗一升八合

家 數 五十軒

人 數 二百六十四人

田野井村の東十五町にあり村の奥に寺谷和田谷等の名あり村名此に向へていふなり小名舟木は本村の西川向三町餘にあり舟木は此谷にて舟木を伐りしより起れるなるへし

○二社權現社

境内森山周百二十間

口生權現 合殿

村中にありて産土神なり天文六年天正七年元和六年等の棟札には神名なし祀神詳ならず

○清泰寺

天龍山

禪宗臨濟派京妙心寺末 村中山根にあり

○修驗者 大行院

村中にあり

安居村

阿吳

田畑高 二百八十七石九斗五合一勺

家 數 八十八軒  
人 數 三百八十七人

口谷村の長二十二町にあり大邊地往還なり土地稍廣し村名慶長檢地帳に安子と書す名義を考ふるに古は伽藍の近所には必安居別所などの地あり今當村の北に寺山村あり其東に神宮寺村あり然らば當村は神宮寺などの安居の地なりしなるへし

○教子明神社 境内森山周百十六間  
村中にあり一村の産土神なり祀る神詳ならず末社三社あり二社は宮の上の山にあり

○大梵天王森 境内周八十間  
村中にあり産土神なり

○大圓寺 醫王山 禪宗臨濟派京妙心寺末  
村中にあり本堂方七間僧坊あり

○安居村暗渠碑

此村從來早損の地なりしに邑長鈴木七右衛門といふもの工夫を以て村の北寺山村と其北向平村との間に岡山の指出たるありて川を隔たるを考へて其中間の山を掘抜きて暗渠を作りしより寺山安居の二箇村灌漑の利を得て田畑沃腴とな

れり暗渠は村の北二十餘町にあれども碑を茲地に建て其事を書す碑文を考ふる者其詳なるを知るへし

安宅川逶迤、從東北而來、歷向平、神宮寺、寺山等、諸村、而至安居村、安居地高、水低、不可、以、溉、田、邑、常、苦、旱、土、荒、食、邑、長、鈴木、重、秋、稱、七、右、衛、門、有、智、計、聚、衆、謂、曰、余、王、父、有、遺、策、今、語、諸、衆、寺、山、與、向、平、相距、直、徑、計、百、三、十、步、山、岡、迤、遞、橫、出、其、中、間、者、二、十、有、餘、町、形、若、橫、長、弧、川、繞、之、一、里、有、半、而、始、達、安、居、水、之、低、勢、固、然、也、今、向、平、寺、山、之、間、穴、于、山、腹、鑿、暗、渠、直、徑、通、水、則、可、以、溉、寺、山、安、居、二、邑、衆、懼、越、之、寺、山、人、不、肯、曰、穴、山、腹、而、通、水、豈、人、力、之、所、能、成、哉、重、秋、請、官、曰、鑿、山、腹、通、水、渠、邑、力、爲、之、續、之、至、安、居、其、渠、計、二、十、餘、町、願、取、我、費、於、官、因、陳、其、利、害、得、失、極、詳、明、矣、終、得、官、許、於、是、募、衆、鑿、之、向、平、爲、首、寺、山、爲、尾、首、尾、對、鑿、其、高、下、之、度、向、背、之、準、皆、出、重、秋、一、人、之、指、畫、二、年、而、暗、渠、成、者、三、分、一、而、工、費、三、倍、於、素、定、焉、衆、心、始、沮、咸、曰、用、度、不、給、重、秋、請、官、曰、官、渠、先、成、則、勢、可、繼、焉、乃、促、官、急、二、年、而、官、渠、成、乃、鼓、鑿、徒、越、之、石、堅、不、可、鑿、寸、進、累、日、礮、徒、咸、曰、渠、不、可、成、

遂辭去、邑民拍手、無策、重秋獨奮、曰、前功不可廢、衆罷、則罷、矣、我獨成、焉耳、又大集、礮、徒、曰、高下之度、不可、變、左右、曲折、則、可、避、堅、就、輟、豈、有、不、達、之、理、哉、用、度、不、足、乃、傾、竭、財、產、又、稱、貸、繼、之、歲、晚、債、者、盈、門、百、端、處、之、不、少、屈、其、志、祈、神、求、佛、斷、食、七、日、或、坐、三、穴、中、而、焚、頭、香、或、冬、日、入、水、而、誦、法、華、其、苦、身、焦、思、可、謂、備、至、矣、如、此、者、二、年、然、後、首、尾、貫、徹、高、下、之、度、不、差、毫、釐、水、注、如、決、防、邑、民、相、賀、歡、聲、震、天、實、文、化、紀、元、甲、子、五、月、也、其、用、貨、官、之、所、賜、三、百、有、八、十、金、邑、之、所、出、與、重、秋、用、私、財、者、各、四、百、有、餘、金、總、計、千、二、百、金、其、他、凡、百、之、雜、費、不、與、焉、寺、山、在、渠、下、亦、欲、溉、田、衆、怒、而、阻、之、重、秋、論、曰、此、國、家、之、利、豈、私、一、邑、哉、遂、許、之、灌、漑、之、利、勝、於、安、居、云、夫、利、民、之、道、無、他、講、水、利、爲、上、然、至、于、地、高、水、低、不、可、如、何、而、窮、矣、如、安、居、之、地、形、可、謂、窮、矣、微、重、秋、之、奇、策、而、盡、其、心、力、如、此、之、勤、上、安、得、變、礮、爲、萬、世、之、長、利、受、鼓、腹、之、樂、也、哉、使、世、之、欲、利、民、者、皆、如、重、秋、上、則、天、下、何、地、之、不、可、爲、何、民、之、不、可、濟、哉、重、秋、既、死、七、年、於、茲、矣、今、之、司、農、咸、偉、其、功、相、謂、曰、邑、民、之、於、重、秋、心、祠

口碑千歲不泯滅、然唯止於一鄉之間、非所以勸善矣、宜書其事、以徧告諸世也、乃屬筆於好古好古、因其其事、事、雖、石、其、傍、天保甲午之歲陽月、仁井田好古撰并書、鈴木七右衛門

○地士二人

家系名草那藤白浦鈴木三郎の庶流にて代々當村に住す永享の頃村中洪水にて舊記の類皆流失す洪水の時家族山上に遊べしを惜み立寄り舟にて探し求めんとせしに海上に押し流され幸ふして命を全ふる事を得たりといふ今の七右衛門の父七右衛門重秋といふもの寛政十年安居の堰渠掘振の事を願ひて同十一年より文化二年まで七年にて堀抜成就すこれか爲に家産を擲ち身命を盡して成功を得たり其事詳に安居暗渠碑文に載たり官これを褒して命して地士とす其子七右衛門今又現に地士たり

並木淳藏

寺山村

氏繼也麻 小名三箇川

田畑高 五十一石九斗九升一合

安居村の北十一町にあり川に添ひて至る此地古久木村教子社の神宮寺などの領地にて寺山の名起れるならん小名三箇川は村の乾三箇川谷にありて富田莊と境す當村及中島村神宮寺村等皆小村なり

中島村

那迦能志麻

田畑高 五十四石一斗五升一合  
家數 二十五軒  
人數 九十五人

寺山村の東十一町にあり村居川の南北にありて土地高からす古は川中の島なりしなるへし

神宮寺村

自雲具字自

田畑高 十七石五斗六升二合  
家數 十一軒

中島村の東六町にあり古久木村教子社の別當などの住したる地なるへし然れども今は寺の跡といひ傳ふる處なし

向平村

牟婁比多比羅

田畑高 四十九石四斗六升三合  
家數 二十軒  
人數 百三人

神宮寺村の西九町半川の南にあり慶長檢地帳には出原村あり川の長に居平といふ小名あり出原を訛れるなり按するに古は出原本郷にて村の向に分れたるを向平といひしか向平の方人家多くなりて却て出原は小名となれるなるへし

久木村

比左岐

田畑高 六十六石九斗九升三合  
家數 三十九軒  
人數 百八十二人

向平村の寅の方八町にあり古楸キナの生ひたる地を墾して後村となれるなるへし

教子明神社

境内森山周二百六間

小名宮の原といふにあり祀神詳ならず久木向平神宮寺中島寺山五箇村の産土神なり天文十年小山式部大輔俊次再興の棟札あり

清和天皇社

攝社二社 天子神現

末社 若宮

宮の原にあり源姓の人祀れるなるへし天神は延享四年再建の棟札に莊宮明神とあり本社莊の宮なるへきに天神社をいふは天神古く鎮坐ましゝける地に後に本社を祭れるなるへし境内に楠櫟の大木あり社人は滿徳院といふ修験者なり

小祠二社

八王子社

山王社

共に村中にあり山王は小山氏の祭る處なり故に山王といふとそ

德清寺

東光山

禪宗臨濟派京妙心寺末

宮の原にあり末寺一箇寺あり

阿彌陀堂

村中にあり

舊家

地主 小山助之進

其祖は小山下野守藤原朝政より六代下野守高朝の三男新左衛門尉實隆といふ萬朝三子あり長を判官秀朝次を右見守經幸といふ小山は下野國都賀郡の郷名にて和名抄に出たりなやまこ稱ふ當家もなやまといひ實隆鎌倉の命によりて南海の賊徒をしつめんとために元弘の頃一族郎黨若干を率ひて牟婁郡に來り潮崎莊に止る經幸後 南朝に屬す南朝の繪官二通其また同郡富田莊地頭職たり文書に據る又正平二十一年三月田邊口合戰の時經幸を頼りし同兵部丞朝時角山本見實入道其外實行三十六人討死あり南朝への注進狀による其子左衛門少尉兼光 南朝に奉仕した島山家に屬す 南朝より任官の口宣案又島山家よりの文書あり阿波國立江莊本國富田莊の地頭職たり家記文書等に據る其子右京亮行近當官に任せし口宣案義持將軍の御教書等あり行近より七代定次に至るまで代々島山の麾下となる其子式部大輔氏次豊臣家に仕ふ熊野槍山支配の朱章を賜ふ秀頼公天王寺諸堂建立の時命あつて材木の用を辨す片桐正且元の文書ありまた高麗陣の時藤堂佐渡守よりの軍器用意の下知狀あり關原の役に増田長盛に與す後領地を失ふ子八郎左衛門尉氏義と云ふ淺野家の時舊家なるを以て慶米十口を惠まると子八大夫氏辰 南龍公御入國の後地主となる三箇莊五箇村にある所の一族郎黨百餘人の連署を奉て緊要の人數に備へんとす代々久木村に住す文書數通を藏む文書部に出せり

宇津木村

禹都岐

田畑高 三十三石四斗八升八合

家 數 二十三軒

人 數 百二十九人

久木村の寅卯の方二十七町にあり村名木に因りて呼ひ來れるなり

○寶藏庵 禪宗臨濟派久木村徳濟寺末 小名内の谷にあり

○修驗者 萬徳院 村中にあり

玉傳村

多麻泥 小名川原谷

田畑高 六十二石五斗一升二合五勺

家 數 三十軒

人 數 二百五人

大村の北十八町にあり玉傳舊玉手と書す其義詳ならず小名川原谷は村の北の谷二十五町餘にあり

○妙見社 境内森山周百四十六間

末社四社 若宮 深谷社 玉傳社 藥師社

村中にあり氏神なり

○矢倉明神森 川原谷にありて其所の氏神なり 樹を祀りて社なし

○光明寺 玉寶山 禪宗臨濟派京妙心寺末 村中にあり

大村

於保

田畑高 六十三石四斗六升一合

家 數 三十軒

人 數 百三十八人

宇津木村の巳の方十五町にあり相傳ふ古當村を大宗村といひ城川莊城村を小宗村といひしと名義詳ならず或は疑ふ當村と城村との領主同姓にて本家別家の分ちあるを以てかくは稱へ來れるか然らば大村といふは大宗の畧語城村といふは小宗の畧にて濁音に稱へ訛りて文字も轉せしならんか餘り漢風に過るを以て必然といひかたし

○春日社 境内森山周百八十八間

本社二社 末社三社

宮向といふにあり當村と宇津木村の産土神なり

小房村

大寶天王社

社地周八十間谷は鳥居許なりしに正徳三年村民十河某社を建立すといふ

王子権現社

飛鳥明神合祭す社地周八十六間村中にあり永正十三年棟札あり

矢倉明神森

社地周百四間社地周百四間社地周百四間

若宮

社地周七十間宮向といふにあり以上四社とも當村宇津木兩村持なり

○西光寺 日面山

禪宗臨濟派田野井村天徳寺末 村中にあり

小房村

遠美左

田畑高 十五石五斗六合

家 數 二十一軒

人 數 八十五人

玉傳村の南十五町にあり村中を三分にしておふさこふさ大山の名あり然らば村名遠夫左は於夫左にて大の義なるへし

○春日社 境内森山周百八十三間

末社三社

村中川端にあり氏神なり

○地主社

社地周六十七間 村中にあり

○峯庵

禪宗臨濟派市鹿野莊市鹿野村吉禪寺末 村中にあり

城川莊

白也字賀波 總六箇村

城川莊總て六箇村東北に市鹿野莊あり西南に周參見莊あり二兩莊の間にはさまりし別の一小溪なり深の形巽より乾に向ひて巽隅は佐本莊と堺を接し乾隅は安宅川に至りて盡く其長さ四里半廣さ僅に一里半許溪狹小にして地の耕すへき無く運路險遠にして山木出しかたなく民生産をなすへき形なし實に窮乏の寒村なり其民俗土風市鹿野莊論に詳にいへり

小川村

遠賀波

田畑高 百四十石六斗四升七合

家 數 四十五軒

人 數 百八十七人

安宅莊宇津木村の南二十一町城川の下流にあり村の小名三に分れて上村中村下村といふ安宅の大川に對して城川を小川といふより村名は起れるならん

○川内明神社 境内森山周百二十八間

末社 若一王子社

小名中村にあり一村の産土神なり

○小祠四社

日生大明神 社地周百二十間

地主大明神 社地周十間共に上村にあり社なし神體は樹木なり

矢倉大明神 社地周百十八間下村にあり

大寶天王 社地周三十九間上村にあり社なし木を神體とす

○清涼寺 蒲月山 願宗臨濟派安宅莊田野井村天徳寺末下村にあり

城村

自也字

田畑高 九十九石二斗二升

家數 二十二軒

人數 八十九人

小川村の巽の方一里餘にあり慶長檢地帳には小宗村とあり城小宗名義安宅莊大村の條下に論せり村の北の谷を瀧の川といふ谷嶮岨にして八九間計の瀧數十ありて或は懸流或はなたれ落つ

○春日明神社

境内森山周三町四間

村中にあり古は五社ありしを寛政中一社にせしよし棟札に

いへり末社あり

○小祠三社

太神宮 社地周九十間小名厨つら 稻荷社 社地除地村中にあり

辨財天社 社地周六十八間小名 桃原といふにあり

○西來寺 曾通山 願宗臨濟派安宅莊田野井村天徳寺末村中にあり堂六間半に五間半

矢野口村

也乃久知

田畑高 四十石九斗三升四合

家數 十二軒

人數 四十六人

城村の東九町にあり周參見莊太間川村と山を堺す矢谷の口にあるを以て矢の口といふ

○矢倉大臣社

境内森山周百五十二間

宮山にあり安永二年の棟札には天一天上大明神とあり

○小祠二社

地主神 社地周二十間小名事時といふにあり社なし大樹を祀る

槻宮 社地周十間小名 許のけやき一本を祭る

○法泉菴

願宗臨濟派安宅莊田野井村天徳寺末村中にあり

矢谷村

也賀多爾

田畑高 三十三石四斗三升二合

家數 十軒

人數 三十六人

矢野口村の長十一町枝谷にあり村名矢は瀧にて深重の義なり莊中皆貧村なれども當村は殊に窮困せり

○矢倉明神 境内森山周百十間

村中にあり一村の産土神なり

○辨財天社 社地周十三間 村の奥にあり

○地藏堂 村中にあり

小附村

古部幾

田畑高 四十七石一斗六升八合

家數 九軒

人數 五十三人

紀伊風土記 卷之七十四 牟婁郡 城川莊 矢谷村 小附村 大附村

矢野口村の巳の方二十四町にあり慶長檢地帳には追槻村とあり名義大附村の條下に出せり

○鹿島明神社

社地森山周七十間道 槻谷といふにあり

○小庵 願宗臨濟派城村西來寺末村中にあり

大附村

於保都幾

田畑高 八十三石九升六合

家數 二十一軒

人數 八十一人

小附村の南十五町にあり村中谷二に分る巽の方藏谷は城川の奥にて周參見莊小河内村と峯を境とす良の方小川谷は佐本莊と峰を境とす村名慶長檢地帳には大槻村と書す古村中に大なる槻の木あり其殘木土中に埋もれありしか天明九年の洪水に流れ出たるを村中諏訪社の鳥居に造れる由寛政二年の棟札にあり今大附と書すは後訓同じきを以て字を改めしなり此大木の枝葉小附領にも及ひし故小槻の名ありと土人いへり古く追槻村といひしも大槻の轉なり

○諏訪明神社 境内森山周百六十間

末社二社

小名栗原といふにあり一村の産土神なり

○福田寺 彌陀山 禪宗臨濟派安宅莊田野井村天徳寺末

本堂 五間 僧坊 地藏堂

鎮守 祇園社

村中にあり

### 紀伊續風土記卷之七十五

#### 牟婁郡 第七

#### 市鹿野莊

以智製能 又二十五村といふ 總二十八箇村

市鹿野莊總て二十八箇村又二十五村莊といふ二十八箇村にして者は竹垣内村は舊は大瀬村の枝郷なり向山村も大谷村の枝郷なれば此二箇村を省き上下木守壱一村なればこれを合せて一村として數ふるなり安宅莊の良安宅川の上流にありて北は四番莊と接して三森半作大尾の諸嶺を以て境となし南は城川莊と接し東南七川谷郷及佐本莊と界し坤は岩田郷に界し巽は木守領大塔峯を以て四村莊と界し口熊野與熊野の界こゝに分る又熊野街道二筋に分れて山中を行くを中邊地といひ海邊に循ふて行くを大邊地といふ是亦大塔峯其中間を隔る故なり大塔峯奥口の間中に漸起して蟠根跨かる所四方七八里の間に亘り其地人跡絶わて至るものなく又其頂を窮めたる者なし其幽邃高廣人力得て詳にする事を得る所にあらず此地は即古の栗栖郷の地ならん莊中大抵東西十二里許南北六里餘溪筋東西に通して三に分る北に在るを熊野谷川といふ熊野面川二村

これにあり中にある者を前川といふ上木守下木守五味原伏苑野長瀬九川串谷野口九箇村これにあり南にあるを將軍川といふ楠垣内北谷竹垣内大瀬上露中野俣下露佐田古屋九箇村これにあり右三溪合川村に合流し四番莊廣見川も亦ここに合流して市鹿野に至り川勢盛大にして始て舟楫を通すへしこれより上は三溪皆狭少にして兩山峽をなし土民その間に居る者耕すへき地無く山の岨を墾闢して斜田を作れども土瘠せ實少し或は薪を伐り炭を焚き材木を出して産業を助く然れども道路險遠にして肩荷する者の得る所其費す所を償ふに足らず終身の間勤力勞働して常に乏儼を憂ふ其風俗を論するに大抵莊中の民居柱は皆堀込立にして屋壁とも板或は杉皮を用ひ土上に筵を敷きて床の設なく身に襪履ツレを纏ひ雨天に蓑笠を用ひず山中を歩するにも多くは跣にて草鞋なしこれを望て男女の別辨しかたきに至る朝夕の食は炭薪を負擔して僅の米を得る時は粥などに作りてこれを食ふ雨天などにて出さるときは木の實木の芽出し草根の類を以て餓を凌ぐを常とせり妊婦山中に入て薪を探るに臨月に至れば古き襪履のきれを懐に入置き若山中にて子を産む時は自溪川に臨て兒を洗ひ襪履のきれに包みて懐にし薪を頭



に戴事常の如くにして家に歸るといふことを推して其風俗を知るへし城川莊四番莊栗栖川莊大抵皆同熊野中邊地の街道にあつた故に莊中の諸村其峰巒溪壑の奇絶なると川流湖泉の清麗なるは言語盡す事あたはざる所にして村落民居の間に至りては一もいふに足るものなし因りて其風土の傑略をこゝに書して各村の條下にかゝるは唯村名方位を擧るを要とするのみ

○大塔峰

木守村の東にありて木守村より溪行五六里にして纔に其麓に至る麓まではまゝ至るものあれども古より其巔に登るものある事なし山頂二峰をなす北にあるを一の森と稱し南にあるを二の森といふ大塔は大多和の義にして二峰の間大なる多和をなすを以て大多和の峯といひしか轉したるなり溪水其西の谷より出る者を前川といひ當莊に注ぐ北の谷より出るものを安川といひ四番莊に注ぐその東の谷より出るを前川といひ四村莊に注ぎ熊野川に落つ其南の谷より出るを古坐川といひ七川谷郷三前郷に注ぐ此山口奥兩熊野の間に在りて雙峰高く聳々蟠根延蔓して殆十里に亘る熊野の鎮山といふへし古より今に至りて其頂を窮めたるものなければ

三尺に餘る髪の毛を多く堅めたるを見て肝を消したる者ありしといへり何れも極深山の事なればかくの如きこともあるへきか姑く書して異聞に備ふといふ

○入道峯

○法師峯

二峯皆木守村と四番莊下川上村との界にあり大塔峯の西に走る山脈中の高峯なり法師北にあり入道南にあり登り皆麓より二里許といふ入道と云ひ法師といふは山峯他家よりすくれて其頂を顯すを以て名つくるなり

○三森

熊野村の長に在りて四番莊下川上村との界にして法師峯の西にあり山峯三つに分る因りて名つく安宅莊より望むときは唯二峯をみる故に其地にては矢筈と名つく

○念塔峯

木守村の南五味村の巽にありて南は七川谷郷と界をなす其高さ法師に續きて亦高峯なり

○瀧頭峰

市鹿野村柿垣内村との界の高峯なり前條諸峰より低しといへとも口熊野諸莊の諸山を皆望視すへし

その高さを測る事あたはず山脈千條萬岐して諸嶽の本根となり其前後左右高峯ありて隔をなすを以て山麓を去る事十里の外ならざれば其頂を見る事を待す故に此邊諸村の者といへとも其山を見る者なし深山中に入りて材木を伐出を業とするもの三四人をなす大塔の麓木守村の奥に小屋を掛て三四年其内に住みしもの、語るを聞しに春の末三四人伴ひ早朝より山に登りしに八時比になりて僅に山の四合に至るを覺ふこれより復路して小屋に歸りしに酉の剋なりしといふ路は險ならざれども廣大なる事推し測るへし十一月頃夜中に空中にてスリキリと鳴鳥あり始は緩く後は急なり連聲一時あまり大鳥とも見えず又夜中樹枝にてオンキトウ〜と鳴鳥あり小鳥の聲なり又雪中に四五歳許の小兒の足跡を見し事あり又一寸五分位の圓形の足跡を見し事あり又六寸許の十字をなし、足跡あり其間三尺許一足にて歩しと見わ左右の足跡なく一筋に跡つきたり又安川の上牛鬼瀧の邊に人數十餘人小屋住の時深夜遠方にて猫の聲聞ゆ次第に近くなり小屋の傍を通り過るときは地に響き鐘を撞やうに覺ゆ漸に聲又遠くなる十餘人の者何れも斧をとりしばり曉まで誰一人言語を出す者なかりしとそ又牛鬼瀧の下にて

○熊野川

源は上木守村の界桁の木平より出て熊野面川の二村を歴て合川村に至りて前川と合す源より合川に至るまで總て流ること四里餘

○前川

源は大塔峰の谷より出て木守村を歴五味村に至るまで諸谷の水を合せて五味より原伏菟野長瀬九川串の諸村を歴て合川村に至りて廣見川と合す源より合川村に至るまで總て流ること九里許

○將軍川

七川谷郷平井村領大森邊より流れ出佐本莊の諸谷皆流れ落ち又竹垣内村の東將軍瀧より流れ來て大瀬村に至りて御社川と合し上露中野俣下露佐田古屋の諸村を歴て合川村に至りて廣見川に落合ふ源より合川に至るまで流ること總て五里許

市鹿野村

以知賀能 小名瀧

田畑高 二百九石六斗七升九合

家 數 百四十七軒  
人 數 五百八十二人

安宅莊小房村の東二十六町にあり市鹿野は一の野の義ならんか莊中の中此地平田多し此村名の起る所なり小名瀧は本村の良にあり村の東合川より來る川流此地に至りて大河となり是より下流を安宅川又日置川といふ瀧の川流巖險にして灘勢目を眩かし魂を駭かして久く視るへからず大瀧小瀧の名ありて瀧村の名此に起る瀧の下より始めて舟の往來ありて一日にして海口日置浦に至るへし運漕の利多く四番莊及當莊の口にして諸村輻湊の地なれば瀧の地村居頗よく山中にしては市郷の形あり

○熊野權現社 境内森山周六町半

本社 四社十一神合祀 末社二社

處 鳥居 橋

村中川端にあり當村及佐田古屋中野俣上露五箇村の産土神なり社殿頗る美なり

○小祠二社

大瀧神社 社地森山周八十八間 攝社一社あり

秋葉社 社地森山周九十八間 攝社若宮あり

○小庵 庵の谷まゝふにあり

### 古屋村

布留也

田畑高 二十石一斗六升五合  
家 數 十七軒  
人 數 六十人

合川村の坤三十町にあり小屋の義ならん文字につき唱への轉せしなり所々に其例多し

○小祠三社

三處明神社 社地周三町十二間村中にあり 矢倉明神社 社地周六十四間村中にあり

山 神 森 社地周五十間村中にあり山神社なし

○小庵

### 佐田村

遊鹿

田畑高 十八石八斗二升五合  
家 數 十三軒  
人 數 四十六人

紀伊續風土記 卷之七十五 牟婁郡 市鹿野莊 古屋村 佐田村 中野俣村 上露村

二社共に瀧にあり

○吉祥寺 鹿野山 禪宗臨濟派妙心寺末

本堂 表行 六間半 僧坊 鎮守社

村中にあり

○善光庵 村中にあり

○善行院 修驗者 村中にあり

○地土

岡本儀助

### 合川村

賀布賀波

田畑高 三十二石四斗九升二合  
家 數 三十三軒  
人 數 百五十人

市鹿野村の東一里十三町にあり安宅川の源此地より上流三溪に分れ北を廣見川といひ南を將軍川といひ其中間の溪を前とといふ村其衝にありて三川こゝに落合ふ村名これに因りて起る

○三社明神社 境内森山除地

村中にあり社殿は二社なり合川下露谷口三箇村の氏神なり

古屋村の東九町にあり佐田は狹田の義ならん

○祇園牛頭天王社 社地周五十間 村中にあり

### 中野俣村

奈迦麻多

田畑高 二十五石三升四合  
家 數 十軒  
人 數 六十一人

佐田村の東十二町にあり村中別に谷あり將軍川に落合ふ因りて中の俣の名あり

○矢倉明神 社地周四十間

村中にあり木を神として祀る

### 上露村

迦字豆比

田畑高 四十三石四斗六升四合  
家 數 二十軒  
人 數 九十六人

中野俣村の巽十二町にあり村名豆比は登比といふと同く聞

瀨をいふ即戸笥の義なり東鑑に樋をよめり大鏡にもあはひに樋かけてと見ゆ竹及木にて作り水を通するものなり因りて溪流などを引く堰溝をもかくいふ此莊に上露下露あり四番莊に近露あり又露谷などの名あり義皆同し

○光仙庵 村中にあり

大瀬村

於保是

田畑高 二十九石九斗三升九合

家 數 十六軒

人 數 六十五人

上露村の東二十四町にあり大瀬は合瀬にて御社川將軍川に落合ひの所にあり村名此に出たり大瀬竹垣内舊一村にて大瀬川谷村といふ今分れて二村となる

○宇佐八幡宮 境内森山周二百七十間

村の東四五町登呂といふ地にあり當村竹垣内二箇村の産神なり

○小庵 村中にあり

竹垣内村

多野能賀伊登

田畑高 十八石六斗六升五合

家 數 十二軒

人 數 六十人

大瀬村の東十六町にあり東は佐本莊及七川谷郷に接し北は五味村九川村と堺す將軍川の源にして山深く村境東西の長さ三里に及ぶ云ふ瀧あり其下流に將軍宮といふ石の寶殿あり大將軍を祀りしなるへし故に瀧を將軍瀧といふ將軍川の名此に起れり

○小祠二社

將軍宮 石の寶殿なり

八幡宮 山中にあり

○小庵 村中にあり

○地士 日下佐藤次

北谷村

機多太爾

田畑高 四十八石九斗五升四合

家 數 十五軒  
人 數 六十人

大瀬村の巽三十二町御社川の谷にあり御社川源は七川谷郷佐本莊竹垣内界より出つ此谷大瀬川谷の北にあり故に北谷と云ふ此谷の口大瀬村に八幡宮あり因りて其川を御社川と云ふ

○小祠二社

三上明神社

春日社 二社共社地周八十八間村中にあり外に末社二社あり

○小庵 村中にあり

柿垣内村

迦羅賀伊登

田畑高 十九石一斗六升五合

家 數 十三軒

人 數 五十六人

北谷村の西二十五町にあり

○諏訪明神兩社 境地周二百二十間

村中にあり境内地藏堂あり

下露村

志母都由

田畑高 十八石四斗一升三合

家 數 十二軒

人 數 四十人

合川村の巽にあり上露に向ひたる名なり

○善光寺 禪宗關山派田邊城下海蔵寺末

村中にあり當村及谷野口竹平等の菩提寺なり

谷野口村

多邊乃久知

田畑高 三十四石二斗三升九合

家 數 九軒

人 數 二十五人

下露村東二十二町半に前の川谷の口に村するを以て名とせり

○前瀧岩屋

村より八町許前川の岸にあり廣く四坪許高き口にて二間餘奥

の方四尺許

串村

久志

田畑高 三十九石九斗五升九合

家 數 十三軒

人 數 四十八人

谷野口村の東二十二町餘にあり串は越の義にて九川村或は谷野口村等へ越ゆる坂あるより起れるなるへし

○三社大明神 境内山林周百五十間

本社二社 一社は稻田姫の水像を祀る 一社は手摩乳足摩乳の水像を祀る

九川境前川の中島にあり當村及九川長瀬伏菟野原五味等の産土神にて大社なり本社二社にして三社明神と稱するものは舊は手摩乳脚摩乳の神の社別に在りしを後一社に合せたるか

○福德菴

福宗開山派田邊城下海蔵寺末村中にあり

九川村

久賀波

田畑高 二十六石八斗

家 數 十九軒

人 數 九十二人

串村の東十五町にあり村名前川より起れるなるへし然れども九の義詳ならず

長瀬村

奈賀世

田畑高 二十一石九斗八升三合

家 數 九軒

人 數 三十八人

九川村の東十八町にあり前川の瀬に因りて起るなり

伏菟野村

伏菟能

田畑高 二十三石三升四合

家 數 十一軒

人 數 三十八人

長瀬村の東八町半にあり慶長檢地帳には符戸と書り共假字

にて布弩といふ蔓草の生ずる地をいへる小名を取りて村名とせしなり村中田地の字に布弩の平あり布弩の事三栖莊伏菟野村の條に詳なり

原村

波羅

田畑高 三十九石四斗六升七合

家 數 二十軒

人 數 八十一人

伏菟野村の東十四町餘にあり

五味村

吳美

田畑高 六十九石五斗一升一合

家 數 二十八軒

人 數 百十九人

原村の東十一町餘にあり村名五味は假字にて總て砂利などの雜り土地瘠薄なるを吳美といふ五味の小名日高山中其他往々見ゆたり

○岩屋木屋

岩屋谷にあり深々二間半横幅三間許の岩洞なり

下木守村

志毛古母理 小名小木守

田畑高 五十三石九斗三升三合

家 數 三十四軒

人 數 百十二人

五味村の北二里半にあり上村と共に前川の源にて大塔森の西にあり村大塔の森の麓を去る事五六里といふ本守は隠蔽の義にて山峯高く聳々樹林隠蔽するを以て名附く小名小木守は本村の西二十町許にして前川に傍ひて村居せり

○三階の瀧

村の東四里許にあり前川の流此所にて三段の瀧となる上の瀧は高十五間なれば落つ中は十一間下は一間半許共に直下に懸るを以て最壯觀なり然とも地僻遠にして他境の者至らざるのみならず村民といへども視る者稀なり幽境こゝに至りて別に一乾坤をなして他の世界あるを知らず

○自然瀧

村の東十町許にあり前川の流なり高一間許瀧壺青淵をなし其深さ測りかたし

上木守村

迦美古母理

田畑高 四十九石九斗一升六合

家 數 二十軒

人 數 七十六人

下木守村の北十一町餘にあり

○牛頭天王社

左 手摩乳

中央 稻田姫 紫蓋鳥尊 八王子 合殿

右 脚摩乳

下村の界小名大戸の岩にあり上下二箇村の産土神なり神體木像五あり

○寶幢寺 岩倉山

禪宗圓山派田邊城下海藏寺末大戸の岩の後にあり

面川村

免芸買波

家 數 六十軒  
人 數 百九十二人

面川村の北一里九町にあり慶長檢地帳に伊屋村とあり今猶彌谷といふ彌谷は四面山嶺重疊せる谷の義なり伊也轉して由也となり遂に熊野の字を用ふ本義を去る事遠ふし溪流の源東の方栃木平より出て二里許にして當村に至り西に流る事一里許にして前川に落合て合川村に注ぐ

○春日四所大明神

境内山林周二百二十間

村中にあり古き棟札に四社大明神と記し土人春日明神といふ神社に新宮本宮を祀るといふは誤なり

○法性寺 月景山

禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末

村中にあり

○雨乞瀧

村の長二十餘町にあり伊屋谷川の流懸りて瀧をなす高五五間許瀧の上流下流に深淵多く其中に釜といふ淵殊に魄を奪ふ又是瀧より一里許上流に百間瀧あり高五十間許大雨の後は壯觀なり平常は水なしといふ

田畑高 百石一斗二升五合

家 數 四十八軒

人 數 二百八人

五味村の乾一里九町餘にあり山峯を隔て別に一溪の中にあり山の南の原にありて熊野村と南北相對す

○四社明神社

境内山林周百三十間

祀 神 稻荷大明神 春日大明神 住吉大明神

村中にあり本社春日四所明神にして神體も四座なるへきに木像一體を鎮坐せるは後人其傳へを失ひ神名も稱へを謬りしなるへし

○光徳寺 月上山

禪宗田邊城下法輪寺末

村中にあり

○古墓

村中にあり高家式部丞の墓といふ其人の居宅の跡といふもあり亂を遁れて此地に隠れしものなるへし

熊野村

山也

田畑高 九十一石七升五合

大谷村

於保多爾

田畑高 十八石六斗九升四合

家 數 二十四軒

人 數 百二十二人

熊野村の西北一里許山峯を隔てし一小溪なり廣見川の支流にして北は四番莊下川下村と山を界とす谷狹く少しの斜田に皆鹿岩をなせり山民淳樸總て此邊大古の民の風なり

○石鍾乳

村中淺き巖窟にあり二つあり一つは幅七八寸長さ二尺一つは一尺許其大さ年々に増すといふ又小さき鍾乳多く たり其大なるもの小く紫色を帯ふ鐵椎を以て小片を取りて此を見るに燐徹玉の如し昔或人法華經の文を石に書寫し埋めしとて土人此窟を塚塚といふ乳少なきもの此塚に立願すれば驗ありとて村中及近郷より詣つるもの多し

向山村

牟婁比也麻

田畑高 二十九石五斗三升  
家 數 四十七軒  
人 數 百六十六人

大谷村の西廣見川を隔て三十二町山原に村居す古は村の東南川を隔て枋窪といふ所に村ありしに小名向山の方土地宜きを視てこゝに移るといふ今猶枋窪村居の跡あり向山の名は枋窪に居るとき呼ひし名なり

○三社大明神 境内周二百二十間  
本社二社

村中にあり二社祀る神詳ならざれども同し神なりといふ一は當村一は大谷村の産土神なり神体木像祀神詳ならず

竹野平村

多計乃能比羅

田畑高 七石四斗六升九合  
家 數 十軒  
人 數 四十二人

向山村の西二十四町餘山の原にあり當村向平東西に相並ひ市鹿野と川を隔て相對す村領より上は川三溪に分る地にあ

に馬路馬場跡等の名あり

小谷村

古陀爾

田畑高 十二石九斗六合  
家 數 五軒  
人 數 三十人

深谷村の西南三十二町餘にあり名義名のことし

○三社大明神

境内周百九十間

村の乾にあり神体木像三あり祀神詳ならず

里谷村

左登院爾

田畑高 六石六斗六升一合五勺  
家 數 十一軒  
人 數 四十一人

小谷村の坤一里八町餘にあり里谷とは人家ある谷の義なり

○七社明神社

境内山林周百八十間

末社二社 若宮 二社明神

るを廣見川といふ當村其溪口にあり

○三社大明神

境内山林周百間

村の南にあり神体木像合川村より勧請すといふ

深谷村

布迦多爾

田畑高 三十一石七斗七升五合  
家 數 十六軒  
人 數 九十三人

竹平村の西一里四町餘別に小谷の内により名義名の如し當村及小谷里谷の三箇村西は岩田郷と境を接し南は川を隔て安宅莊と相對し莊中の坤隅にあり

○三社大明神

境内山林周二百間

村の南の端にあり神體木像三つあり祀る神詳ならず

○金毘羅社

村中にあり文政二年山伏某勧請すといふ

○城跡

村中にあり木村内膳といふ者の城なりしといふ小祠あり木像軀を負ひし立像なり古の城主を祀れるならん此邊の小名

村の中央にあり

四番莊

興登 總八箇村

四番莊總て八箇村市鹿野莊の西北にて栗栖川莊の巽にあり西北は大和國十津川郷と山嶺を界とし良隅に與熊野三里四村二莊に接し中間三越嶺ありて山峯南の方に延縁して大塔の麓に至りこれを熊野與口の界とす其廣袤東西十一里許南北七里餘四番の名は三番に對へたる栗栖川莊今三番と稱す名にして古に見はるゝ所なきときは近世に起るなるへし市鹿野四番栗栖川の三莊大抵東西に相並ひ土地最廣大なれども皆深山幽谷にて村家稀少なれば三莊に通して皆古の栗栖郷の地なり此三莊東の方大塔峯を魁として高峰峻嶽重疊翻起し其山脈延蔓する所子嶺孫嶺頭々争ひ秀て累々相重り波濤の香溟に起るか如し溪流其間に注ぎて委々婉々として千條萬縷數へ盡すへからずして此莊の中は二の川ありてこれを總括す良隅

大和界より出て西南の方に流れ諸谷の水を合すものを廣見川といふ大内川平瀬近露野中の四箇村此溪に在り東の方大塔の麓より出て諸谷の水を合せて西の方廣見川に會するものを安川といふ上下の下川村和田村此溪にあり二の川皆流るゝ事十餘里許にして合川村に注ぐ北の方莊中の區域大和の界に至る東の方大塔の麓に至りては道路隔絶して人跡通せず熊野山中唯此地を深奥といふへし上古熊野權現本宮に鎮り坐せるによりて木を伐り險を夷けて一條の街道を開き中古 聖駕數々行幸し給ふより險路も漸に平き村家も往々に出來りて今の姿とはなれりし神の坐るにあらずむはかくの如き山中人の住むべきの地にあらす又至るべき所にあらずかし莊中には近露野中の二村數畝の田畑ありて街道の中にあれば寒陋甚しといへども旅舎茶店の飲食を供すへきあり其他街道にあらざるもの其窮僻寒乏かもふへしかく深山中地の耕すへきなく産のなすへきなきに往々村落をなす其故知りかたきものありかもふに戰國の時亂を避け生を求め相携て山中に通れ遂に止りて村となりし漢土の桃源の類なるへし又貴官高族の禍を避け罪を遁れ跡を此地に潜めしも多く有しや今に在りて古墓古邸の遺りたる往々にあり

て仙境に似たる物語りも多く傳へたり

○莊中山川

○大塔峰 市は市鹿野莊山川の條に載す

○入道峰

○法師峯

○三森峰

三峰皆下川上村にありて大塔の山脈にして各別に峰を起すものなり事は市鹿野莊に記す

○半作嶺 北の方麓より登り一里十三町南の方麓より降りて一里

下川下村市鹿野莊大谷熊野界にあり半作は木の名又巴雲佐ともいふ又水目櫻ともいふ漢名詳ならず喬木にして屋材に用ゆへし木理櫻に似たり此嶺半佐の大樹なとありしより嶺の名に呼び來るなるへし下川下村より市鹿野莊熊野村に歸る往還の時なり坂道登り一里半峠より南に向ふて熊野村に至る其下り坂一里許往還の爲に開きし道なれば其山の平穩なる方を探ひしにかくの如き高險なるを視れば其他は思ひやられたり大抵此峯栗栖川四番市鹿野三莊の中央にあるを以て四面の望む所高峯峻嶽一々指點すへし峰々相重なり巒々相疊み深海に臨みて狂瀾を望むか如く自力盡きて乾坤尺

なり

○十丈嶺

大内川村と栗栖川莊福定村の界にあり熊野街道なり

○高尾峰

野中村に記す多古宇は多加遠の轉せしなり

○岩上嶺

栃の川より登り十一町頂より道湯川村へ十四町半道湯川村

○三越嶺

道湯川より登り九町餘道湯川村と三里郷との界にあり高尾

岩上三越の三峰莊の西北より長に連延して各峰を起せり

○三日峰

野中和田二村の界にあり

○嶽峰

和田村下川上村の界にあり山皆石巖なる故に峻にして攀る

へからす坂道三十町許あり

以上二峰又大塔の山脈なり

○廣見川

源は紀和の堺果無越の嶺の下より出て紀和堺諸山の谷水を

寸の平壤なきに似たり傾嶽峻峰競ひ秀るもの皆龍翔鳳舞の勢をなし雲烟其間に出沒して頃刻の間にして奇態萬狀人の目を爽にし胸懷蕩かすをまほゆ其登り下りの道險惡危峭辭に述べたし皆懸峭絕壁間に纒に足を容るゝの徑を開きしなれば十歩九折して目を他に遊はしむへからす中路に至りて仰きて經過せし所を望むに欽巖傾石重疊して頂の上に在りて崩れ墜むとするの勢あり俯して前途を求るに一も視る所なく唯萬仞の深壑に臨み一步あやまては頭足寸斷すへし歩々神を凝し身を締め手に巖角を攀て足を移す此間をすくれば頃刻の間頭髪頓に白に變するを覺ゆ然れども土人の往來するものを視るに背に重荷を負ひ放歌して行く事坦途を往か如し山の者山に習ふとは此類なるへし其峰頂の望む所と登り下りの險絶なると莊中の山峰道途大抵皆これに相似たるを以て茲に其大槩を記して他には略していはす

○太尾嶺

東の方下川下村より登り一里十町餘頂より西の方深谷村迄一里十二町太尾或伏免尾又不動とも書す皆布止遠の轉せし

合せて近露に至るまで西に流るゝこと總て八里餘和田村の界にして野中川と落合ふ此所を落合といふ落合の地その北崔皆奇巖峭壁峻立して墜むとする勢あり巖脚水にいりて一面の淵をなし淵に沿ひて歩すへきの道なし南崖の石別に一の形ありて大小裂けて人功を用ゆる如く重疊して錯落たり故に相重る間皆罅隙あり葛城峰の岩橋といふ者と相似たり奇といふへしかくの如きもの一里許兩岸の奇狀殆盡かくか如し大内川合流し下川下村に至りて安川と落合市鹿野莊合川村に至りて前川將軍川と合ふ近露よりこゝに至るまで西に流るゝこと八里許源よりこれを計れば總て十六里許にして安宅莊に入りて安宅川と成り日置浦に至りて海に入る

下村に至りて廣見川と合ふ源より廣見川の落合まで流るゝ事總て十里許

源は十丈嶺より出て南に流るゝ事一里半許和田村に至りて廣見川に落合ふ

下川下村

志毛賀波志毛 小名竹又

田畑高 百七十石一斗五升九合

家數 百三十七軒

人數 三百八十四人

○野中川 源は三日森の北より出て西に流るゝこと二里許近露村和田村の境に至りて廣見川と合ふ

○和田川

源は三日森の南より出て西に流るゝこと三里半許にして下川上村に至りて安川と合ふ

○安川

源は大塔峯より出て下川上村に至りて和田川と落合ひ下川

市鹿野莊向山村の良にあり安川に添ひて村居す向山村の上流なれども河流に添ひて至る道なし故に向山より東大谷村を経て半佐峠を越て北に向ひて至る山路行程四里許村の西市鹿野莊深谷村に至るを伏兔尾峠越といふ山路行程三里半許なり半佐伏兔尾の二峯の外市鹿野莊に至る道なし下川は安川の一名より起れるなるへし慶長檢地帳には上下合せて一村とす小名竹又は村の乾一里半餘廣見川の枝谷にありて乾栗栖川莊眞砂北郡の二村と山峯を堺す

○春日明神社

境内森山周三百間

祀神四座 神休木像

拜殿

村中にあり上村下村の産土神なり元祿の棟札に一座を春日とし三座を貴布禰住吉飛鳥と記せるは誤にて春日四座なること木像にて明なり

○春日明神社

境内山林周百四十六間

左一座

中央三座 合殿

神休木像五楯

拜殿

右一座 若宮

小名上野にあり小名竹又の産土神なり本村の春日を勧請せしならん一座何の神を合はせ祀る詳ならず

○西光寺

龍王山 祀宗曹洞派田邊城下法輪寺末

○水泉菴

村の東にあり 祀宗曹洞派田邊城下法輪寺末

○海禪寺

龍神山 祀宗圓山派田邊城下海禪寺末

○太尾峠

小名竹又にあり

○半佐峠

小名竹又にあり

○大塔森

三峰皆莊論に載す

下川上村

志毛賀波志毛 小名竹又

田畑高 百六十九斗四升七合

家數 八十六軒

人數 二百十七人

下川下村の東二十一町餘にあり安川東より來り和田川良より來りて村中にて落合ふ村居皆其川に添ふ小名陸平は本村の東三十町許安川の上流にあり下川上下二村の地大塔森の山足に起りて乾の方分領山を堺して岩田栗栖二莊の諸村に隣る其領内東西十有餘里に及ふ故に領内の限を知るものなしといふ熊野諸村の内其領の廣き事これを最とすといふ

○法傳寺 長谷山 祀宗曹洞派田邊城下法輪寺末

○安川

村中にあり

莊論に出せり

○半鬼瀧

村より東四里許にあり高さ二十間許安川の流直下して瀧をなす水勢猛烈にして視るもの膽を破る其地寂僻に樹木鬱蒼として見る者少なし又安の大瀧と云ふ瀧あり二間許の瀧なり



れども水多く溪険にして震雷の聲をなすといふ

○里木ノ瀧

安の大瀧より奥二里半許にあり直立二百間餘の瀧なれども平常は水なし以上の瀧みな材木の仕出しをせる者の外見し人なし

○三ッ森

莊論に出せり

和田村

玉木 小名西俣 宇井河

田畑高 九十八石九斗九升一合

家 數 四十五軒

人 數 百八十二人

下川下村の北一里餘にあり安川の支流和田川に添ひて一村谷を異にす和田川源は大塔森の連峰より出て下川上村にて安川に落合ふ村名川流の澗曲せるより起れり小名西俣は本村より中の方下川下村領を隔て二里許廣見川の枝谷にあり宇井河は村の良一里半許にあり

○春日社

社地山周二百間村中にあり神體木像なり

○春日神社

境内森山周百六十間

本社四社 神林木像

拜殿

末社 若宮

村中にあり一村の産土神なり萬治三年の勸請にて棟札に神像を造ることを載せたり此邊の神祠多く木像を安置す皆此時代のことなるへし

○海藏院

巨龜山 禪宗圓山派田邊城下海藏寺末村中にあり

○古墓五輪二基

村中にあり原彈正大岡彈正といふ落人の墓なりと云ふ

大内川村

於保知我波 小名十丈峠 下野川

田畑高 二百石六斗九升

家 數 七十七軒

人 數 二百四十八人

平瀬村の丑の方一里にあり十丈峠の山足別に一溪間に村居して西北は栗栖川莊石舟芝高原の諸村と山を堺す十丈峠は村の長熊野街道にあり下條に載す下野川は村の寅卯の二十町餘にあり人家少なし

○梵光寺 田林山 禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末村中にあり

○觀音菴 禪宗圓山派田邊城下海藏寺末西俣にあり

○宮瀧

西俣にあり高さ二十間許

○舊家

打越 忠藏

村中の者當家を莊司と呼ぶ其系詳ならず天杯といひ傳ふる減金に銀の半月の模様あり大杯を傳へたり村中に栗栖垣内と云ふ字あり相傳へて當家の屋敷跡といふ又西俣の農民に其家來筋の家二軒あり又興國四年久留瀬二郎左衛門尉に賜へる 繪旨を藏む是は近年大内川の愛洲氏より譲り受けし所といふ

平瀬村

比良世

田畑高 百六十石八斗七升八合

家 數 八十六軒

人 數 二百五十八人

下川下村の良山を隔て一里許にあり村居廣見川に添ひて下の流は市鹿野莊向山村に隣り上流は大内川村に契す廣見川大内川村中にて落合ひ瀧や廣きより平瀬の名あり

○春日明神社

境内森山周百五十六間

三社 左二座 中二座 右一座

拜殿

村の東にあり神林木像三玉石一なり玉石は大きき米三升許入たる袋の如し

○十丈王子社

境内周三十間

十丈峠にあり御幸記に重照王子とあり

○慈恩寺

永命山 禪宗曹洞派田邊城下法輪寺末村中にあり

○黒瀧山

峠まで坂道十五町なり

○舊家

愛洲七郎右衛門

愛洲氏源姓新羅三郎義光の後武田冠者政隆 十一代愛洲三郎左衛門尉季俊弟孫太郎忠保共に 南朝に屬す季俊播磨國高田莊領家職紀伊國南部莊阿波國秋月莊地頭職を賜ふ子七郎左衛門尉憲俊弟二郎左衛門尉忠俊また 南朝に屬す憲俊季俊の跡を繼て地頭職に任す 繪旨今猶其 忠俊の子を憲信といふ憲信も 南朝に屬して 繪旨を賜ふ 在 憲俊の子を三郎左衛門尉能俊といふ檢非違使左衛門少尉出羽守を兼任す 繪旨并口立 又兵部太輔にも任せしにや日高郡南部莊西本莊村祇園御靈宮明徳四年の棟札に愛洲兵部太輔源能俊とあり

弟下野守資俊左衛門少尉に任せ時の口宣案あり 南朝に屬す其後數代を経て武兵衛直俊といふもの泉州櫻井の合戦に搦闘右衛門か爲に討死す直俊の甥重兵衛徹定といふもの當村に引籠り農民となる享保七年八四郎といふもの 國君熊野御歸路高瀬村にて拜し奉る其時 繪旨並に由緒等 御覽に備ふ同十年命有て地士となる其後又農民となり代々當村に住す○南朝記傳に延元元年四月五日南方にて愛洲宗貫に伊勢國朝明郡の地頭職を賜ふとあれども其名系圖には見えず又當郡秋津莊下秋津村雲森社の永正三年の棟札にも愛津三郎左衛門源元俊と見ゆ同社天文十年の棟札にも愛津三郎源長俊再興とあれは何れ愛洲家より修造せしなるべし愛洲愛津とも書しなるべし能俊より以下系統全からされは元俊長俊の名も系圖には見えず家に元弘三年延元三年興國二年正平三年建徳二年弘和三年の 繪旨並に系圖等を持傳へたり

近露村

知迦郡田 小名相坂フサカサ 湯田ユタ

田畑高 六百十六石四斗九升七合

家 數 百三十六軒

人 數 三百九十三人

栗栖川莊高原村の東二里十一町にありて熊野街道の驛なり和田村よりは北の方一里三町にして小名相坂峠の東の麓に村し廣井川の上流に居る當村莊中にて土地少しく開け村居も多し村の端堰あり近露の露は借字にて上露下露露谷等と同じく堰より起れる名なるべし小名相坂峠は木村の西熊野往還にあり湯田和は其西に在りて大内川村領の界なり共に茶店一軒あり

○四社明神社 境内周百八間

祀 神 春日明神 神休木像 拜殿

村中にあり一村の産土神あり

○大坂王子碑

相坂峠にあり往還の側の森にして社なく碑を建て、銘に大坂王子と記せり御幸記には大坂本の王子とあり

○若一王子權現社 境内周四十間

村中にあり一村の産神にて神體木像なり御幸記に近露王子とあるは是なり社前に芝ありて頓宮の趾と云ふ

○見松寺 萬覺山 眞宗曹洞派新宮宗廟寺末 村中にあり

○観音寺 月海山 禪宗臨濟派東福寺末

村中にあり寺内に古墓三基あり

天正十三西七月 観音寺但馬

遺見峠於戰場討死

天正十三西七月廿日 野長瀬左近尉盛秀

紀州北山之軍に生害

天正十三西七月 田中十太輔秀時

遺見峠於戰場討死

右三碑或は後に建るなるへし

○大塔森

村の西にあり峠まで坂道十三町あり栗栖川莊福定村兵生村と峯を境とす同名の高山莊界にある故土人此を近露大塔と云ふ

○寶篋印塔

村の西にあり往還に道しるへの石ありて 花山法皇熊野御幸の時御經を收め給ひし處といふ今は古の塔を失ひて道しるへの石を然いふなるへし

○廣見川

莊論に載す

○城森山

村の長にあり坂道三町許城跡と云ひ傳ふれども詳ならず

○舊家

地士 野長瀬兵三郎

野長瀬氏は源義家の子河内守義忠の後なり續太大塔宮南都を落ちて紀州に至り和州十津川に至り竹原八郎の館に潜匿す熊野別當の兵を避けて吉野に移らせらる道路梗して遁せす玉置莊司大兵を率して邀戦ふ大塔宮危難甚し此とき本國の住人野長瀬六郎弟七郎三千餘騎を率ひて馳來り莊司の賊兵を破りて道を啓きて王を守護して吉野に至る事は太平記に詳なり七郎一本には七郎左衛門とあり義忠二十八代の後胤に本國の住人野長瀬七郎清行と云ふあり鳥山義就の郎等となり勇武に驍りて戦死の事續太平記に見ゆ敷屋入鹿二莊著姓連名に花井分にのなかせの光長と云ふ人本宮社家記其子孫なるへしこれに據れば野長瀬氏の居地此地にあらざるに似たり近露六郎か家に據りて豊公の兵を防ぐこと雜記に見ゆ近露六郎又横矢六郎とあり或は近露は即野長瀬六郎の子孫なりといふ今當村中に横矢と稱する家多し今的にいつれを六郎の家とも定め難し兵三郎の家傳へて其後なりといひ野長瀬を氏とする

ときは或はこれなるか然れども古き文書並に家系等亡失して傳はらざれば事蹟の證とすへきなし始其家傳ふる所を書せり近世大河内村の愛洲氏より正平三年近隣六郎宛の繪旨を譲り受けて家に傳へたり

野中村

能奈迦

田畑高 四百二十二石二斗二升一合  
家 數 百七軒  
人 數 三百八十三人

近隣村の東二十九町熊野往還の驛なり當村平瀬村の長二里半餘野中川の上流なれども溪狭くして川に添ひて至る事あはばす近隣村を経るを通路とす此地野中といふへき平原にはあらざれども深山の中にて田畑なごあるより名とするなるへし

○比曾原王子碑

村の西小名比曾原にあり御幸記に見たり境内に手枕松といふ名木ありしか枯れしと云ふ

○繼櫻王子社 境内周九十八間

村中にあり神體玉石なり

○養命寺 清水山 兼宗曹洞派田邊城下法輪寺末

○高尾山 村中にあり

村の北にあり峠まで坂道二十町

○紅葉ヶ瀧

往還の北の方にあり高さ七間小名を桃原谷といふ

○野中清水

繼櫻より少し南にあり此地野中といふに因りて古の野中の清水ぬるけれども心の心をする人そくむといふ古今集の歌を引て名所とせしならん又野中の一本杉とて大樹ありしといふ

○地士

渡瀬安兵衛

道湯川村

大字龍山加波 小名三越峠 熊瀬河 栃野河

田畑高 四十三石五升六合  
家 數 十二軒  
人 數 四十四人

野中村の東二里にあり西は小廣峠を村境とし東は三越峠を

祀神不詳 神林本儀 拜殿  
末社二社

見明之神神社

秋民羅社

村中にあり一村の氏神なり土人若一王子権現といふ御幸記に繼櫻とある是なり天正年中の記文に小廣峠の王子を見明之神の側に勧請せんと神主氏下かたらひて社を建てしと云ふ此記に據れば此王子古は中の川王子より東小廣峠に在りて御幸記の次第に合はす古は此地にありしを中比小廣峠に遷し又今の地に遷せる歟社前に櫻樹あり秀衡櫻といふ又樓櫻といふ古奥州の秀衡夫婦熊野參詣の時劍山の窟にて出産し其子をここに置きて參籠す此處にて櫻を手折り戯に祝していふ吾子恙なく生育せば此櫻色香盛なるへしとて下向の時みるに其櫻よく生長し幼き子も恙なかりしよりその櫻を樓櫻又秀衡櫻といふといひ傳へたり

○中川王子碑

境内周八間

村の東十二町餘にあり御幸記に見たり今社なし

○小廣王子碑

境内周十二間

村の東道湯川村界小廣峠にあり

○八幡宮

境内周二十八間

以て熊野口奥の境とす御幸記に夜中若湯河宿所路間崔鬼夜行甚有恐とある此地なり此一村岩神三越二峠の下にありて四面重巖環合して樹林叢密なり因りて溪中を過るに白日天に中すれども曇影を視る事なく翠靄衣裳につきて夜露の沾すか如し故に熊野街道にあれども人家稀少にして最寒陋なり小廣峠より東は溪流悉東に流れて熊野川に入りて莊中の諸川と流を異にす按するに當村を四番莊に入れて口奥の界とするひて當村の後を過ぎて流るる故其地無きに似たり見川の水源西に向形に因りてかくの如く定めしならん古は湯川とのみいひしを後本宮の湯川に對して往還なる故これを道湯川といひ彼を下湯川と稱へ分けたるなるへし小名熊瀬河は小廣峠にあり三越峠は村の東にあり栃野河は女夫坂の間にあり皆往還にあり茶店各一軒あり日高郡小松原の城主湯川氏本姓は武田なり初此地に居るを以て遂に湯川を氏とすといふ

○若一王子社

境内周二十四間

村中にあり社地に七抱の樺あり

○岩神王子舊址

村の西岩神峠にあり御幸記にイハ神と見たり近年まで社ありしか今は社も印もなく唯峠の北の方少し平なる處を社の舊址と云ふ毎年祭日舊址に神酒を備ふ

○岩神峠

村の乾にあり坂道峠まで十四町餘

散木集 中宮亮仲實熊野へまゐるを待たはば

雲れぬるまゝし岩神みえん日は

俊頼朝臣

そふる心みかゝれとそおをふ

又相傳ふ日高郡小松原の城主湯川氏の祖岩神峠の強盜を退治す其功を以て封邑を賜ふといふ其岩神峠即此地なり

○草鞋峠

岩上峠の西にあり世俗此峠と岩神峠とを合せて女夫坂と云ふ熊野往還にて第一の嶮路なり

○天蓋森

村の南にあり峠まで坂道六町

○大峰山

村の南にあり又かせんたうとも云ふ峠まで坂道十五町

○三越峠

村の東坂道峠まで八町三里郷界にあり俊頼の哥に見ゆ岩神峠の下に出す

○城屋敷

村の東十町餘にあり又要害とも云ひ傳ふ詳ならず

○栃野河

源は岩神峠より流れ出て村中にて大瀬谷川と落合ふ

○熊瀬河

源は源太谷より流れ出て十町餘流れて栃野河谷に落合ふ

○大瀬谷川

源は花折より流れ出て村中にて栃野河と落合ふ四村莊繪葉村小小森村等を経て熊野川に入る

○舊家

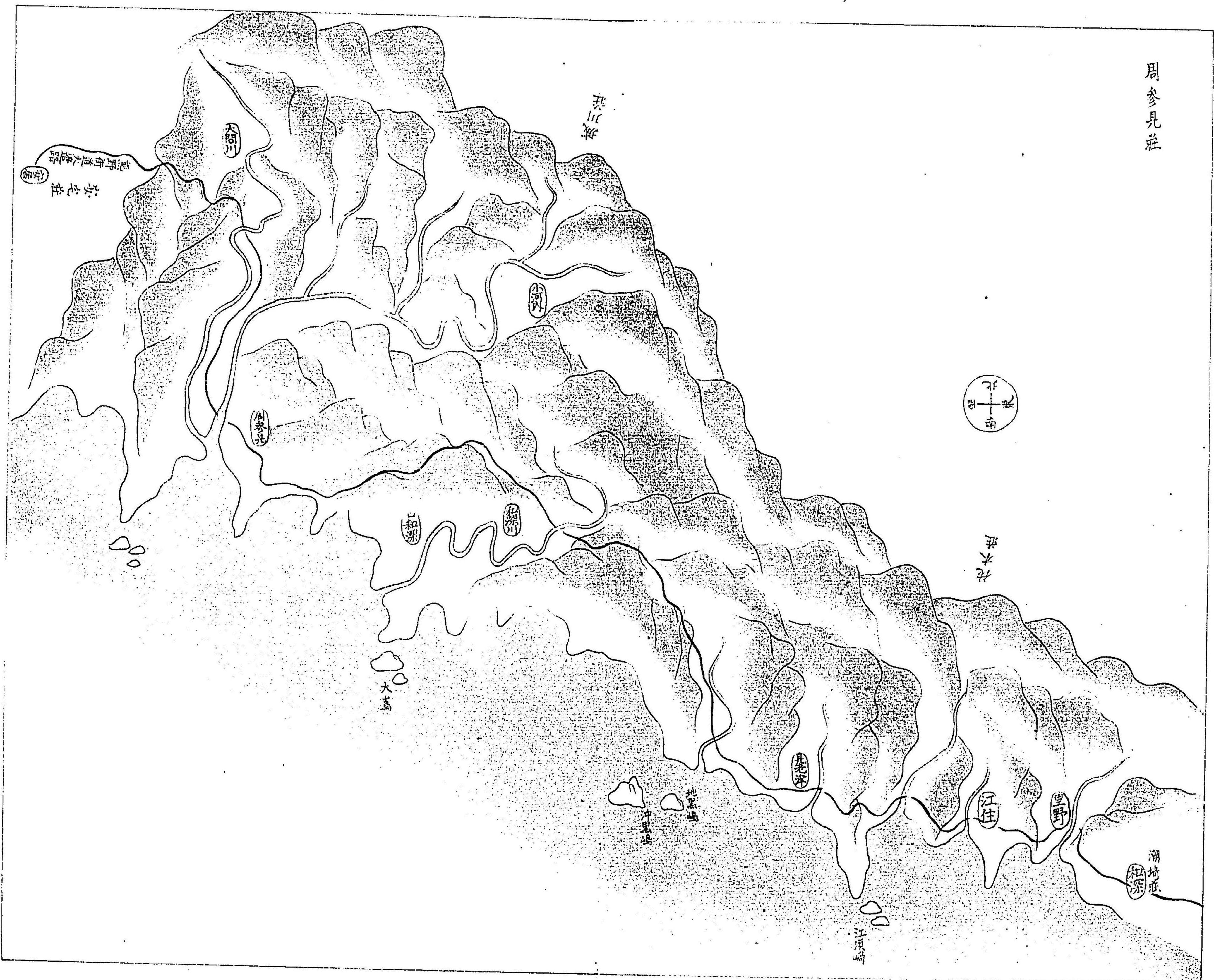
地士湯川與兵衛

天正中湯川直春毒殺せられし後嫡子丹波守光春大和納言に仕へ三千石を領す秀長没落の後淺野家に仕へ越州に移る

與兵衛は光春の支族なるへし系譜詳ならず今考ふへからず

島山植長より湯川宮内少輔宛の書狀宗徹より林治郎左衛門尉宛の書狀二通を藏む

周參見莊



紀伊續風土記卷之七十六

牟婁郡第八

周參見莊

須佐美 總八箇村

周參見莊總て八箇村東は潮崎莊と接し西は安宅莊と界し北は城川莊と界し東北隅は佐本莊と接す大抵東西三里餘南北六里半許一莊の中太間川村小河内村は山中にありて最も寒村なり其他は海濱に在りて和深川村は農漁を兼るを以て山中に比すれば生産をなし易し周參見浦は口郡の郡府こゝにあるを以て戸數も多く家立も宜しけれども川は小にして舟楫の便なく海は淡形あれども舟掛りなさを以て人民富をなすへき貧なし當莊より巽口熊野の地を盡して古の三前郷の地なり後世周參見氏當莊八箇村を領す周參見浦王子權現の條下江莊の條下に其事見ゆ因りてこれを周參見莊とす

周參見浦

須佐美 小名多戸川 廣瀬 下戸川 朝來

田畑高 九百八十石四斗四升九合

紀伊續風土記 卷之七十六 牟婁郡 周參見莊 周參見浦

家數 五百四十二軒  
人數 二千四百二十四人

安宅莊鹽野村の南にありて一莊の乾隅に居る東に周參見川を受け北太間川を受け南溪合流の所に當りて坤は海に面する地なり溪間に山脚雜出して平田の地一所に集らす故に村居諸谷の間に散在して小名を稱するもの最多し上戸川下戸川廣瀬朝來の四は其大なるものにして其他坊地本村より平松本村より太間地本村より立野本村より奴田谷本村より八町等七町太間地本村より立野本村より奴田谷本村より八町等の小名あり但海に濱するものを本村として人家多く此所に集り民産農漁を兼たり浦の正面海上十五町許を隔て、稻積島あるを以て船繋りの湊とす然れども南の方稻積島と地方との間海上二町許缺たるを以て風によりては船をかけ難しといふ大抵此地口熊野濱海の中央にありて土地も亦稍閑裕なるを以て口熊野の郡府こゝに在り郡令一人常に此地に來り郡事を聽斷す周參見の名義を考ふるに古歌に風すさふ吹すさふなどいふと同し義にて此地浪風の烈しき海なれば須佐備字美を略して須佐美と稱ふるなるへし又村領に皮田あり家數十八軒人數五十八人

○若一王子權現社 境内森山周二町二十間

本村の中山崎にあり周參見一村の産土神とす天文十五年文

祿三年の棟札あり天文には周參見領主左衛門大夫藤原氏安と書し文祿にも同人にて主馬太夫と書す拜殿あり

○春日社 境内森山周五町二十間

春日社 八幡宮 合祀 末社一社 拜殿

坊地にあり春日社は享祿三年天正六年寛文八年等の棟札あり八幡宮は古は小名瀬山といふ所の産土神なりしに其地亡處せしより春日の社内に移すといふ

○春日社 境内森山周二町

神林木像 拜殿

立野の原といふ所にあり文祿五年元和九年以後の棟札あり

○小祠三社

衣美須社 社地周十六間本 秋葉社 社地周三十二間

金毘羅社 社地周三十間坊地にあり安永九年 村民伊藤兵衛始めて勧請といふ

○萬福寺 安養山 禪宗臨濟派京妙心寺末

本堂 七間半 僧坊 六間 鐘樓

東廡 觀音谷より寺内に移すといふ

村中にあり末寺あり

○佛願寺 眞言宗三寶院門跡末

本堂 五間 僧坊 六間 四間半

○法幢寺 天龍山 淨土眞宗西派本願寺末

本堂 六間 僧坊 四間半 鐘樓

立野にあり

○持寶寺 龍盤山 禪宗臨濟派京妙心寺塔頭春光院末

本堂 五間半 僧坊 七間半 鐘樓 般若堂

坊地にあり末寺一箇寺あり

○東仙庵 五間半 四間半

祈念堂

村中にあり修驗者これに居る

○小堂四

仙舊庵 沼田谷にあり 向、庵 山崎にあり

釋迦堂 立野の内曲りにあり

○畑庵 禪宗臨濟派村中持寶寺末 畑地にあり

○廢法蓮寺 藤原山 禪宗臨濟派京妙心寺末

舊藤原谷にあり今は廢して舊趾存す

○稻積島

本村の正面海中にあり周九町樹木繁茂し四時色をかへす島

中皆山王子社の境内なり此島の東端地方の出崎を相去る事僅に二町許もし此所を填めて陸を續かしめは此浦舟掛り宜しく廻船泊すべく繁昌の地となるへしといふ

○山玉王子社 境内周九町

稻積島にあり此島周參見浦の正面にあり寛永二十年の棟札に屯隅山王皇子と書せり此古の神號なり延寶二年の棟札始めて辨財天社と書すものは誤なり世人海濱江上に臨める神は多くなるなり此神の辨財天 辨財天とす昔浮屠氏の強に山さなるも亦此類なり 然れどもその屯隅山王皇子と稱する神もいかなる神に在すか考ふへからず按するに本國神名帳伊都郡に稻積神社ありし此神と同神なるか

○周參見川

源は小河内村より出て上戸川を歴て廣瀬下戸川等諸谷の水を合せて周參見に至りて海に入る川流總て八里許川淺くして舟楫を通するに足らず

○太間地

源は太間川村より出て長より坤に向ひて流ること三里許周參見本村に至りて周參見川と合ひて海に入る此川太間川村領を過ぎて周參見浦領に入りて水地中を潜行すること十五六町下曾根田といふ所に至りて又湧き出て五町許にして

周參見川に入る常水は則然り若雨後水出れば地上を行くと常の川の如し太間は絶間なり地中を潜行して水の絶ゆるを以てその所を太間地といふ

上戸川

本村の東一里半にあり上戸川は即周參見川の上流にして本村の東蛇石といふ所にて溪筋二に分れ東に行くを上戸川とし東北に行を下戸川とす戸川は元來洞川なり長十町の棟札に下洞川と此兩谷湊間甚狭く兩山左右に聳て其間洞の如くなるを以て保羅川と名つくるなり保羅川文字にて洞川と書しを音に呼びて登宇川といひて急呼途に戸川となりしなり

下戸川

周參見川の上流蛇石に至りて溪岐して兩となるその長に分るる者を下戸川とす岐する所より溪に入る事二町許兩山高く聳て奇巖下に臨みて墜んとする者皆美觀なり溪中少し開けし所民家十軒許あり下戸川の山方二里の間山本佐大夫と

いふ者の領する所にして今に至りて下戸川の民家は佐大夫の百姓といふ佐大夫は本村に住す

周參見氏  
山本氏

○諏訪明神社

下戸川の内において其所の産土神なり山本氏の祀る所といふ慶長十年社修造の棟札には領主山本長左衛門と書す以後の棟札に春日明神と書しは誤なり

太間川村

多以麻賀波

廣瀨

本村の東二里にあり下戸川を歴て山峯に從ひてゆけば水晶峯に至る其峯より東は谷に向ひて下れば廣瀨なり下戸川の枝谷にてやゝ廣きを以て廣瀨の名あり水晶峯は水晶あるを以て名つく然れども至りて小なり土を深く穿ちなは或は大なるものも出むかどいふ

田畑高 八十三石四斗七升一合  
家數 四十軒  
人數 百七十八

朝來

本村の坤の方十七町許にありて海に臨みて村居す朝來或は淺皿と書す

周參見浦の長一里二十三町にあり莊中の東隅にありて長は城川莊西は安宅莊安宅村と境す此一村一谷にして溪流長より坤に走り三里許にして周參見浦に入る太間川は絶間の轉語にして當村其川の源なるより名とす絶間の義詳に周參見浦太間地の條下に見ゆたり  
○日生矢倉明神森 境内森山周九十六間  
小名上村の奥にあり一村の産土神なり社なく木を祭る按するに日生或は日王とも書す共に其義詳ならず矢倉大明神或は矢倉大臣と書す是又詳ならず按するに矢は谷なり倉は大巖をいふ谷中石巖ある所をいふなるへし又鎌倉の俚語に窟を矢倉といふよし大巖石窟の神の義にして山の神を祭れる

なるへし

○小祠五社

狼 森 社地周三町小名上村にあり社なし木の根を神体とす傳へて狼を理めし地なりといふ  
權現社 社地森山周四十 五間同所にあり 若 宮 社地森山周八十四間同所にあり社なし木の根を神体とす  
八幡社 社地森山周三十 六間勢山にあり 辨財天社 社地森山周八十五間同所にあり慶長の棟札あり  
○小堂二字 地藏堂 下村にあり 藥師堂 上村にあり

春日明神社 社地森山周百間 小名上村にあり 王子明神社 社地森山周七十四 八幡宮社 同小名下村にあり  
○長泉寺 天寶山 禪宗臨濟派周參見浦萬福寺末 本堂 五間半 鎮守社 村中にあり

小河内村

遠迎寺知

田畑高 二百二石三升七合  
家數 四十軒  
人數 二百三十六人

口和深村

久知玉夫通

田畑高 百三十石八合  
家數 二十八軒  
人數 百六人

周參見浦の東二里二十七町にあり周參見浦の小名上戸川の奥の谷にして周參見川の源なり村名は川より起れるならん

○雨子明神社

境内森山周二十二間

末社二社

牛頭天王社 牛王明神社

村中にあり一村の産土神なり祀神或は雨師神ならんとあり

○小祠四社

蛭子社 社地森山周百間 海邊にあり 地主社 社地森山周 六十二間  
八幡社 社地森山周二百間 二社八幡山にあり



猪神碑 海邊にあり神社なし今石を立たり  
往古猪を埋めて其靈を祀るといふ

○生玉寺 慈光山 禪宗臨濟派周參見浦萬福寺末

本堂 七間 六間 地藏堂

村中にあり

○和深山

村の巽にあり坂道七町許古歌あり

根野趾運雜歌百首沙彌能食上

散木集

俊頼朝臣

わふの山世みふ道夜ぬみたあへ

まどひはたとふ身をいのみせん

述懐百首の中

家集

清輔朝臣

わぬの山岩間よはるに花をば松

こりなくてれみ老やこてあむ

名 寄

無 名

身れををれもふ涕とわふの山

あけきにあふ時雨かりあや

○狼煙所

村の南伊豆がはいといふにあり

○三石

村の南の方海上十町許にあり大さ各二三間許海面に鼎立す海水に上り潮下り潮といふありて此石を界とす按するに海潮朝夕の盈縮月の出入に從ふは何れの地も大方は同じきに此地朝夕の盈縮の外に別に潮の往來あり土人これを上り潮下り潮といふ上り潮とは東より西に往くをいふ下り潮とは西より東に往くをいふこれ三石より東南の海にていふなり三石より北はこれに反し東南の方下り潮なれば三石より北はこれに背きて北に流る東の方上り潮なれば三石より北はこれに反して北より南に向ふて流る其上り下りする所三石を以て際限とす土人いふ牟婁郡潮の御崎南にあり日高郡比井御崎乾にあり土佐國足摺御崎坤にあり此三所鼎足の形をなす凡下り潮の時は西南足摺崎より三石に向ひて潮衝來り三石に當りて左右に分る三石より東へ行くものは下り潮なり北へ行くものは其分流なりこれを下り潮といふ上り潮の時は御崎の潮は三石に向ひて西に流れ三石より北の潮は東南に向ひて流れ來り三石にて上下の潮出合て一となり西南足摺崎に衝き至るこれを上り潮といふ其上り下りの時刻定りなし一二箇月にて易ることあり又一二年にして易

明神といふ

○寶林庵

禪宗臨濟派周參見浦持寶寺末  
村中にあり

見老津浦

美羅字立

田畑高 四十六石八斗二升六合

家 數 八十五軒

人 數 三百六人

和深川村の巽一里半十町にあり長柄坂の峠を界とす大邊地の街道にあり海に濱して村居す村名舊見路津と書す江住浦氏  
神天正年

中根 其義詳ならず

○地主神社 社地除地村  
の北にあり

○常榮寺 華溪山 禪宗臨濟派京妙心寺末

本堂 五間 四間 僧坊

村中にあり寛文記には掛居山常永寺と書す山林二箇所あり

○道場 淨土眞宗海部郡和歌浦性應寺末 村中に  
あり

○狼煙場

村の東宇東の森といふ山上にあり

○地、黒島

る事あり又四五年を歴て易ることあり又朝に上り暮に下り上下定らざる事あり其變化の理上り下りの運行如何なる故を知らず漁を業とする者下り潮を喜びて上り潮をきらふ下り潮には漁事多く上り潮には漁事少き故なり右海潮の往來上下溟海の一奇といふへくして古人其理を論するものを聞かす姑此を書して識者を俟つ

○地士

原 徳左衛門

和深川村

玉夫通賢跋

田畑高 百二十石四斗五升四合

家 數 二十五軒

人 數 百十一人

口和深村の巽十九町にあり和深川に添ひて村居す

○春日明神社 境内森山周七十間

攝社 若一王子権現 拜殿

村中にあり一村の産土神なり

○本宮森 境内森山周五十間

宮の谷にあり春日社の舊址といふ社なく石を祭る又矢倉大

村の乾海上二町五十間にあり島の廻り三町五十間

○沖黒島

村の西海上四町にあり島の廻り五町三十間餘

○衣比須島

村の海上三町許にあり夷の社あり此外に波山島掛分島名切島等あり

江住浦

延須美 小名江須川

田畑高 百三十六石五斗二升一合

家 數 百四十五軒

人 數 七百五十二人

見老津浦の巽小名江須川を經て二十七町にあり東の方里野浦に至りて大邊地街道にして海に濱す村中春日社元和六年の棟札に吉見村とあり吉見江住訓近し然れども何れか正字なるを知らず村居街道より乾江住川の谷に散在す小名江須川は本村の坤十五町にあり村北に江須川といふ小谷あり又江須崎といふありて江須崎明神を祭る江須の名これより起れり

○春日明神社

村中にあり江住見老津二箇村の氏神なり拜殿あり天正四年の棟札に其時の領主周參見彌十郎諸役見老津三分之一支配也と記せり今に至りても造營修葺等は雜費見老津三分之一支配すといふ或はいふ村の舊民城四郎左衛門の先祖藤氏なるを以て鎮守に祭れるを村民信仰して終に氏神とす

○江洲崎明神社 境内

本社三扉 拜殿

小名江須川にあり祭神詳ならず當社も春日社と同じく江

住見老津浦二村の氏神なり寛文記に「社大明神一社辨財天一社千手

崎明神といへり

○潮音寺 海翁山 禪宗臨濟派京妙心寺末

本堂 五間 僧坊

村中にあり

○江洲崎島

江須川の地方を去る事八町許一名撞木山といふ島周十六町半許一圓に椎木鬱茂せり故に此邊の婦女農隙には椎の實を拾ひて浪華へ賣る多き年は二十石少き年は五六石はかりを拾ふといふ



○地士二人

城 四郎右衛門  
藤本次郎左衛門

里野浦

左登能

田畑高 百十三石九斗一升七合

家 數 六十三軒

人 數 二百九十八人

江住浦の東二十四町にありて荒蕪なり

○八幡宮 境内除地

本社 三尺 拜殿

村の西にあり一村の氏神なり

○住吉社 社地除地  
海濱にあり

○小祠二社

辨財天社 出崎里崎山ミ  
いふにあり 衣比須社 村中氏山ミ  
いふにあり

○正福寺 入道山 禪宗關山派田邊城下海藏寺末

○村中にあり舊は長福寺といふ元祿頃に再建して正福寺と  
改む

潮崎莊

志保盛徳 總十八箇村

潮崎莊總て十八箇村西は周參見莊と界し北は佐本莊及三前  
郷と界し巽は海に面し串本以下の諸村皆大島と海を隔て、  
東西相對す其廣袤東西總て七里半南北總て一里潮御崎別に  
南に出ること一里餘此地は古の三前郷の内なり中世那智山  
の管内となり潮崎氏領せしより潮崎莊の名起れり潮鹽訓同  
きを以て通して鹽崎とも書す此莊大抵一側に海涯に並ひて  
村をなすを以て漁を専として農を兼たり漁事時に從ひて色  
々あれども春夏の間鯉を取りて鱈節を作り秋冬は細魚を取  
りて諸國に販き且魚燈を製するを専とす浦々皆同し此地熊  
野にありて最南に衝出で且莊中の諸村皆山を北に負ひて南  
の方海に面するを以て最暖地なり居民多く裕にて冬を渉る  
貧き者は單を着て寒を凌ぐへしといふ潮崎氏は平相公清盛  
の弟池大納言頼盛卿の孫河内守保業の子保定の裔なり承  
久三年北條泰時京都に亂入の時保業を京方なりとて罪を負  
ふせて紀州に流す因りて此地に住す其子保定地名の潮崎を  
以て氏とす 後村上帝の御時當國の目代佐々木伊勢守貞綱  
潮崎氏と婚を結ひて一族となりしといふ潮崎氏の此莊を全

く領する者此時代の事なるへきか元弘の亂に北條高時小山左衛門尉實隆同經幸に命じて熊野海邊を守護せしむ實隆來りて潮崎莊に居るそれより代々此地に住す其領する地の廣狹詳にし難し小山氏又鹽崎氏と隣好厚く婚を通じて一族となり共に其境界を守り軍を出す時は互に人衆を出して相助けしと見ゆ延元の頃 南朝より鹽崎一族中小山一族中と一紙に載せられたる 繪旨二通あり三前郷西向村小山氏藏又正平二十一年潮崎逸學討死の事小山より奏する狀あり此文書安宅莊久木村小山氏藏此等に因りて視れば兩家相並ひて此地を領するに似て其境界の廣狹大小今詳にしかたし潮崎氏今斷絶して記録文書家系の類一も傳はる所なければ何れの時亡ひしか其事皆知るへからず然れども正平以後は小山氏日に盛にして潮崎氏は衰へ後世終に潮崎莊は小山氏の領する所ともなれるならんか此等の事今詳にするに由なし潮崎氏の起り佐々木一族となりし事本記するは色川郷田川村鹽崎赤木村理助の家に傳ふる所の文書により此文書も本記にあり二十二年以前のものと見ゆたり

○鹽崎浦

山家集

小鯛ひくあみのうき繩よりくめぞ

うたふとさる鹽崎の浦

西行法師

和深浦

王夫迦 小名アツカ 鹿淵上

田畑高 四百六十四石七斗一升二合

家 數 二百四十一軒

人 數 千四十二人

周參見、莊里野浦の巽二十一町にあり本郷より安指は卯辰の方十七町往還にありこれより東二色村に至り海濱の諸村皆大邊路街道なり鹿淵上は長十五六町にあり村中に谷二あり安指の谷と本郷の谷となり鹿淵上は本郷の谷の枝流なり當村周參見、莊和深に對して安指和深といふ和深の義前に出たり古歌に和深山とあるは此邊の山なりといふ古歌周參見莊口和深村の條下に載す

○八幡宮

境内除地

本社三社 左 三尺五寸 中央 五尺 右 二尺五寸

本郷の北五町にあり

拜殿

○衣比須社

小名船波といふ山崎にあり

○上品寺

大慈山 禪宗臨濟派京妙心寺末

本堂 五間半 四間半

鐘樓 僧坊

鎮守社

村中にあり

○庵二字

實喜庵

禪宗臨濟派村中上品寺末 小名鹿淵上にあり

東禪菴

禪宗臨濟派村中上品寺末 小名安指にあり

○城山

村の長にあり傳へいふ村上某の城跡なり村上某は八幡の神主の祖なり

○産物村ふな魚

此浦の沖百尋の底に大石あり大灘島又大灘地といふ此邊にて春の頃釣る魚あり形色ともに鯿魚といふ魚によく似て鱗の大きさはかり全體の大き五六尺以上なり至りて大なるは量目十貫目より二十四五貫目にも至る此魚他にある事を聞かす大灘地にて釣るを以て土人おふな魚といふ

○皮田

村領にあり 家數九軒 人數四十八人

田子浦

多古

田畑高 百三十七石五斗三升九合

家 數 四十軒

紀伊嶺風土記 卷之七十六 牟婁郡 潮崎莊 田子浦 江田浦

人 數 百六十八人

和深浦の東三十一町にあり田子川三前郷南谷村界の山より流れ出て坤に走る村其海口より谷與十七八町許の間に散在す田子の義詳ならずこれより下江田田並有田の諸村皆田を以て村名とする時は大抵田地の形によりて呼名とするなるへし然れども其義皆考へ得ず

○住吉明神社

村の長谷間十三町にあり一村の氏神なり拜殿あり

○衣比須社

濱にあり

○願成寺 靈龜山 禪宗臨濟派京妙心寺末

村の長谷にあり

江田浦

延麻

田畑高 百六十一石一斗八升三合

家 數 三十五軒

人 數 百七十七人

田子浦の東二十五町にあり險路なり江田川三前郷界の山より流れ出て西南に走る村其海口にあり

○德明神社

末社二社 稻荷社

村の西にあり一村の氏神なり舊は村民浦儀左衛門といふものゝ先祖造立する處なりといふ祭神詳ならず

○若宮

村の北にあり 海蔵寺 安養山 禪宗臨濟派京妙心寺末

村中より寅の方山手により本堂は浦儀左衛門先祖一建立といふ山林二箇所あり境内に石地藏あり 嘉永十一年未五月二日心

○雙鳥

小島二村の坤の方海中にあり島中辨財天の小祠あり

○舊家

其家傳へいふ駿河守忠重五代孫浦野四郎重遠の裔小川又次郎義重の後なり義重美濃國より當國に來り江田浦に住すといふ然れども水火の難に遇ひて文書等紛失して詳ならず 封初以來地主に 命せらる 大慈公の時より大莊屋を勤め代々相續す

○地主

浦 儀八郎

田並浦

多奈美

田畑高 二百五十九石三斗三升三合

家 數 二百三十四軒

人 數 千九十六人

江田浦の巽十六町にあり田並川三前郷峰村南平村界の山より流れ出て田並上村を経て海に入る當村其海口にあり慶長檢地帳に田辨とあり弁を弁と誤り終に轉じて辨と誤れるなり檢地の時までは上村を合せて一箇村なりしに後二箇村となる故に田並の下村ともいひしなり村より江田浦界の磯に田の埒といふ出埒あり

○衣比須社

村端にあり

○圓光寺

寶珠山 禪宗臨濟派京妙心寺末 村中にあり田並上村と持合の寺なり本堂四間半僧坊あり

田並上村

多奈美迦美

田畑高 三百二十四石一升七合

家 數 七十四軒

人 數 三百十二人

田並浦の丑の方八町にあり村居田並川の谷間にありて農事を専とす

○天満宮

末社 若宮 拜殿

田並浦界東の小谷にあり上下二箇村の氏神なり山林あり

有田浦

阿梨駄

田畑高 百七十五石七斗八升四合

家 數 百十九軒

人 數 五百三十七人

田並浦の東二十五町にあり有田川三前郷鶴川村界の山より流れ出て吐生村有田上村を経て當村にて海に入る人家其海口に散在して川口の東に多し

○小祠二社

辨財天社 村中川口にあり

衣比須社 海にあり

○正覺寺

圓明山 淨土宗鎮西派京知恩院末

紀伊續風土記 卷之七十六 牟婁郡 潮塔莊 有田浦 有田上村 吐生村

○地主

深美嘉左衛門

本堂 五間半 僧坊 釣鐘堂

村の長にあり山林一箇所あり

有田上村

阿梨駄加美

田畑高 百五十三石五升九合

家 數 三十二軒

人 數 百五十八人

有田浦の北同し谷にありて人家相接す

○八幡宮

本社三扉 末社 平野明神社

村中にあり有田村上下吐生村の氏神なり

○寶生寺 知足山 禪宗臨濟派京妙心寺末

村中にあり堂三間僧坊あり

吐生村

波夫

田畑高 七十二石八斗三升七合

家 數 十六軒  
人 數 五十五人

有田上村の北村居相接し谷奥にありて小村なり舊は有田上村の分村なり吐生は土生の義なり

○五體王子社 村中にあり

○常明寺 禪宗臨濟派京妙心寺末

村中にあり

東雨村

阿豆麻危

田畑高 二十九石五斗八升

家 數 四軒  
人 數 十五人

有田浦の巽二十六町にあり家數纒に四五軒小谷の中にあり故に今は二部村の小名の如し村の名義詳ならず村領の内海濱の往還に通ず穴といふ岩穴ありて其穴をくぐりて往來す慶長檢地帳には高濱東女村とあり

○明神森 村中にあり社なし

○海門菴 禪宗臨濟派本浦無量寺末村中にあり

二部村

爾夫

田畑高 二百十九石八斗九升三合

家 數 四十二軒  
人 數 百五十四人

東雨村の東六町にあり村居海濱の谷にありて小村なり村名二部は丹生と同一土色に因りて呼名とするなるへし

○鎮守社 村中にあり東雨二部二箇村の氏神なり

○光明寺 照念山 淨土宗鎮西派京知恩院末村中にあり

二色村

爾志幾 小名袋

田畑高 百二十三石六斗七升

家 數 四十軒  
人 數 百八十一人

二部村の東三町餘にあり村居海濱の谷にあり小名袋は本村の巽四町にあり村居本村に勝れり村の西錦崎突出して海に入るここと二十町許村南は串本浦に接して此間徑り十町許長

八王子社 村中にあり

八幡宮 村中にあり

大明神社 村中にあり

○德泉寺 松林山 禪宗臨濟派若山禪林寺末

村中にあり堂五間半四間僧坊あり

○橋杭岩

小名橋杭の東海中にあり又立岩ともいふ陸を去る事二十間を始として順次に海上に立並ふ事實に橋杭を列するか如く海中六七町の間に聯亘す其數總て二十一海底深さ測るへからずして岩の水を出る事三間許より八間許に至るものあり其直立の長さかもふへし杭の相去る間或は七八間或は十間餘布置宜きを得て直立峻拔刀を以て削るか如し眞に鬼工なり相傳へて太古此地より大島へ橋をかけ渡したりし時の橋杭遺りしなりといふ古座浦の古老相傳へていふ先年津浪の時海水一旦沖中に集り大島の邊海水溜れたりしに島の形を望めは其下一面に空隙の所ありて橋杭の上に橋板を置し形ありしといふ然れば上古大島まで陸路の續きしはさ知らず遠くさし出たる地の浪に碎かれて其遺たるを橋杭といふも知るへからず穴門の例もあれば土人の傳へ一粟に虚誕とさひかたし

さ三十町許の間實に袋の形をなして難風の時も浪なく船繋りよし袋又二色の袋とも呼へり村名二色の二は二部の二と同しく丹の義ならん

○木葉神森 村中にあり稻荷を祀るさいふ氏神なり社なし

○寶雲寺 南明山 禪宗臨濟派江田浦海藏寺末

堂 五間 僧坊

村中にあり

閑野川村

久自農加波 小名橋杭

田畑高 三百七十六石二斗七升六合

家 數 八十四軒  
人 數 三百八十八人

二色村の小名袋の長二十一町にあり谷狭くして溪流袋に至りて海に入る當村大邊路往還なれども此道峻くして往來少く旅人皆小名橋杭の方を往來す小名橋杭は本村の巽十七八町にあり村居海に而して大島に向へり橋杭の名は立岩より起る下に詳なり

○小祠三社

串本浦

久志毛登

田畑高 百六十八石七斗六升八合  
家 數 三百五十軒  
人 數 千四百四十二人

二色村の異二十五町にあり二色の小名袋と海灣を界す東は海を界して大島に向ふ此浦より坤五十町許にさし出たるを潮御崎といふ浦の名義は御崎に越す本の義なり土地廣くして家數多く漁事を専とす東西兩面に海をうけたれば漁事の利多くして漁者に富豪の者少からず潮風甚烈しき地なれば戸々に寒竹を植えて各一區をしめ家居普通の漁村と異なり

○本宮

境内周三十八間

祀神 住吉明神 三社合殿 表行一丈 拜殿  
少彦名命 熊野權現 五尺餘

村中字笠島にあり大島出雲串本三箇村の氏神にして新宮の末社なり土人鹽崎本宮といふ御崎明神の古の社地にて此より今の御崎の地へ遷坐し給ふ故に本の宮といふ今御崎明神は一社なるに當社は三社なるを以て或説には住吉三所と

田畑高 八十五石一斗五升三合  
家 數 九十三軒  
人 數 四百六人

串本浦の未の方二十二町上野浦の東四十町にあり出雲の名義詳ならず出雲の文字に據れば伊豆毛と稱ふへきに伊都毛と清音に稱ふるときは出雲の義にはあらざるへし

○浅木明神社

社地除地

村中濱手にあり祀る神詳ならず土人は伊勢大神宮の攝社磯邊の神を祀るといふ本社は西半町許に末社愛宕社あり神主あり峰山氏といふ

○觀福寺 山雲山 神宗臨濟派奥熊野大田莊和田村大泰寺末  
本堂 五間 藥師堂 僧坊

○狼烟場

村の午未の間出雲崎といふ所にあり

○地土

後藤半兵衛

上野浦

宇通能

し又熊野三所權現とす今按するに中央の社は御崎明神にして即少彦名命一社は住吉三所一社は熊野三所なるへし住吉は海を守り給ふに依りて勸請し熊野は中世此邊那智の神領なるに依りて祀れるならん今これを定説とす又或はいふ初に祀る所の少彦名神は潮御崎に遷し其舊地に熊野三所權現を祀れるならんといふ然れども他所に本宮と唱ふる例多し皆本の神を祭る寛文記には唯本の神一座とす因りて前説を是とすへし神領昔は高七段ありしに天正亂後淺野家の時より今に至りて神領二石を寄せらる

神主

小原右近

○無量寺 鑿江山 禪宗虎關派京東福寺末

本堂 七間半 觀音堂 僧坊 鐘樓堂

村中にあり山林二箇所あり

○地土三人

矢倉直藏  
神田佐七  
田島平六

出雲浦

伊都毛

田畑高 百八十二石八斗四升三合  
家 數 百四十五軒  
人 數 九百十八人

串本浦の未の方三十二町にあり民家所々に散在す村より御崎まで八町許此地串本浦より坂道登り四町許夫より御崎まで土地平坦にして高き所にあるを以て上野の名あり此所本國の極南にして上野の地別に南の方面に出ること一里餘和深浦江住浦の邊よりこれを望めは海中に長堤を築くか如し村の東に當りて出雲浦東に張り出て大抵東西の廣さも一里に近し然して串本浦より坂道の登る所廣さ僅に三四町形瓢箪の約あるか如し奇形といふへし其四方海に臨む處皆絶巖削るか如し南濱に臨める地なれば風も烈き事なれども南方陽の方なれば地勢平温和柔にして北方猛烈の氣に似す但土地高平なるを以て水に乏く村民井を鑿りて水を得かた小谷より注ぎ出る水を汲みて朝夕に供すといふ

○御崎大明神社

境内周八町

本社 祀神 少彦名命 五尺 四尺四寸  
末社 高御産靈神社 向拜出端四尺五寸  
大神宮石寶殿 大己貴命石寶殿

拜殿 御供所



村の坤八町許潮御埼にありて周參見莊周參見浦より三前郷津荷村まで海濱十八箇村の總産土神なり串本浦笠島といふ地に本宮と稱ふる神社あり是御埼明神の舊地にしてこれより今の地に遷し奉るといふ其年月詳ならず社領高二石七斗四升七合あり日本書紀曰其後少彥名命行三至熊野之御埼一適於常世郷矣とあり此地少彥名神の周旋し給へる地なるを以て此地に鎮坐し給へるなり一説日本紀の熊野御埼は山雲國なりといへり社殿の寶物書寫の大般若經六百卷あり卷尾に御埼之寶經永享六三月十三日と書す那智山の末社なり

神主 鹽崎氏

○高松寺 上野山 禪宗臨濟派新宮宗應寺末

村中にあり舊は長松寺といふ正徳年間今の名に改む堂五間僧坊あり

○潮御埼

當浦居の西南八町はかり御埼明神在す所の邊を迂まがりいふ名なり又潮崎浦ともいふ此所本國の極南の出埼にして西の方は天氣明朗の時は阿波土佐の島雲中に隠々たるを見るへし南の方は大瀛に對して其際涯を視す萬國輿地圖を閲るに吾國の南唯大瀛にして國あることを書さず然らば則此地唯

皇國の極南のみならず萬國東南の極といふへし其西南の海岸風濤に衝擊せられ石巖悉碎壞して殘れるもの異態怪狀磊々落落たるもの皆巖骨なり風濤少起れば洄湧澎湃騰奔激の勢神を托し魂を削りて久く視るへからす御埼の下に一島外道島鈴島米粒島などいふあり皆大巖の海岸にあるをいふなり米粒岩の邊海底深さ測るへからす此處を大罾の淵數とす常に數十頭群をなす皆香船のものなり漁師魚を得る事多き時はこれを呑んとして追ひ來る事ありこの難をまぬかる仕方は得る所の魚を二頭つゝ尾を縛り合せ船をやる事矢の如くにして其得る所の魚を海中に投入れ且走り且投げ數十頭を投入るゝ間に漸浦邊に近くなれば此難を遁るといふ○又口和深村三石の條に書し海潮上り下りの事此御埼其勢最盛にして廻船の者甚これを恐れ常に潮間を窺ひて通行すといふ潮の上下につきて一異事あり下り潮の時御埼の邊にて海中に没溺する者あれば潮留りて往かす此時土人御埼明神にて湯立をなして神に祈れば忽奮の如く下り潮となる此事常々ありて其靈應著明し上り潮の時は此事なしといふ此亦一奇なり○又書紀 仁徳天皇の皇后熊野岬に至り御網葉を採り給ふ事あり其文左に載す書紀 仁徳天皇三十年秋

九月乙卯朔乙丑 皇后遊行紀伊國到熊野岬即取其處之御網葉而還於是日 天皇伺 皇后不許在而娶八田ノ皇女ニ納於宮中一時 皇后到難波濟開 天皇

合ニ八田皇女ニ而大恨之則其所採御網葉ヲ投於海ニ而不著岸故時人號散葉之海曰葉濟也と見たり御網葉古書に載する所形狀をいはす中古より今に至りては諸説紛々としての當の説なし按するに本國及和泉伊勢

志摩其餘南方の海近き地に産する一種の樹あり俗にみつて柏といふものゝ屬にして樹高大になり葉甚厚く硬くして滑澤あり葉面深緑にして背淡し大さ三四寸許形みつて柏の如く缺刻深からず聞くして三尖あり故にみつて柏に對して圓みつてといふ夏月の頃小白花聚り開き秋に至り黒き實を結ふ此葉四時凋落せず葉心圓みやすく物を盛によしこれ眞の三角柏なる事疑なし此木此地に多く生す土人みつ木といふ今俗に三角柏といふ木あれども其木は十月頃には落葉すれば昔紀の文にひびくたぐ願なり○又續日本紀に天平勝

寶六年吉備朝臣眞備船自益久島進發漂蕩着紀伊國牟婁崎とあり奥熊野太地浦に牟婁崎の名あるときは即其地なるへし然れども此所南海に突出たれば南海に漂流する者多く此に着す今も猶異國船時々此地に漂着する事あれ

は吉備公の漂着せしも或は此地なるも知るへからす姑疑を存すといふ詳に太地の條下に出たり

○遠見番所 村の南五町許出埼にあり

○浪浦 村の巽に浦をなす所なり人家より八町はかり隔たれども漁船を此所に置きて漁事をなす其地に納屋を建るまでにて人家なし

○地士 鈴木喜平次

姫村

比 免

田畑高 八十一石一斗三升五合  
家 數 四十五軒  
人 數 二百二人

閨野川村の東十五町にあり村の北山を隔て、姫川村あり産土神社菩提寺共に姫川村と同じければ當村は姫川村より開きしならむ姫の名義を考ふるに近郷に重山といふありて瀧姫神社鎮り坐せり其山より出る谷川なるを以て姫川といひ

此村其姫川村より出たる村なれば姫村といふなるへし

○天神社 村の乾山手あり 一村の産土神なり

○海林菴 禪宗臨濟派三前郷高川原村祥源寺末

村中にあり山林一箇所あり堂五間半僧坊等あり

○小白石

海邊に産す白色の小石にて水晶の如く瑩徹するもの交れり

當浦の名産とす

姫川村

比呂賀渡

田畑高 十五石七斗六升四合

家 數 六軒

人 數 二十三人

姫川の北十二町許にあり家數纔に五六軒に過ぎず谷狭くして極めて貧村なり海邊に出て漁事をなせる者は姫村に出て別に一村となれるならむ

○三寶荒神社 村の乾山端にあり姫川村 姫村兩所の産土神なり

伊串村

伊久志

田畑高 八十三石六斗六升四合

家 數 四十六軒

人 數 百九十七人

姫川の東七町にありて村居海に面す村名は慶長檢地帳に生死とあり其義詳ならず

○伊串神社

村中にあり祀神牛頭天王といふ拜殿あり

○海藏寺 金龍山 禪宗曹洞派奥能野有馬莊口有馬村安樂寺末

村中にあり玄清法印といふ者開基すといひ傳ふ堂五間僧坊等あり

○衣比須社 渡邊にあり

○伊串川

源は村の北重山より流れ出て村中を経て海に入る上流に七珍寶といふ七八間の瀧あり

紀伊續風土記第二輯終

明治四十三年八月十日印刷

明治四十三年八月廿五日發行

第二輯

編纂兼 發行者

和歌山縣神職取締所

京都市下京區三條通御幸町辨慶石町

印刷者

大谷 仁 兵衛

發行所

京都市下京區三條通御幸町五十四番地

帝國行政學會出版部

2410

